

男 女 共 同 参 画 に 関 す る
住 民 意 識 調 査
報 告 書

令和7年3月

斑 鳩 町

－目 次－

I	調査概要	1
1	調査目的	1
2	調査設計	1
3	回収状況	1
4	報告書を見る際の注意事項	1
II	調査結果	3
1	回答者属性	3
2	社会における制度・慣行等について	9
3	生活・仕事について	33
4	男女の人権について	54
5	男女共同参画社会の実現に向けて	71
6	自由意見	84
III	資料編（経年比較、国・県との比較）	85
1	回答者属性	85
2	社会における制度・慣行等について	89
3	生活・仕事について	104
4	男女の人権について	114
IV	資料編（調査票様式）	126

I 調査概要

1 調査目的

本調査は、男女平等や男女共同参画についての住民の意見を把握し、「第4次斑鳩町男女共同参画推進計画」策定の基礎データとするとともに、今後の男女共同参画施策推進のための基礎資料とすることを目的とする。

2 調査設計

調査対象	調査期間	調査方法
斑鳩町在住の18歳以上の住民 (※住民基本台帳登録者による無作為抽出)	令和6年9月30日～ 令和6年10月18日	郵送配布・ 郵送及びWEB回収

3 回収状況

配布数	有効回収数	有効回収率
1,000件	438件	43.8%

4 報告書を見る際の注意事項

- 図中のN (Number of case) は、設問に対する回答者数のことである。
- 回答比率(%)は回答者数(N)を100%として算出し、小数点以下第2位を四捨五入して表示しており、その結果、内訳の合計が計に一致しないことがある。また、複数の回答を求める設問では、回答比率(%)の計は100.0%を超える。
- 図中に次のような表示などがある場合は、複数回答を依頼した質問である。
 - ・MA% (Multiple Answer) : 回答選択肢の中からあてはまるものをすべて選択する場合
 - ・3LA% (3 Limited Answer) : 回答選択肢の中からあてはまるものを3つ以内で選択する場合
- 本文中の設問の選択肢について、長い文は簡略化している場合がある。
- 回答者数(N)が少数となる場合は参考までに数値を見るにとどめ、結果の利用には注意が必要である。
- 回答者数(N)が10未満の場合、分析の対象外としている。
- 「内閣府(R6)」と「内閣府(R4)」は、内閣府が令和6年と令和4年に実施した「男女共同参画社会に関する世論調査」を指します。なお、グラフ内の数値は「世論調査報告書」(内閣府)を加工して作成しています。
- 「内閣府(R6)」出典
https://survey.gov-online.go.jp/women_empowerment/202502/r06/r06-danjo/
- 「内閣府(R4)」出典
<https://survey.gov-online.go.jp/r04/r04-danjo/#T2>

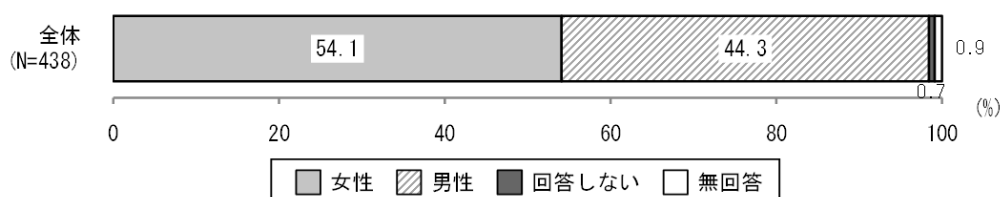
Ⅱ 調査結果

1 回答者属性

(1) 性別

問1 あなたの性別を教えてください。＜○は1つ＞

【図 1-1 性別】

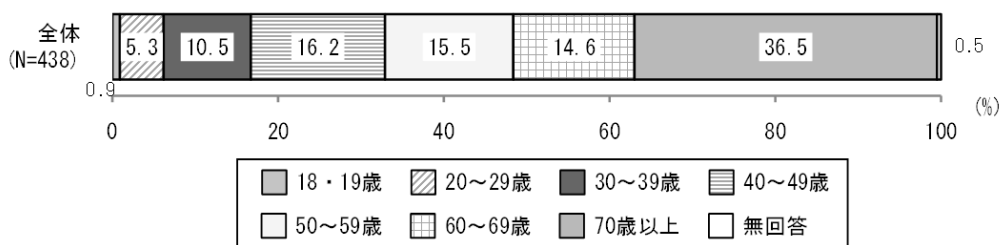


回答者の性別は、「女性」が54.1%、「男性」が44.3%、「回答しない」が0.7%となっている。

(2) 年齢

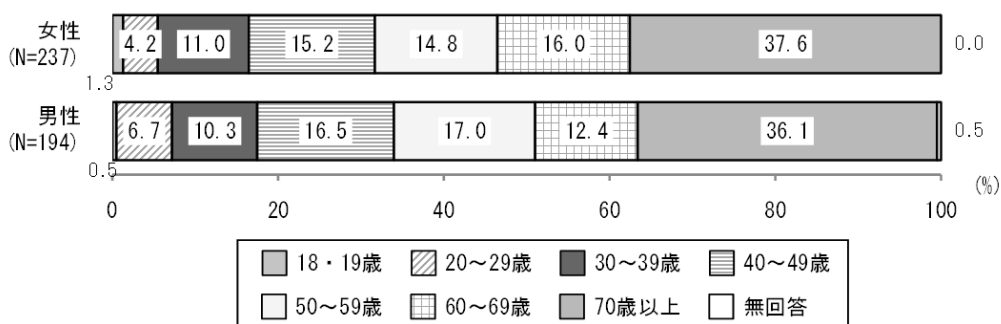
問2 あなたの年齢はおいくつですか。(10月1日現在の満年齢でお答えください)
＜○は1つ＞

【図 1-2 年齢】



回答者の年齢は、「70歳以上」が36.5%と最も多く、次いで「40～49歳」が16.2%、「50～59歳」が15.5%となっている。

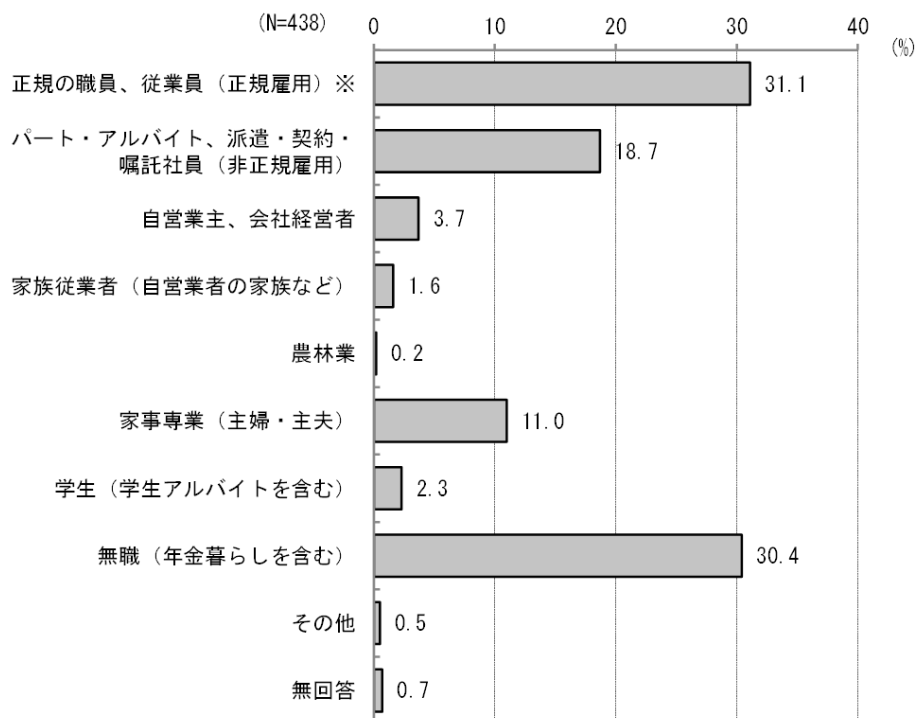
【図 1-2-1 年齢（性別）】



(3) 職業

問3 あなたの現在のご職業について、次のどれにあてはまりますか。＜○は1つ＞

【図 1-3 職業】



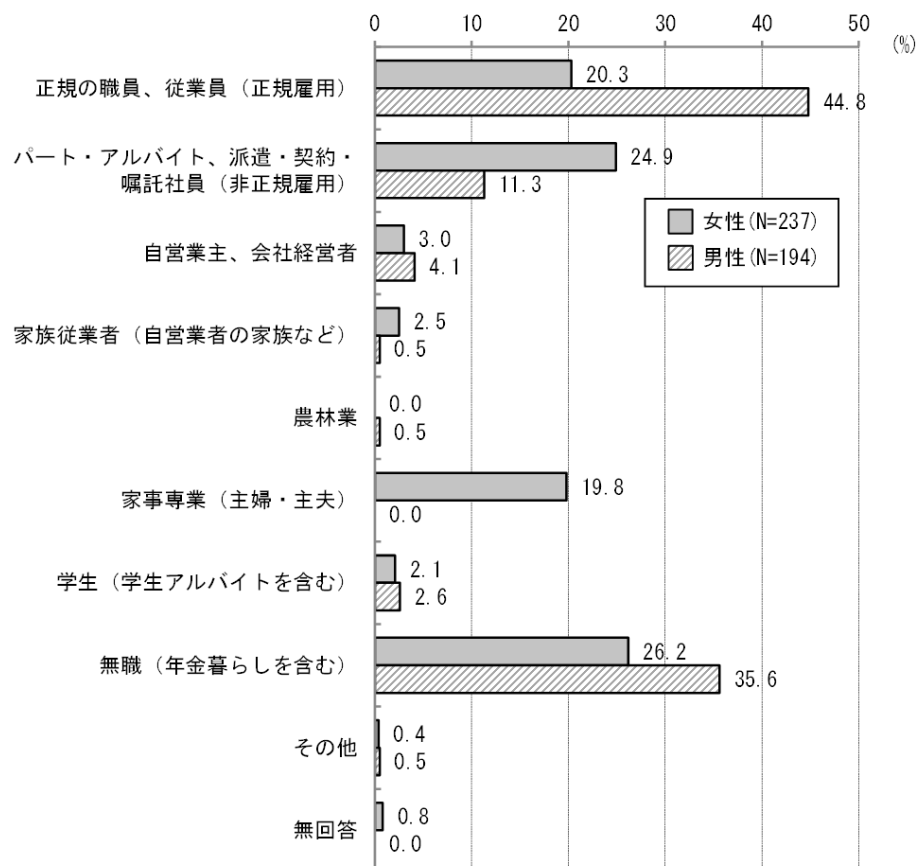
※現在、育児や介護などで休職中の場合も含まれます

回答者の職業は、「正規の職員、従業員(正規雇用)」が31.1%と最も多く、次いで「無職(年金暮らしを含む)」が30.4%、「パート・アルバイト、派遣・契約・嘱託社員(非正規雇用)」が18.7%となっている。

『働いている』（「正規の職員、従業員(正規雇用)」+「パート・アルバイト、派遣・契約・嘱託社員(非正規雇用)」+「自営業主、会社経営者」+「家族従業者(自営業者の家族など)」+「農林業」)は55.3%となっている。

一方、『働いていない』（「家事専業(主婦・主夫)」+「学生(学生アルバイトを含む)」+「無職(年金暮らしを含む)」)が43.7%となっている。

【図 1-3-1 職業（性別）】



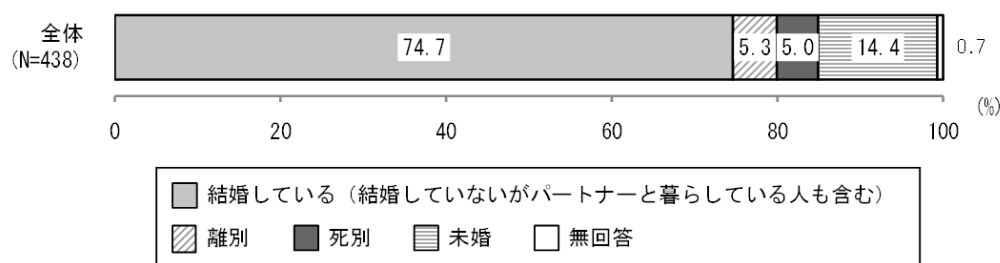
性別に職業をみると、女性では「無職（年金暮らしを含む）」が26.2%と最も多く、次いで「パート・アルバイト、派遣・契約・嘱託社員（非正規雇用）」が24.9%となっている。「正規の職員、従業員（正規雇用）」は女性で20.3%に対し、男性で44.8%と最も多い。

（４）婚姻状況及び配偶者の職業

■婚姻状況

問４ あなたは結婚されていますか。＜○は１つ＞

【図 1-4 婚姻状況】



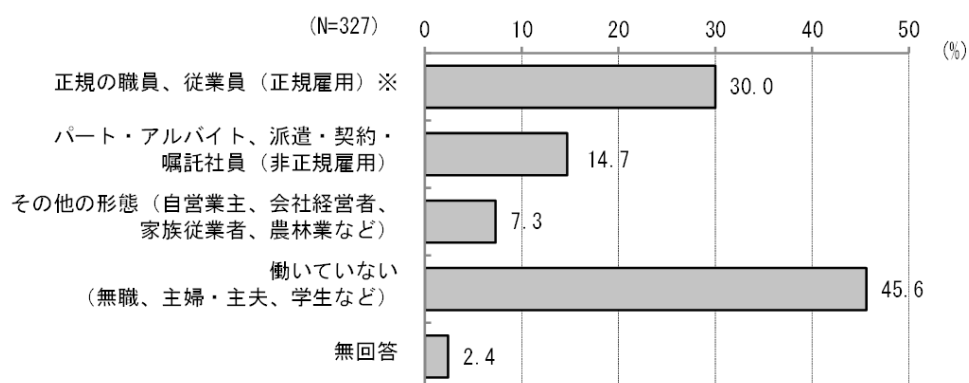
婚姻状況について、「結婚している（結婚していないがパートナーと暮らしている人も含む）」が74.7%と最も多く、次いで「未婚」が14.4%、「離別」が5.3%、「死別」が5.0%となっている。

■配偶者（パートナー）の職業

問４で「結婚している（結婚していないがパートナーと暮らしている人も含む）」と回答した方にお聞きします。

問４－１ 配偶者（パートナー）のご職業は、次のどれにあてはまりますか。
＜○は１つ＞

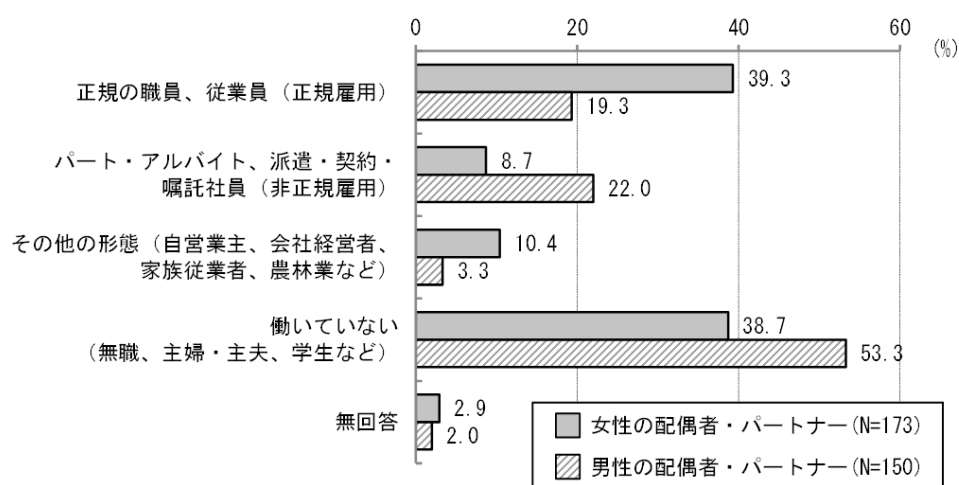
【図 1-5 配偶者（パートナー）の職業】



※現在、育児や介護などで休職中の場合も含まれます

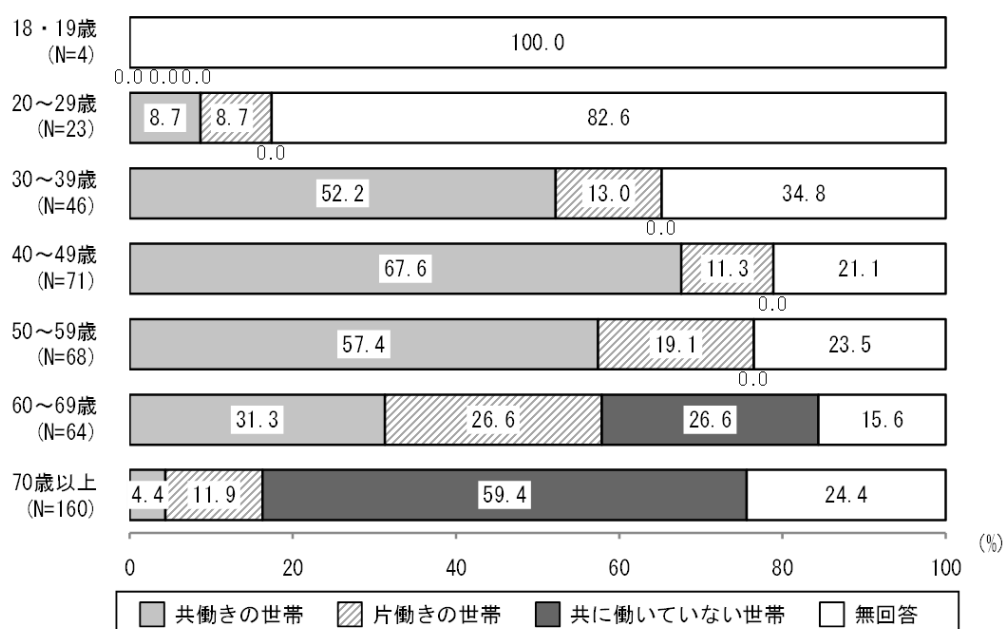
結婚している（パートナーと暮らしている）と回答した人に、配偶者（パートナー）の職業をたずねたところ、「働いていない（無職、主婦・主夫、学生など）」が45.6%と最も多く、次いで「正規の職員、従業員（正規雇用）」が30.0%、「パート・アルバイト、派遣・契約・嘱託社員（非正規雇用）」が14.7%となっている。

【図 1-5-1 配偶者（パートナー）の職業（性別）】



性別に配偶者（パートナー）の職業をみると、「働いていない（無職、主婦・主夫、学生など）」は女性の配偶者（パートナー）で 38.7% に対し、男性の配偶者（パートナー）で 53.3% となっている。一方、働いている場合では、女性の配偶者（パートナー）で「正規の職員、従業員（正規雇用）」が 39.3%、男性の配偶者（パートナー）で「パート・アルバイト、派遣・契約・嘱託社員（非正規雇用）」が 22.0% とそれぞれ多くなっている。

【図 1-5-2 共働きの状況（年齢別）】

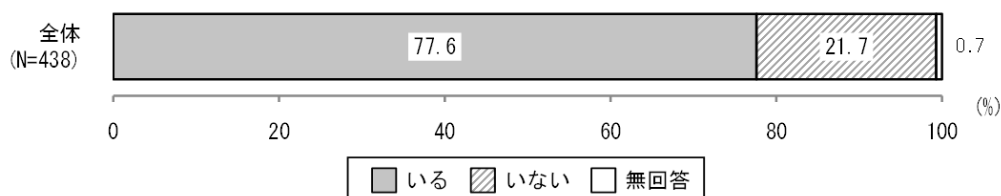


（回答者の）年齢別に共働きの状況をみると、30～59 歳の各年齢層で「共働きの世帯」が過半数を占め、40～49 歳では 67.6% と多い。

（５）子どもの有無

問５ あなたには、お子さんがいらっしゃいますか。（※現在別居している場合も含みます）＜○は１つ＞

【図 1-6 子どもの有無】

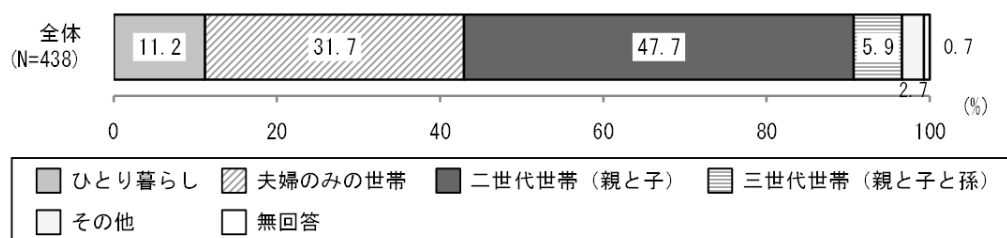


（別居を含め）子どもが「いる」は77.6%、「いない」は21.7%となっている。

（６）家族構成

問６ 現在、あなたはどなたと一緒に住んでいますか。＜同居されている方すべてに○＞
※あなたからみた続柄（義理関係を含む）でお答えください。

【図 1-7 家族構成】



※ “同居家族” の回答から家族構成に分類

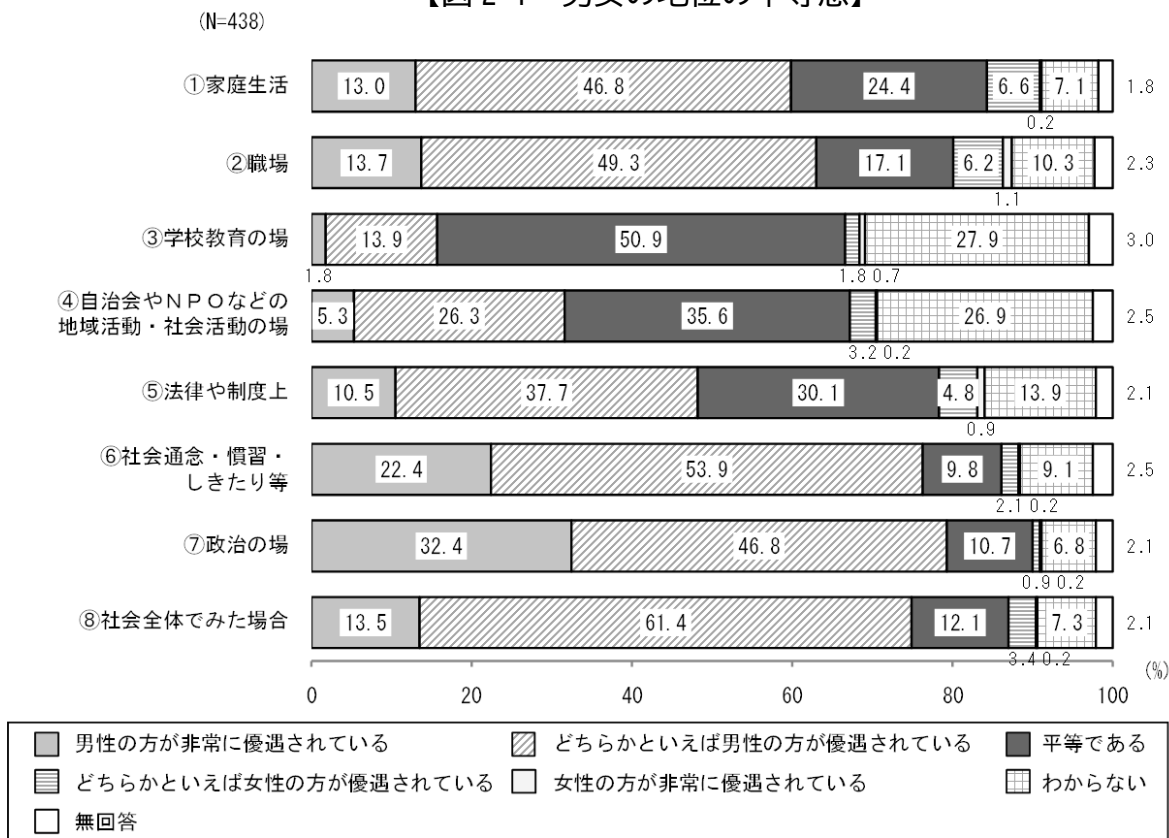
家族構成は、「二世帯世帯（親と子）」が47.7%と最も多く、次いで「夫婦のみの世帯」が31.7%、「ひとり暮らし」が11.2%となっている。

2 社会における制度・慣行等について

(1) 男女の地位の平等感

問7 現在の日本の社会において、男女の地位は平等になっていると思いますか。
 <①～⑧の項目ごとに○はそれぞれ1つずつ>

【図 2-1 男女の地位の平等感】

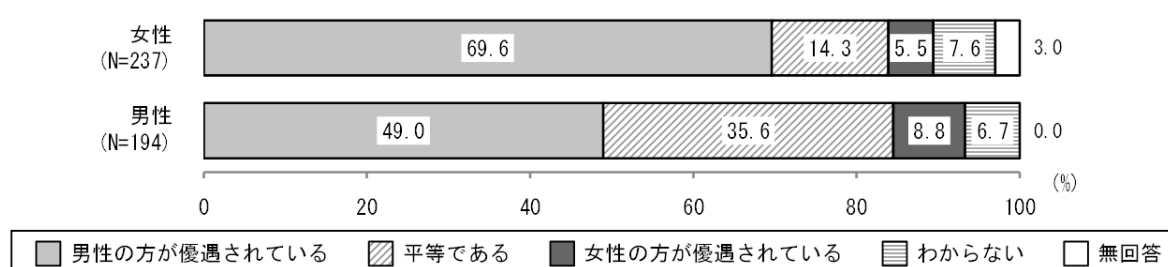


男女の地位は平等になっていると思うかたずねたところ、『男性の方が優遇されている』（「男性の方が非常に優遇されている」＋「どちらかといえば男性の方が優遇されている」）は、“⑦政治の場”“⑥社会通念・慣習・しきたり等”“⑧社会全体でみた場合”で7割を占めている。一方、「平等である」は、“③学校教育の場”が50.9%と最も多い。

※以下の性別、年齢別（9頁～16頁）の集計では、一部選択項目を合算した形で表記している。

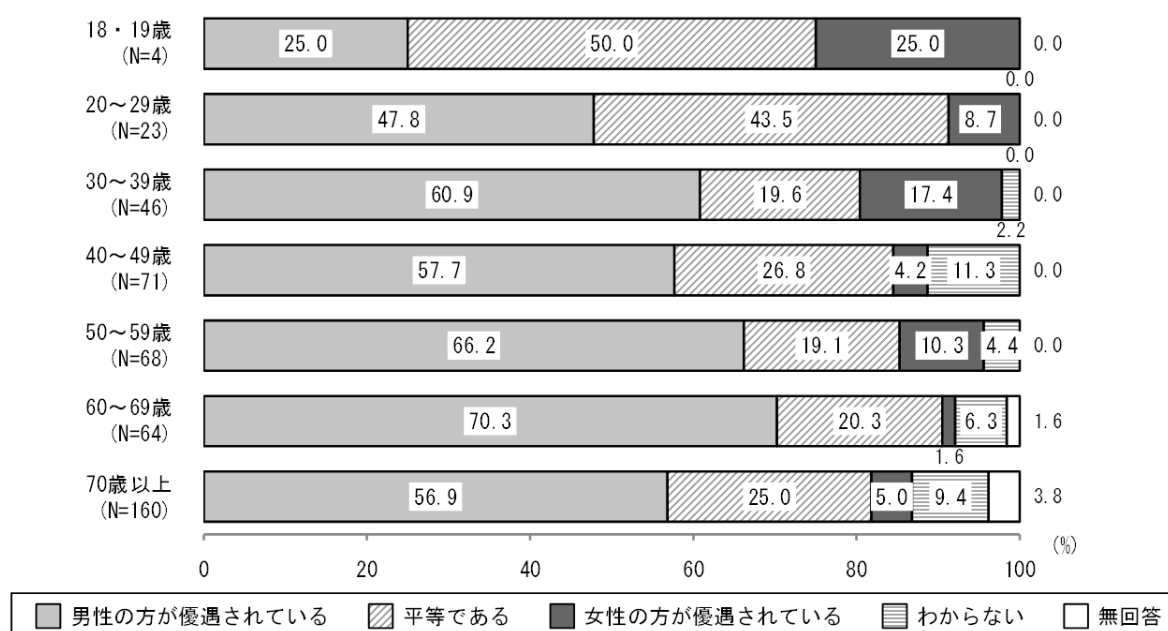
- ・「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の計を「男性の方が優遇されている」と表記
- ・「女性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の計を「女性の方が優遇されている」と表記

【図 2-1-1 男女の地位の平等感 “①家庭生活”（性別）】



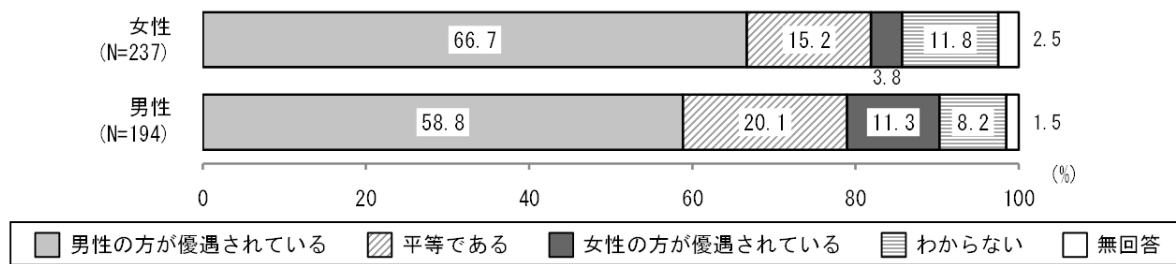
性別に“家庭生活”の平等感をみると、「男性の方が優遇されている」は女性で69.6%と男性（49.0%）より20.6ポイント高くなっている。

【図 2-1-2 男女の地位の平等感 “①家庭生活”（年齢別）】



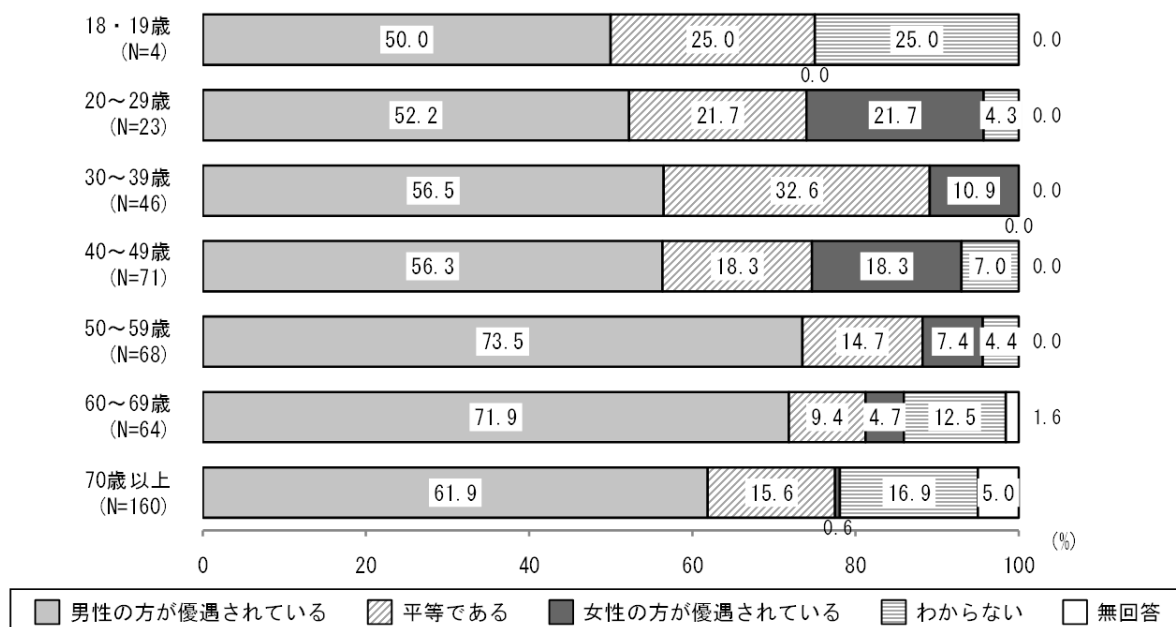
年齢別に“家庭生活”の平等感をみると、「男性の方が優遇されている」は60～69歳で70.3%と他に比べて高い。

【図 2-1-3 男女の地位の平等感 “②職場”（性別）】



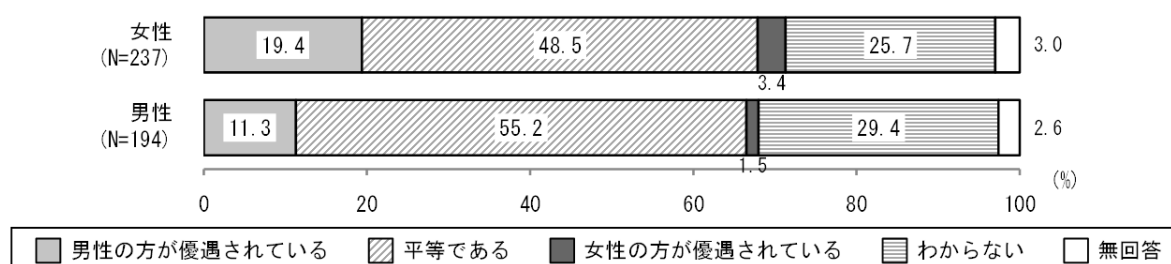
性別に“職場”の平等感をみると、「男性の方が優遇されている」は女性で66.7%と男性(58.8%)より7.9ポイント高くなっている。

【図 2-1-4 男女の地位の平等感 “②職場”（年齢別）】



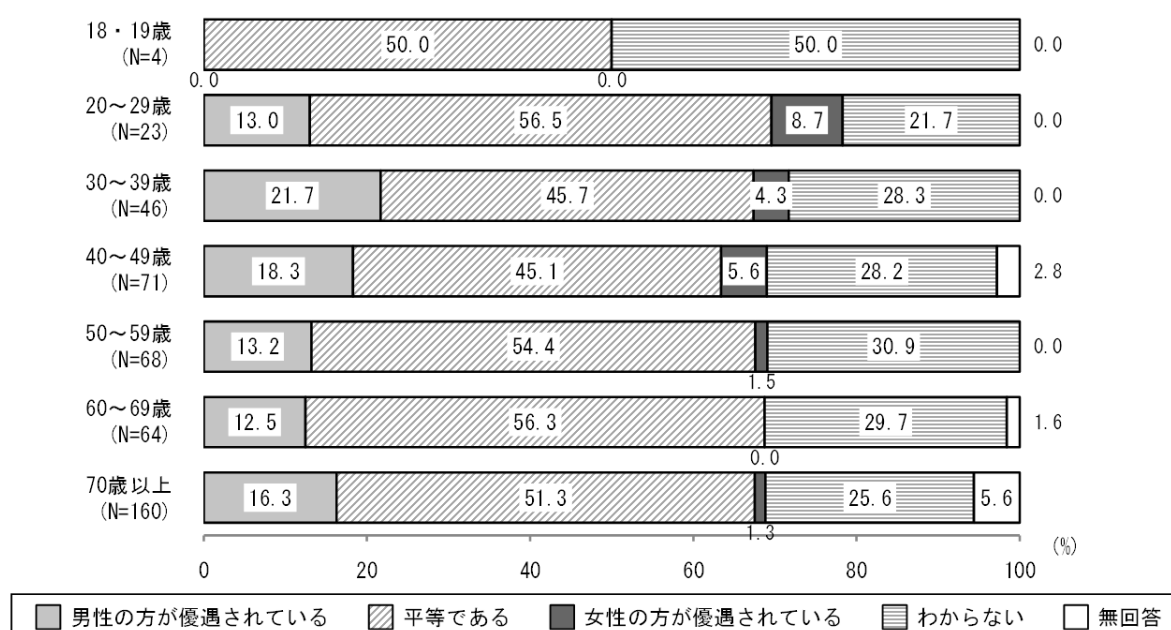
年齢別に“職場”の平等感をみると、「男性の方が優遇されている」は50～59歳、60～69歳で7割を占めている。一方、「平等である」は30～39歳で32.6%と他に比べて高い。

【図 2-1-5 男女の地位の平等感 “③学校教育の場”（性別）】



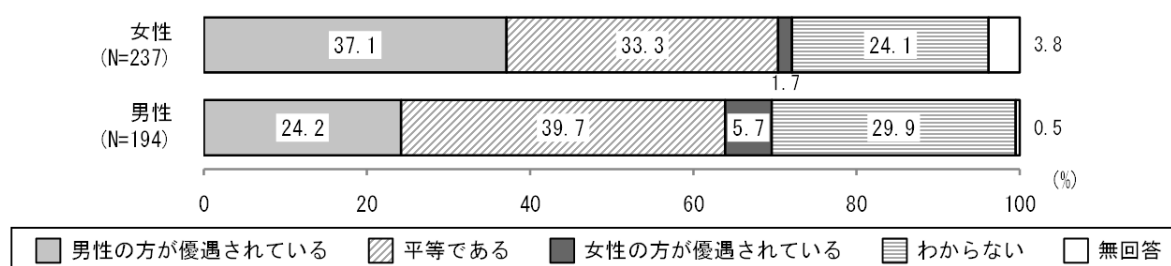
性別に“学校教育の場”の平等感をみると、「男性の方が優遇されている」は女性で19.4%と男性（11.3%）より8.1ポイント高くなっている。

【図 2-1-6 男女の地位の平等感 “③学校教育の場”（年齢別）】



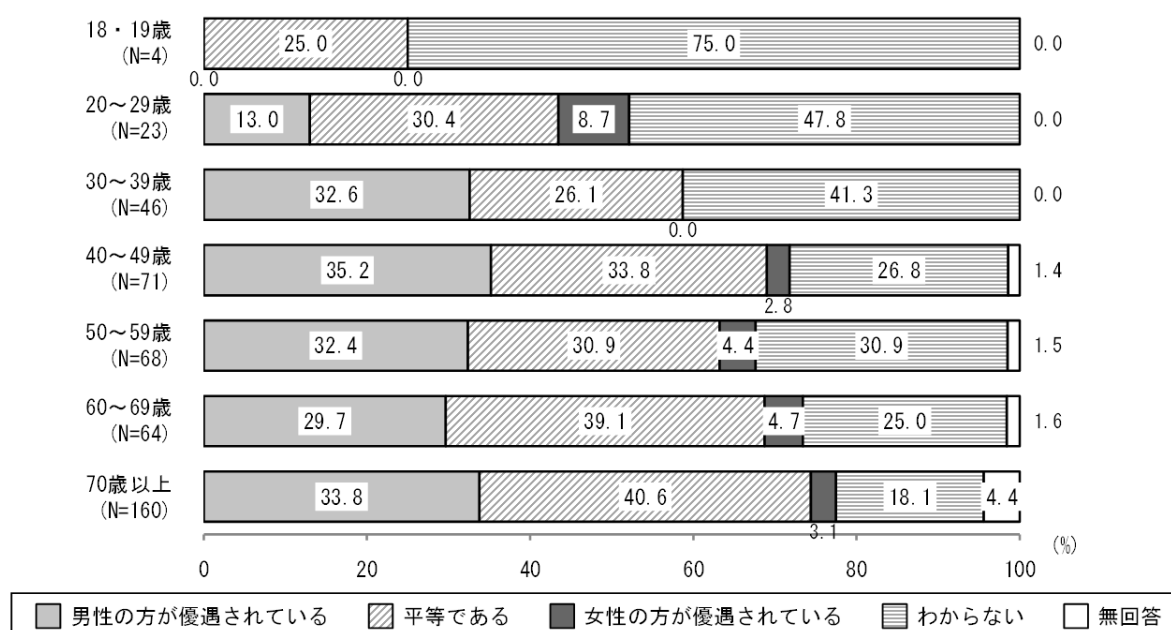
年齢別に“学校教育の場”の平等感をみると、いずれも「平等である」が5割前後を占めている。

【図 2-1-7 男女の地位の平等感
“④自治会やNPOなどの地域活動・社会活動の場”（性別）】



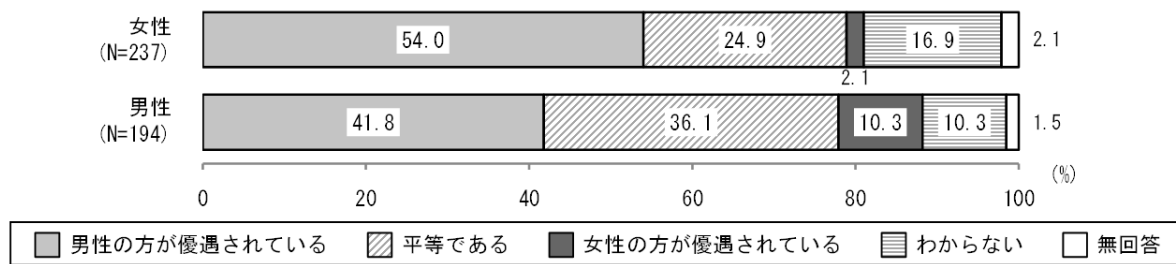
性別に“自治会やNPOなどの地域活動・社会活動の場”の平等感をみると、「男性の方が優遇されている」は女性で 37.1%と男性（24.2%）より 12.9 ポイント高くなっている。

【図 2-1-8 男女の地位の平等感
“④自治会やNPOなどの地域活動・社会活動の場”（年齢別）】



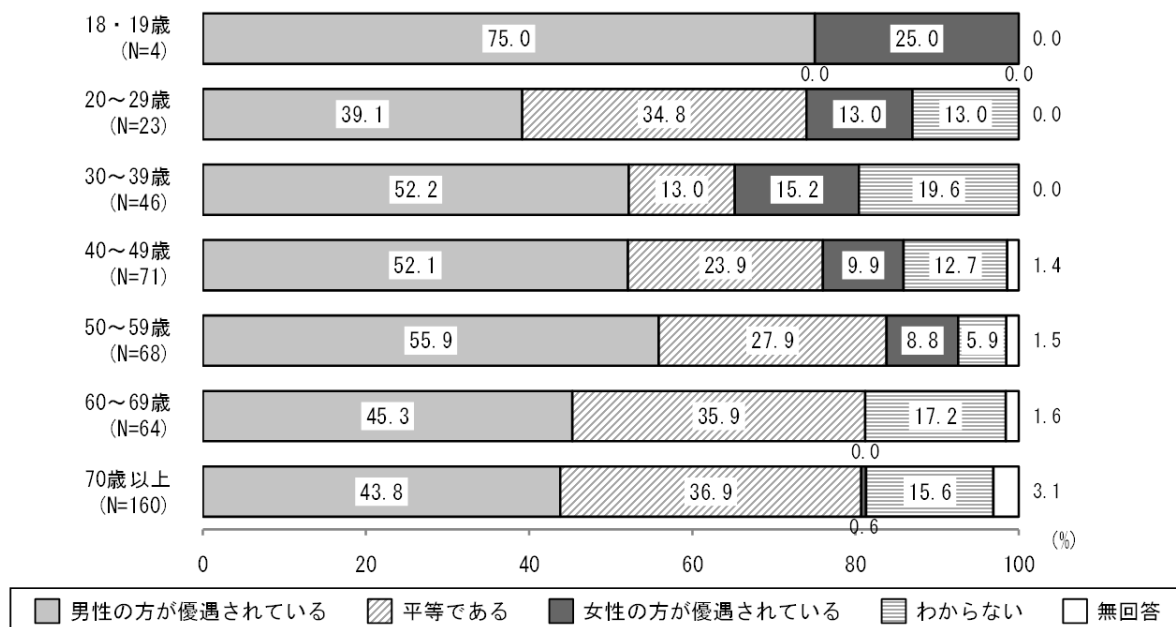
年齢別に“自治会やNPOなどの地域活動・社会活動の場”の平等感をみると、30～59歳の各年齢層で「男性の方が優遇されている」が3割を占め、最も多くなっている。

【図 2-1-9 男女の地位の平等感 “⑤法律や制度上”（性別）】



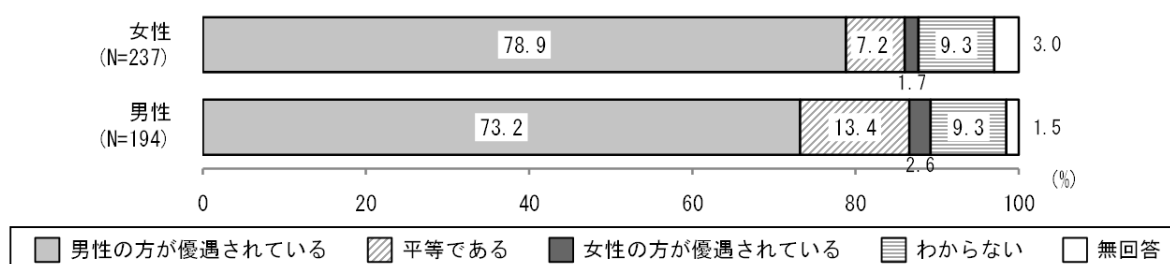
性別に“法律や制度上”の平等感をみると、「男性の方が優遇されている」は女性で 54.0% と男性（41.8%）より 12.2 ポイント高くなっている。

【図 2-1-10 男女の地位の平等感 “⑤法律や制度上”（年齢別）】



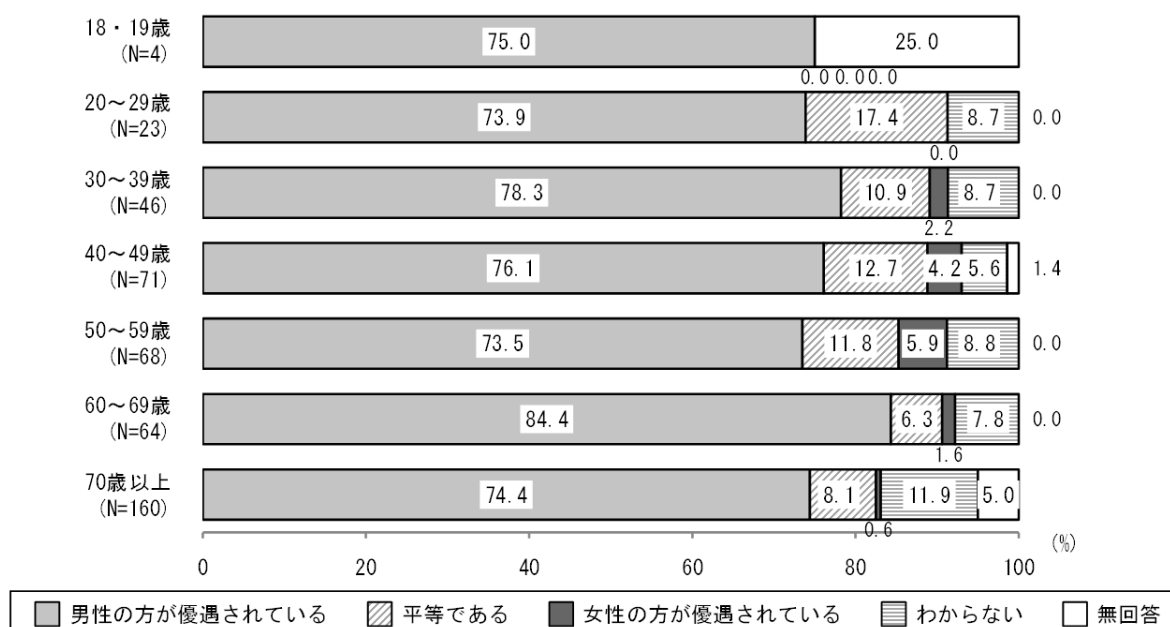
年齢別に“法律や制度上”の平等感をみると、いずれも「男性の方が優遇されている」が最も多く、30～59歳の各年齢層では過半数を占めている。

【図 2-1-11 男女の地位の平等感 “⑥社会通念・慣習・しきたり等”（性別）】



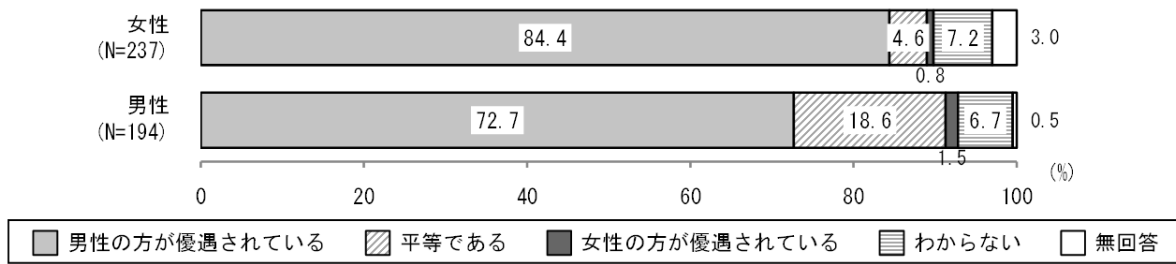
性別に“社会通念・慣習・しきたり等”の平等感をみると、男女ともに「男性の方が優遇されている」が7割を占めて最も多く、女性の方が5.7ポイント高くなっている。

【図 2-1-12 男女の地位の平等感 “⑥社会通念・慣習・しきたり等”（年齢別）】



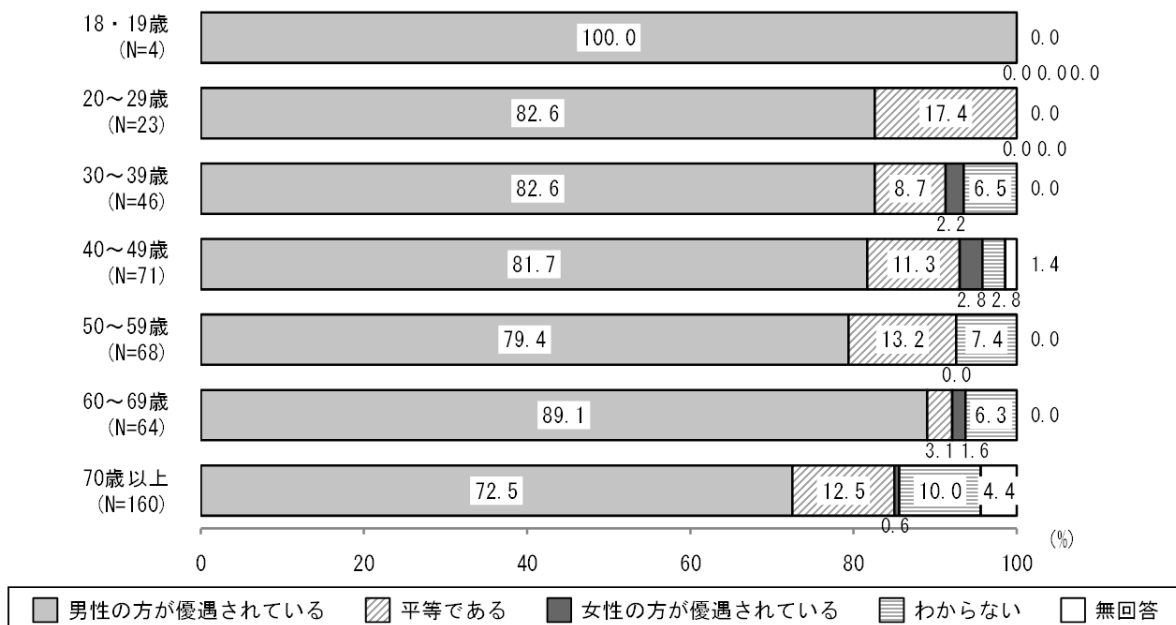
年齢別に“社会通念・慣習・しきたり等”の平等感をみると、60～69歳で「男性の方が優遇されている」が84.4%と他に比べて高い。

【図 2-1-13 男女の地位の平等感 “⑦政治の場”（性別）】



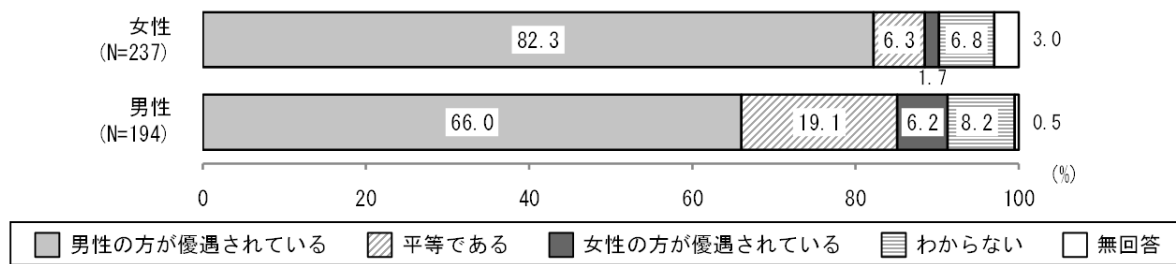
性別に“政治の場”の平等感をみると、「男性の方が優遇されている」は女性で84.4%と男性（72.7%）より11.7ポイント高くなっている。

【図 2-1-14 男女の地位の平等感 “⑦政治の場”（年齢別）】



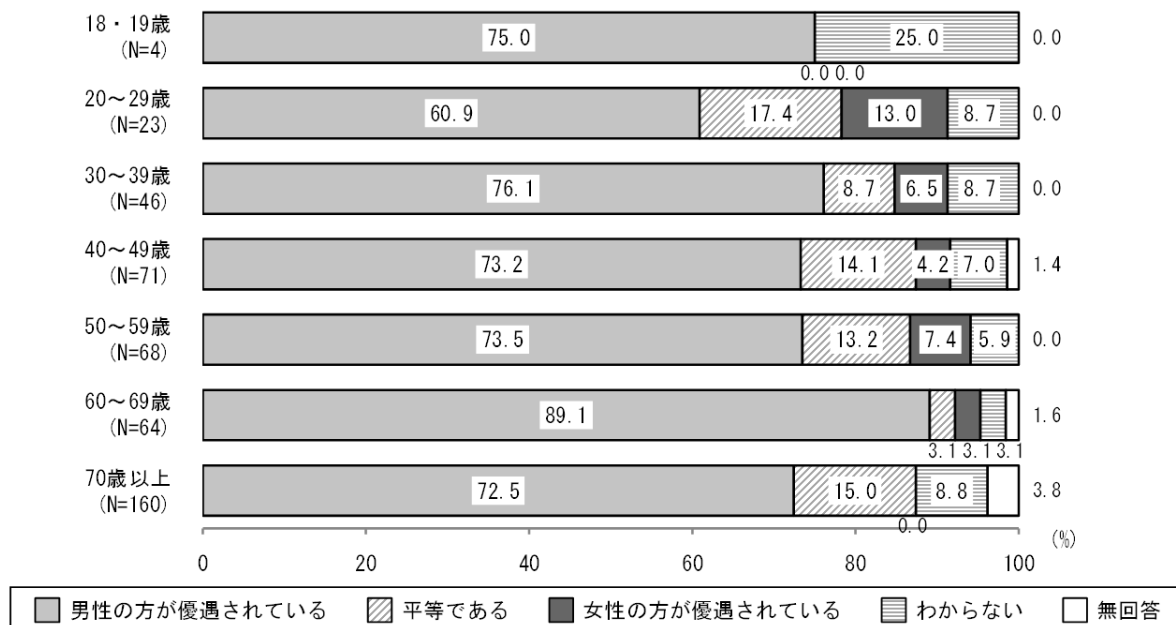
年齢別に“政治の場”の平等感をみると、いずれも「男性の方が優遇されている」が8割前後を占めている。

【図 2-1-15 男女の地位の平等感 “⑧社会全体で見た場合”（性別）】



性別に“社会全体で見た場合”の平等感をみると、「男性の方が優遇されている」は女性で82.3%と男性（66.0%）より16.3ポイント高くなっている。

【図 2-1-16 男女の地位の平等感 “⑧社会全体で見た場合”（年齢別）】

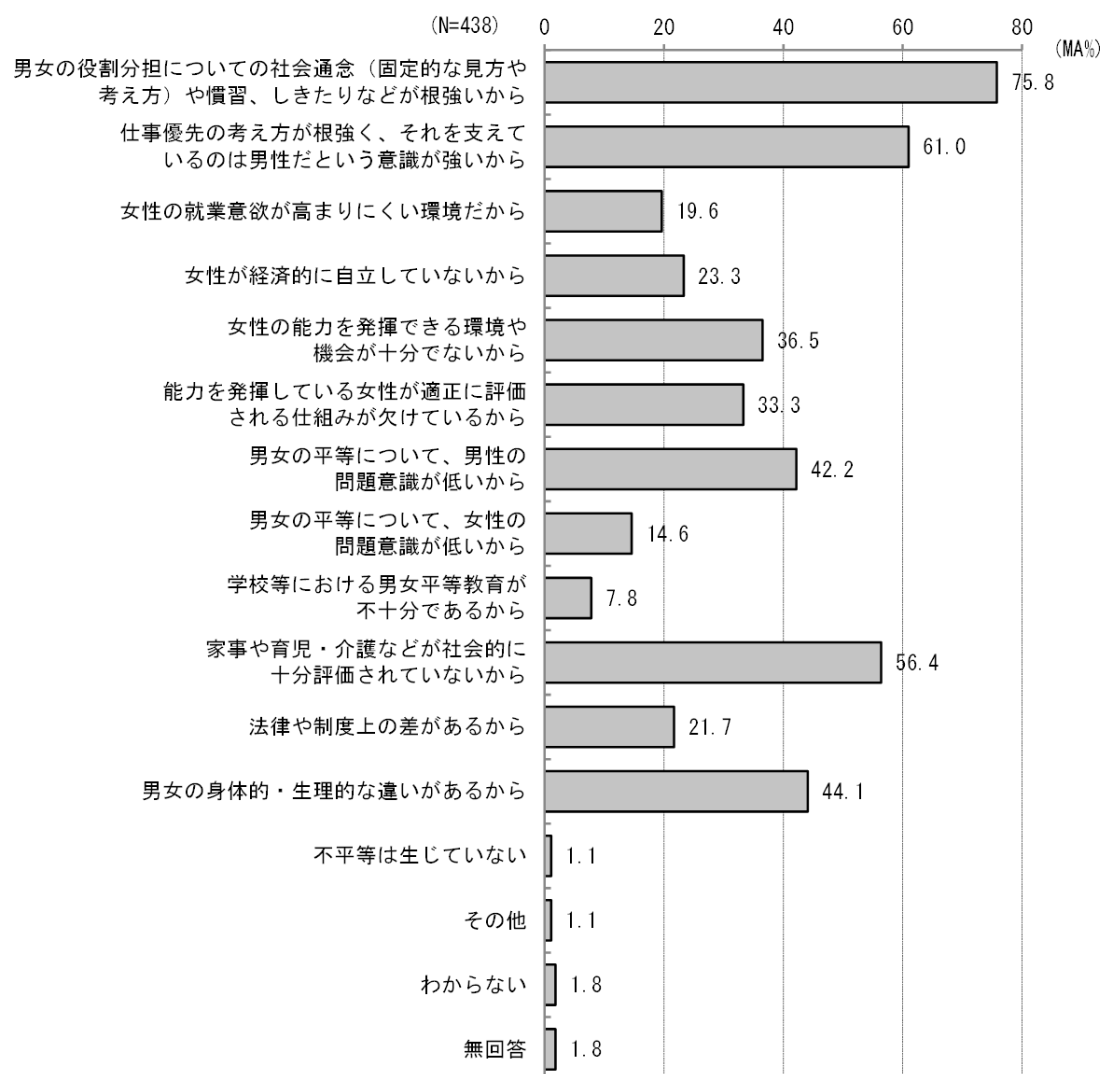


年齢別に“社会全体で見た場合”の平等感をみると、60～69歳で「男性の方が優遇されている」が89.1%と他に比べて高い。

(2) 男女不平等が生じる原因

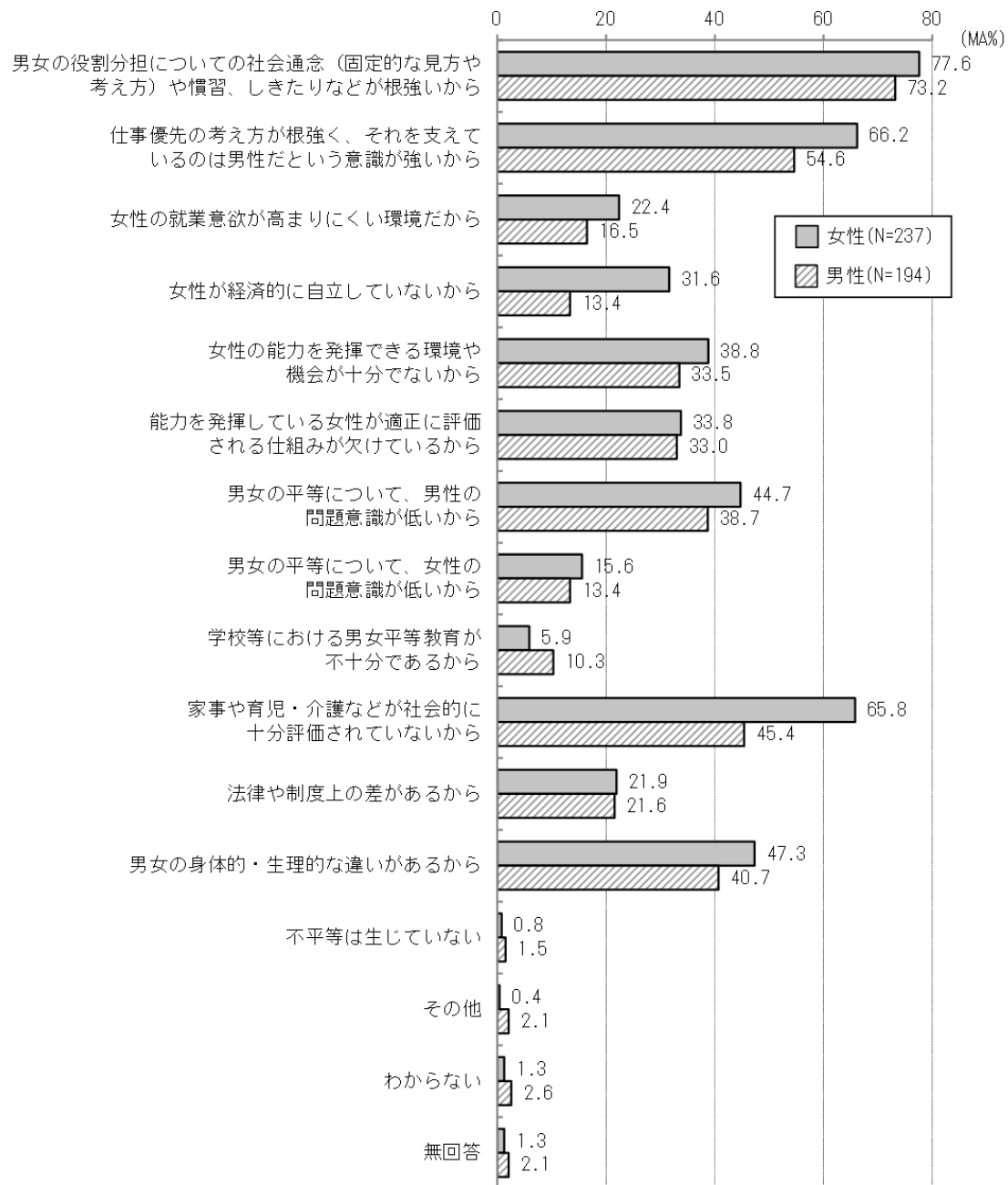
問8 日本の社会において男女不平等が生じる原因はどこにあると思いますか。
 <あてはまるものすべてに○>

【図 2-2 男女不平等が生じる原因】



社会において男女不平等が生じる原因がどこにあるかたずねたところ、「男女の役割分担についての社会通念(固定的な見方や考え方)や慣習、しきたりなどが根強いから」が75.8%と最も多く、次いで「仕事優先の考え方が根強く、それを支えているのは男性だという意識が強いから」が61.0%、「家事や育児・介護などが社会的に十分評価されていないから」が56.4%となっている。

【図 2-2-1 男女不平等が生じる原因（性別）】

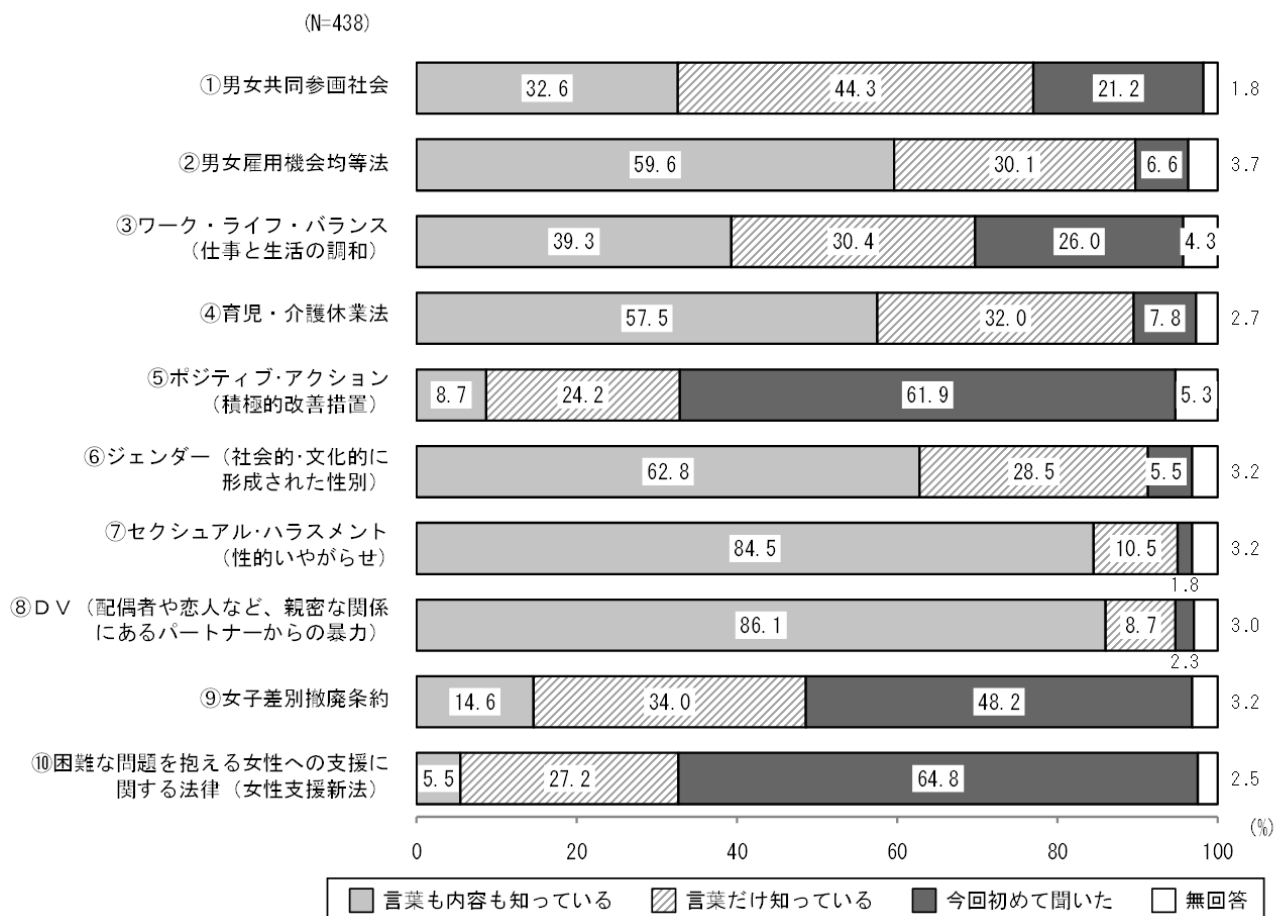


性別に男女不平等が生じる原因をみると、女性で「家事や育児・介護などが社会的に十分評価されていないから」が65.8%と男性（45.4%）より20.4ポイント高くなっている。また、女性で「女性が経済的に自立していないから」「仕事優先の考え方が根深く、それを支えているのは男性だという意識が強いから」が男性より10ポイント以上高くなっている。

(3) 男女共同参画に関する言葉の認知状況

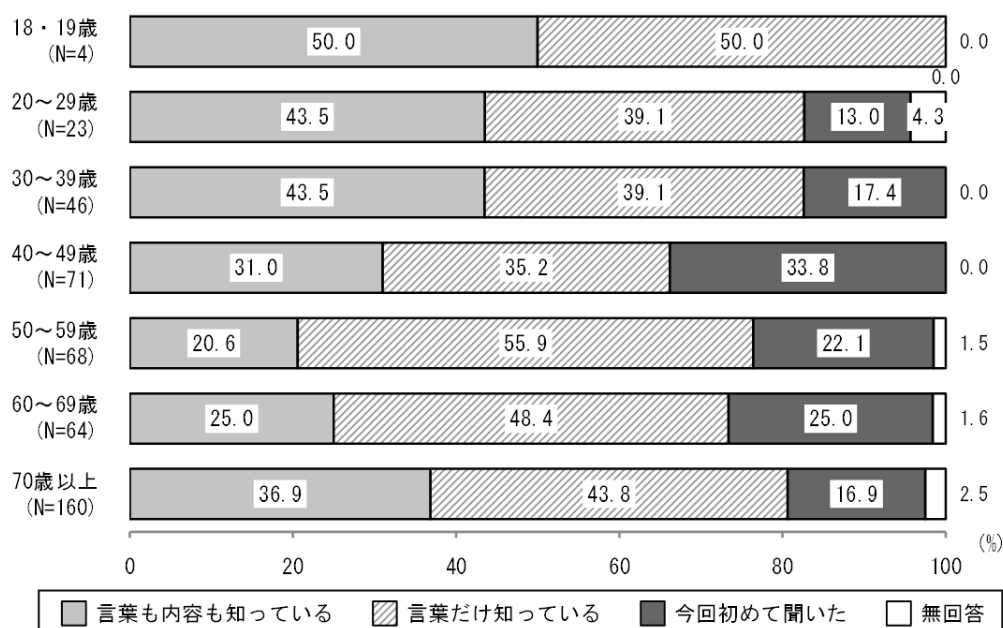
問9 あなたは、次にあげる男女共同参画に関する言葉（事柄）を知っていますか。
 <①～⑩の項目ごとに○はそれぞれ1つずつ>

【図 2-3 男女共同参画に関する言葉の認知状況】



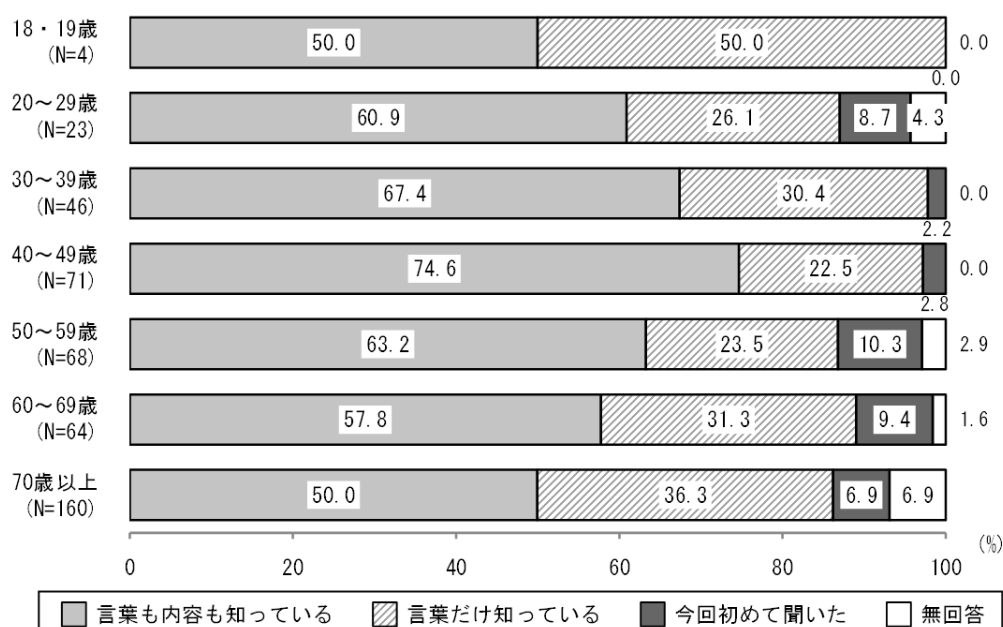
男女共同参画に関する言葉について、「言葉も内容も知っている」は“⑧DV（配偶者や恋人など、親密な関係にあるパートナーからの暴力）”“⑦セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）”が8割を占めて高く、次いで“⑥ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）”が62.8%、“②男女雇用機会均等法”“④育児・介護休業法”が5割台となっている。一方、「今回初めて聞いた」は“⑩困難な問題を抱える女性への支援に関する法律（女性支援新法）”が64.8%と最も多く、次いで“⑤ポジティブ・アクション（積極的改善措置）”が61.9%、“⑨女子差別撤廃条約”が48.2%となっている。

【図 2-3-1 男女共同参画に関する言葉の認知状況 “①男女共同参画社会”（年齢別）】



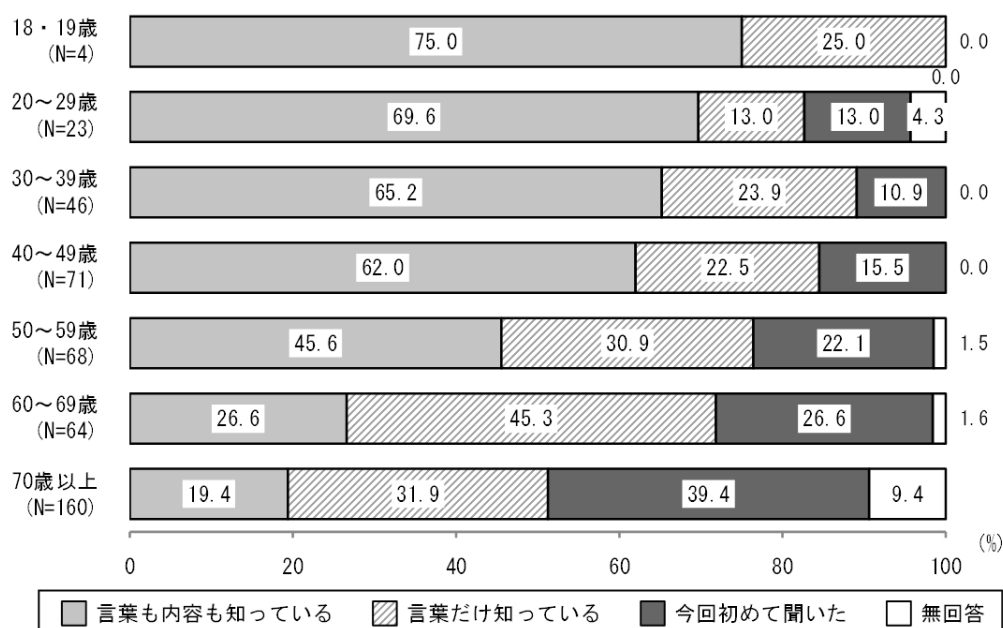
年齢別に“男女共同参画社会”の認知状況をみると、20～29歳、30～39歳で「言葉も内容も知っている」が4割を占めている。一方、「今回初めて聞いた」は40～49歳で33.8%と最も多い。

【図 2-3-2 男女共同参画に関する言葉の認知状況 “②男女雇用機会均等法”（年齢別）】



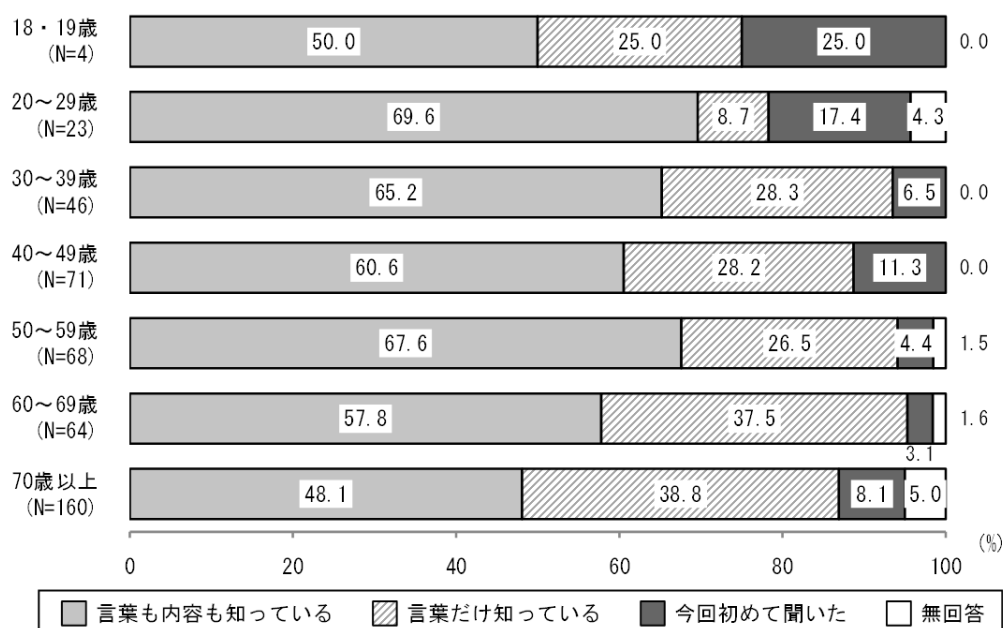
年齢別に“男女雇用機会均等法”の認知状況をみると、いずれも「言葉も内容も知っている」が最も多く、40～49歳では74.6%と他に比べて高い。

【図 2-3-3 男女共同参画に関する言葉の認知状況
“③ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）”（年齢別）】



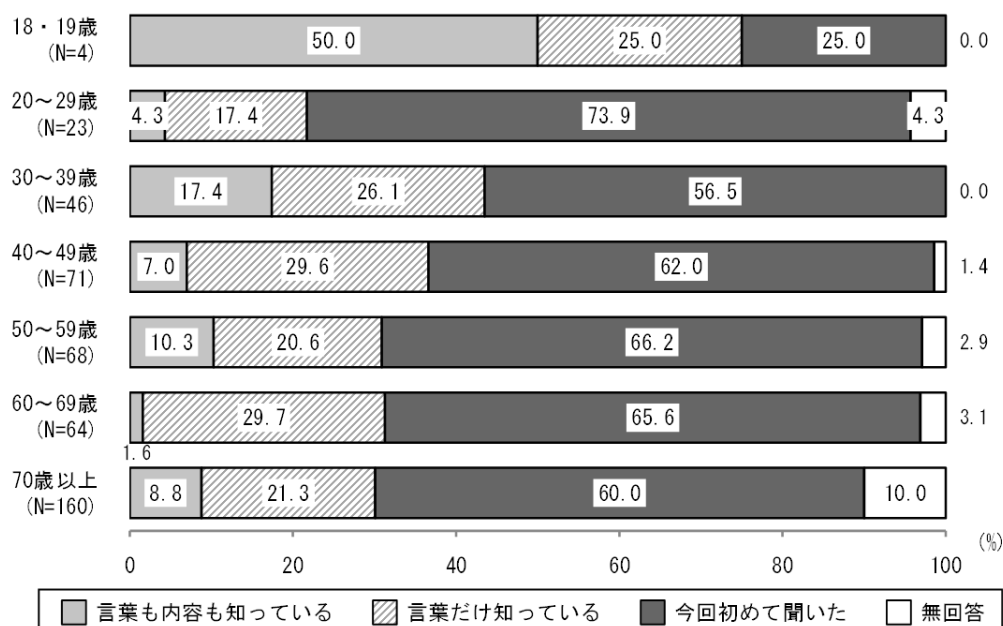
年齢別に“ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）”の認知状況をみると、年齢が下がるほど「言葉も内容も知っている」が高くなっている。70歳以上では「今回初めて聞いた」が39.4%と他に比べて10ポイント以上高い。

【図 2-3-4 男女共同参画に関する言葉の認知状況 “④育児介護休業法”（年齢別）】



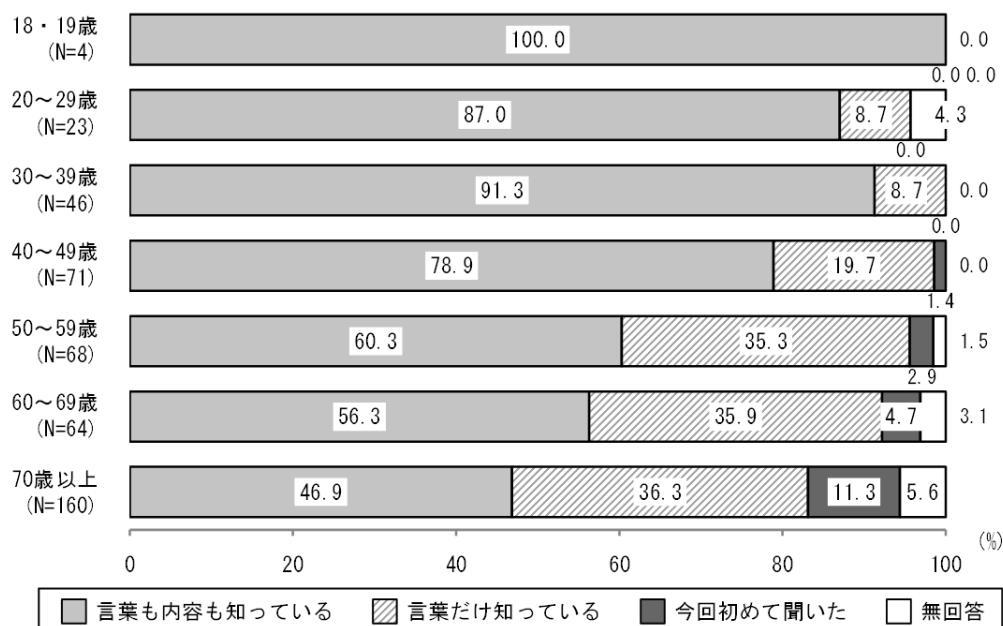
年齢別に“育児介護休業法”の認知状況をみると、20～59歳の各年齢層で「言葉も内容も知っている」が6割を超えています。

【図 2-3-5 男女共同参画に関する言葉の認知状況
“⑤ポジティブ・アクション（積極的改善措置）”（年齢別）】



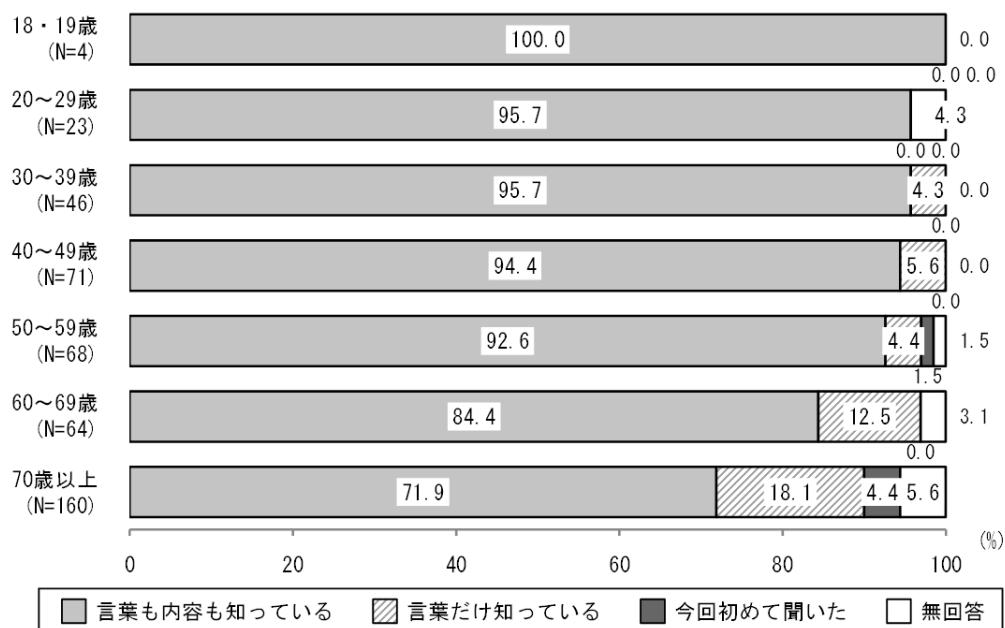
年齢別に“ポジティブ・アクション（積極的改善措置）”の認知状況をみると、20～29歳で「今回初めて聞いた」が73.9%と他に比べて高い。

【図 2-3-6 男女共同参画に関する言葉の認知状況
“⑥ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）”（年齢別）】



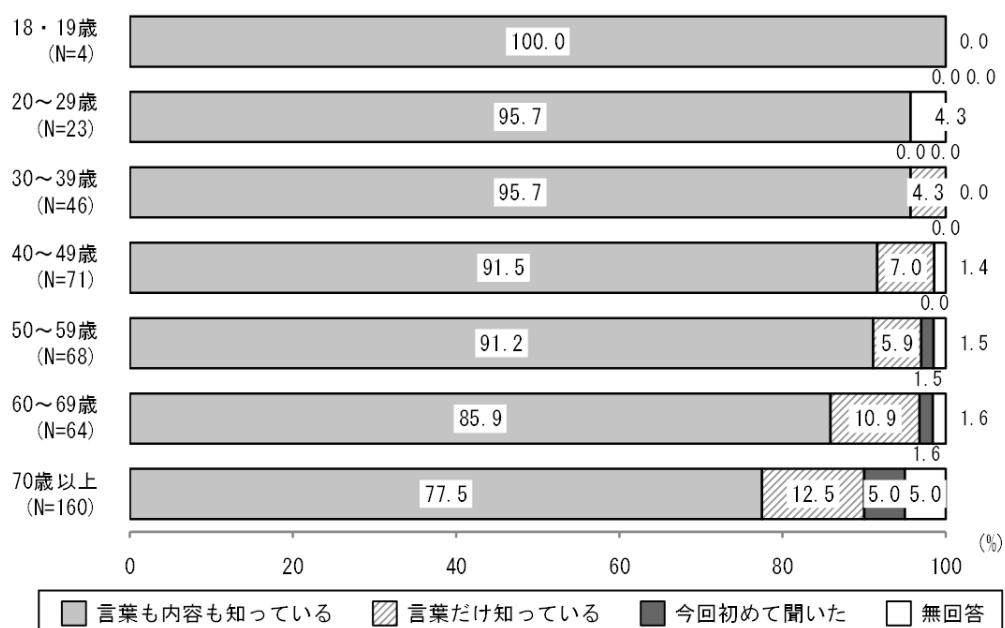
年齢別に“ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）”の認知状況をみると、概ね年齢が下がるほど「言葉も内容も知っている」が高い傾向にある。

【図 2-3-7 男女共同参画に関する言葉の認知状況
“⑦セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）”（年齢別）】



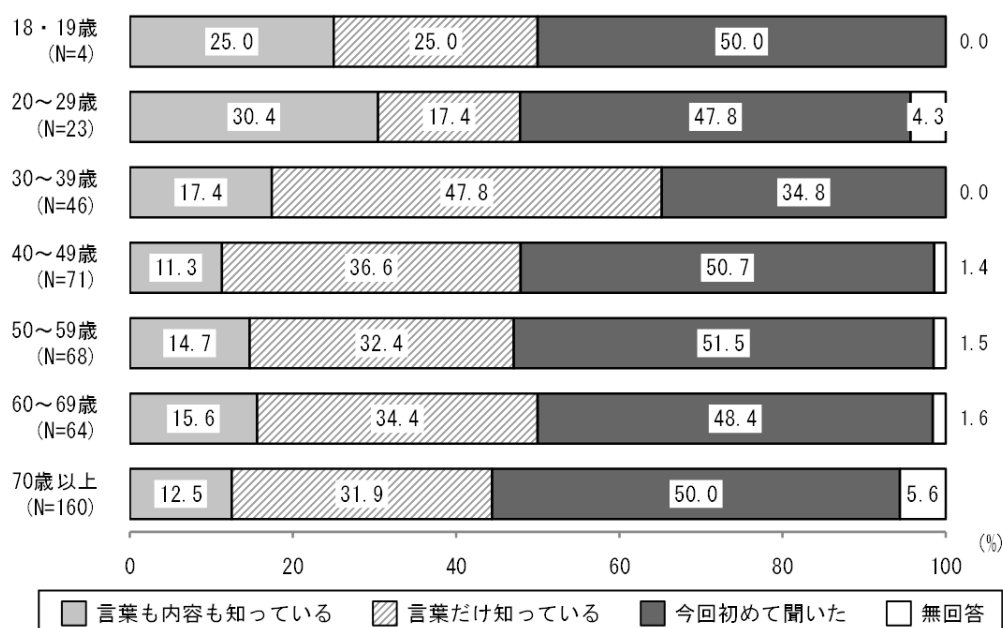
年齢別に“セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）”の認知状況をみると、20～59歳の各年齢層で「言葉も内容も知っている」が9割を占めている。

【図 2-3-8 男女共同参画に関する言葉の認知状況
“⑧DV（配偶者や恋人など、親密な関係にあるパートナーからの暴力）”（年齢別）】



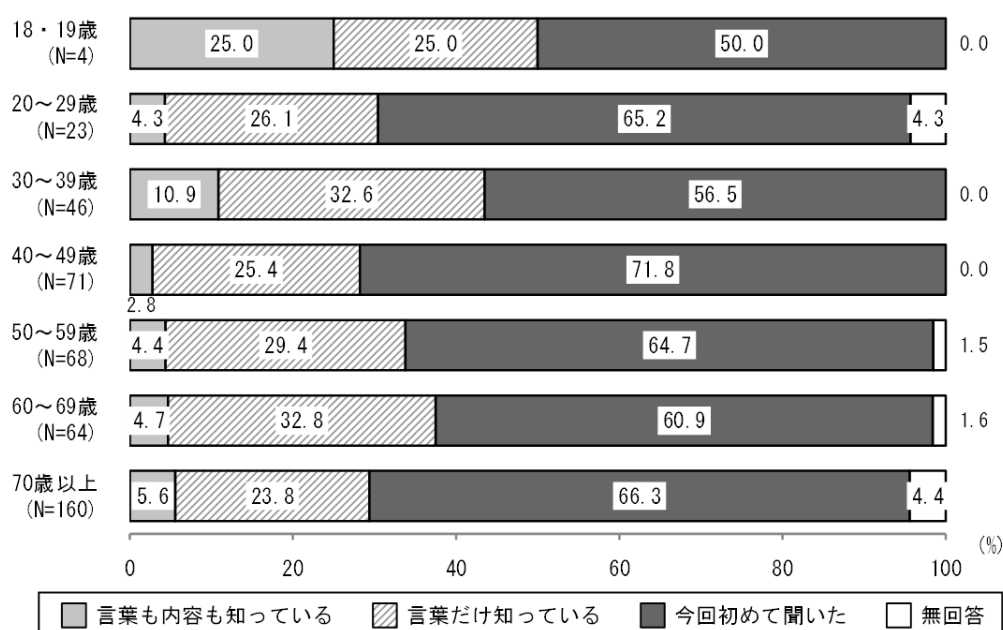
年齢別に“DV（配偶者や恋人など、親密な関係にあるパートナーからの暴力）”の認知状況をみると、20～59歳の各年齢層で「言葉も内容も知っている」が9割を占めている。

【図 2-3-9 男女共同参画に関する言葉の認知状況 “⑨女子差別撤廃条約”（年齢別）】



年齢別に“女子差別撤廃条約”の認知状況をみると、20～29歳で「言葉も内容も知っている」が30.4%と高くなっているものの、30～39歳以降の各年齢層では1割程度となっている。

【図 2-3-10 男女共同参画に関する言葉の認知状況 “⑩困難な問題を抱える女性への支援に関する法律（女性支援新法）”（年齢別）】

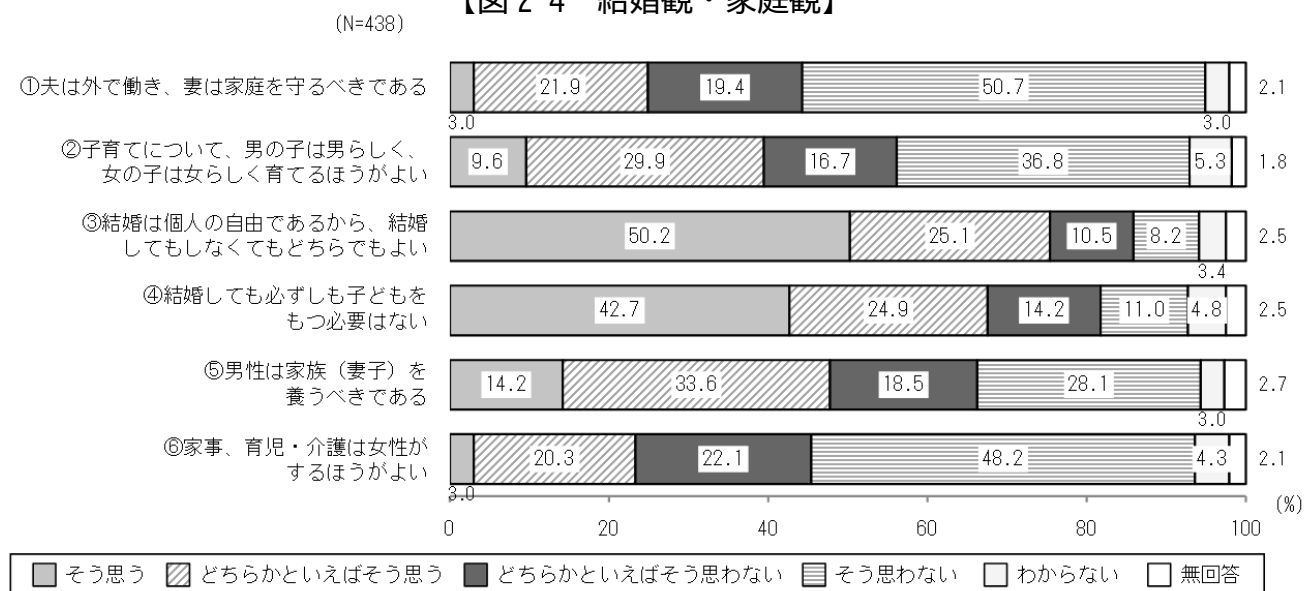


年齢別に“困難な問題を抱える女性への支援に関する法律（女性支援新法）”の認知状況をみると、いずれも「言葉だけ知っている」が3割前後を占めている。

(4) 結婚観・家庭観

問 10 あなたは、次の①～⑥の意見について、率直にどう思いますか。
 <①～⑥の項目ごとに○はそれぞれ1つずつ>

【図 2-4 結婚観・家庭観】

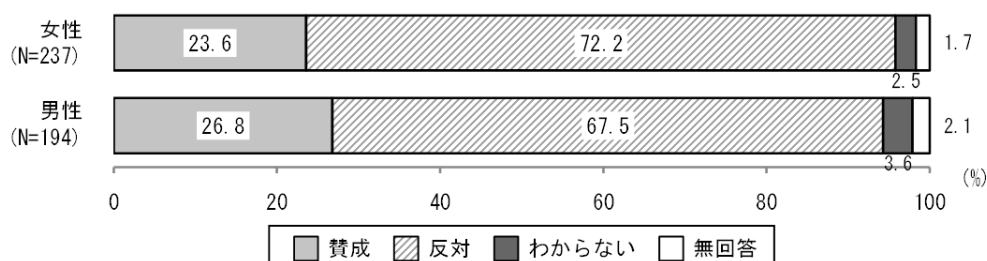


結婚観・家庭観についてどう思うかたずねたところ、『賛成』（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）は、“③結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい”が75.3%と最も多く、次いで“④結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない”が67.6%、“⑤男性は家族（妻子）を養うべきである”が47.8%となっている。一方、『反対』（「そう思わない」＋「どちらかといえばそう思わない」）は、“⑥家事、育児・介護は女性がするほうがよい”が70.3%と最も多く、次いで“①夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである”が70.1%、“②子育てについて、男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるほうがよい”が53.5%となっている。

※以下の性別、年齢別（26 頁～31 頁）の集計では、一部選択項目を合算した形で表記している。

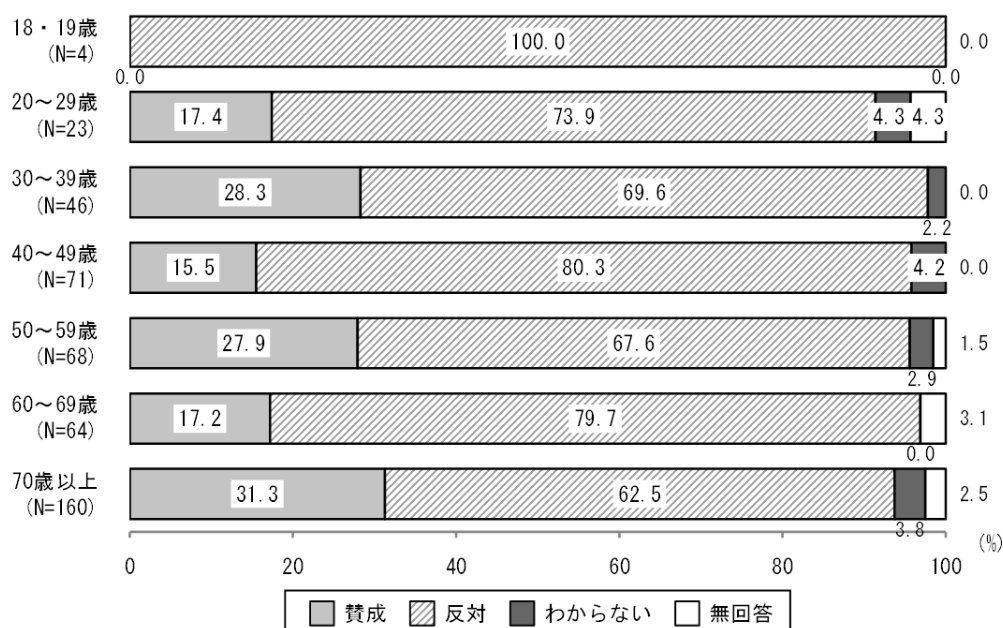
- ・「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の計を「賛成」と表記
- ・「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の計を「反対」と表記

【図 2-4-1 結婚観・家庭観 “①夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである”（性別）】



“夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである”という意見を性別にみると、大きな差はみられない。

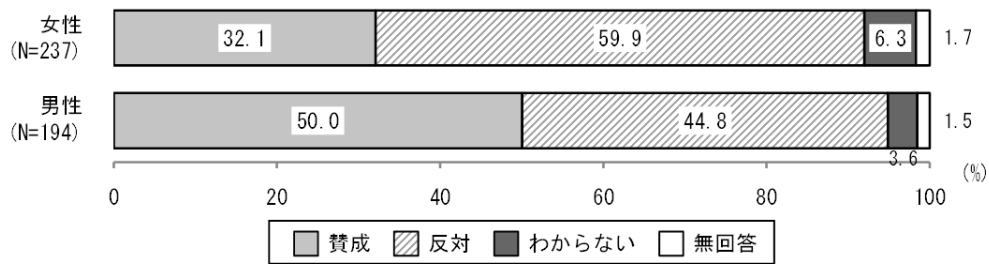
【図 2-4-2 結婚観・家庭観 “①夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである”（年齢別）】



“夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである”という意見を年齢別にみると、30～39 歳、50～59 歳、70 歳以上で「賛成」が3割前後を占めている。

【図 2-4-3 結婚観・家庭観

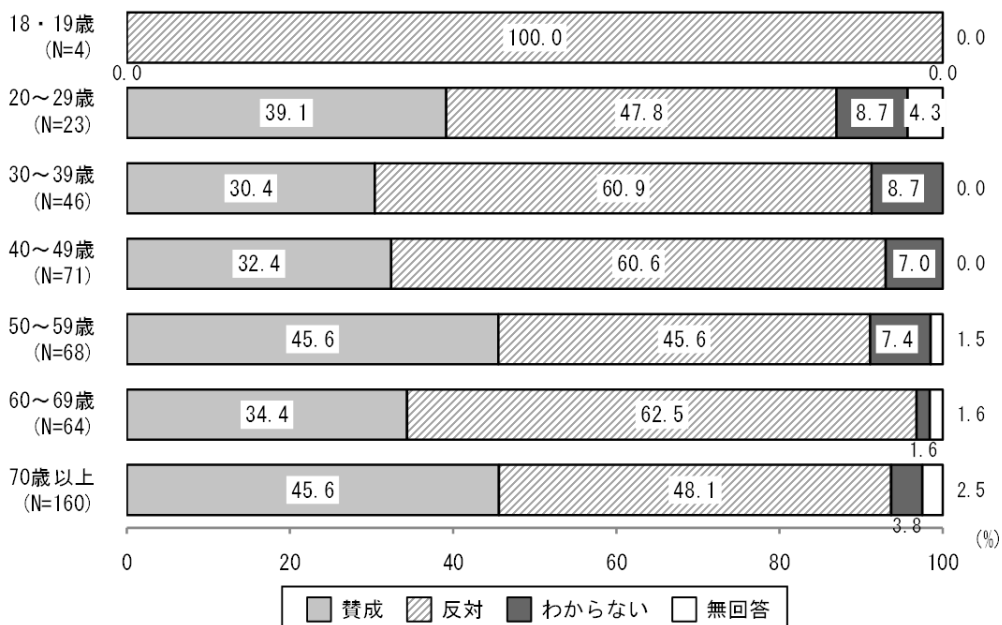
“②子育てについて、男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるほうがよい”（性別）】



“子育てについて、男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるほうがよい”という意見を性別にみると、「賛成」は男性で50.0%と女性（32.1%）より17.9ポイント高くなっている。

【図 2-4-4 結婚観・家庭観

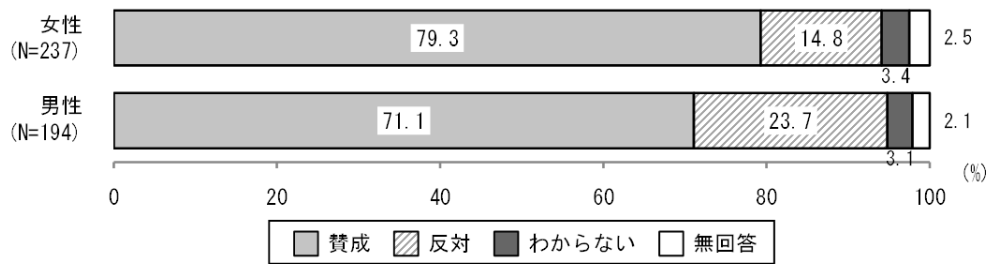
“②子育てについて、男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるほうがよい”（年齢別）】



“子育てについて、男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるほうがよい”という意見を年齢別にみると、50～59歳、70歳以上で「賛成」が4割を占め他に比べて高い。

【図 2-4-5 結婚観・家庭観

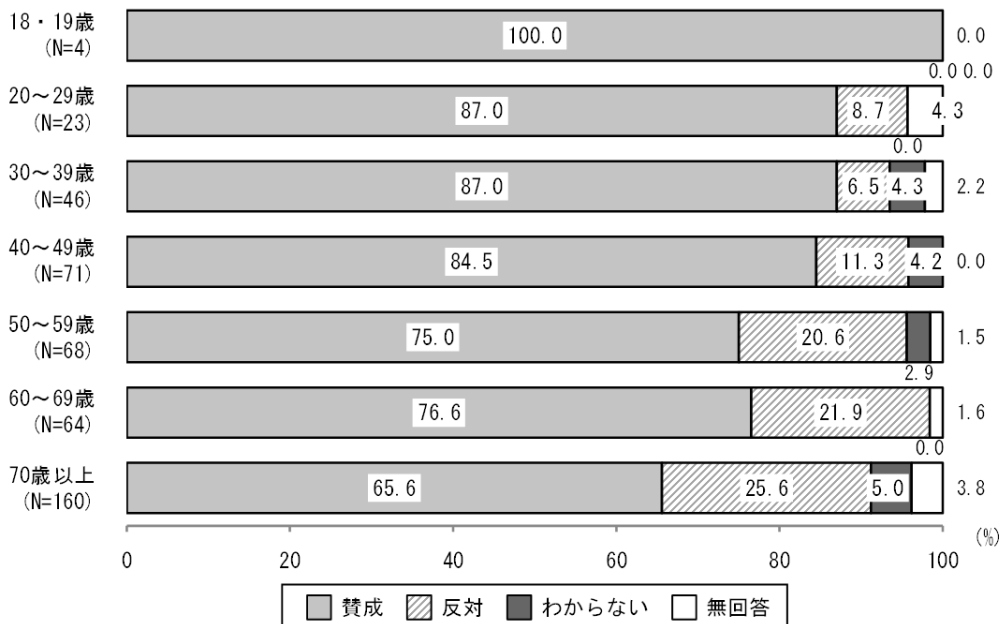
“③結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい”（性別）】



“結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい”という意見を性別にみると、男女ともに「賛成」が7割を占めており、女性で79.3%と男性（71.1%）より8.2ポイント高くなっている。

【図 2-4-6 結婚観・家庭観

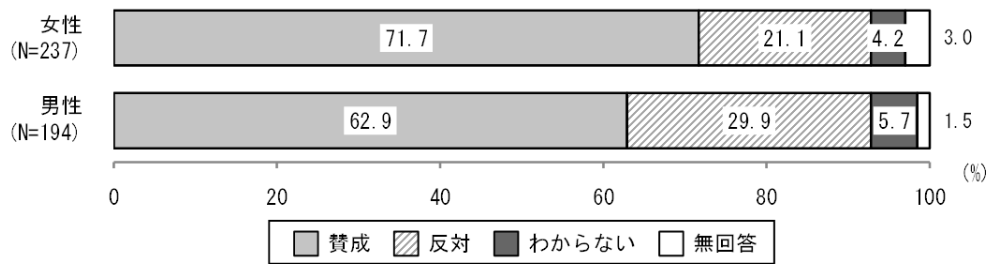
“③結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい”（年齢別）】



“結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい”という意見を年齢別にみると、概ね年齢が下がるほど「賛成」が高い傾向にあり、20～49歳の各年齢層で8割を占めている。

【図 2-4-7 結婚観・家庭観

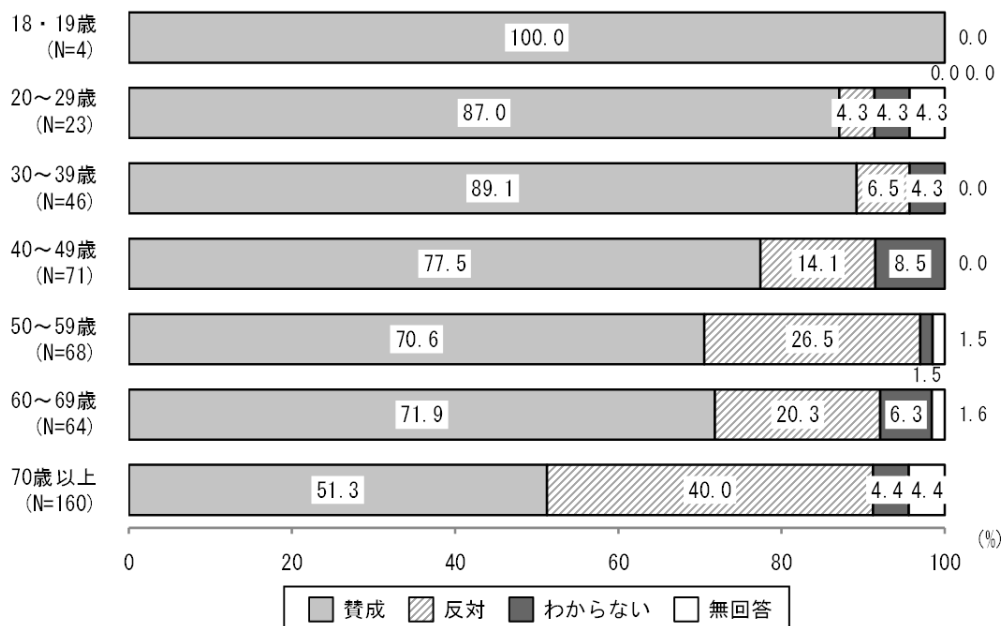
“④結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない”（性別）】



“結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない”という意見を性別にみると、「賛成」は女性で71.7%と男性（62.9%）より8.8ポイント高くなっている。

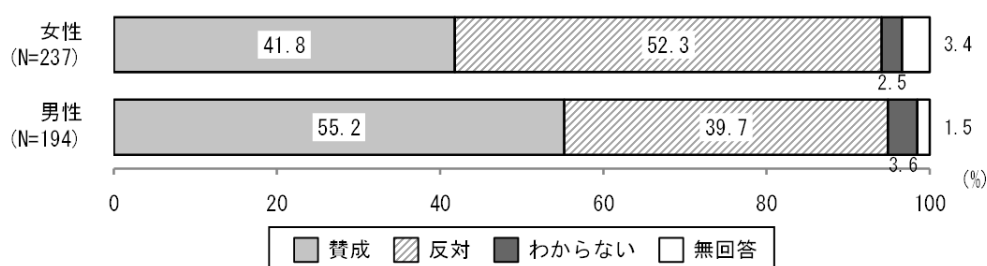
【図 2-4-8 結婚観・家庭観

“④結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない”（年齢別）】



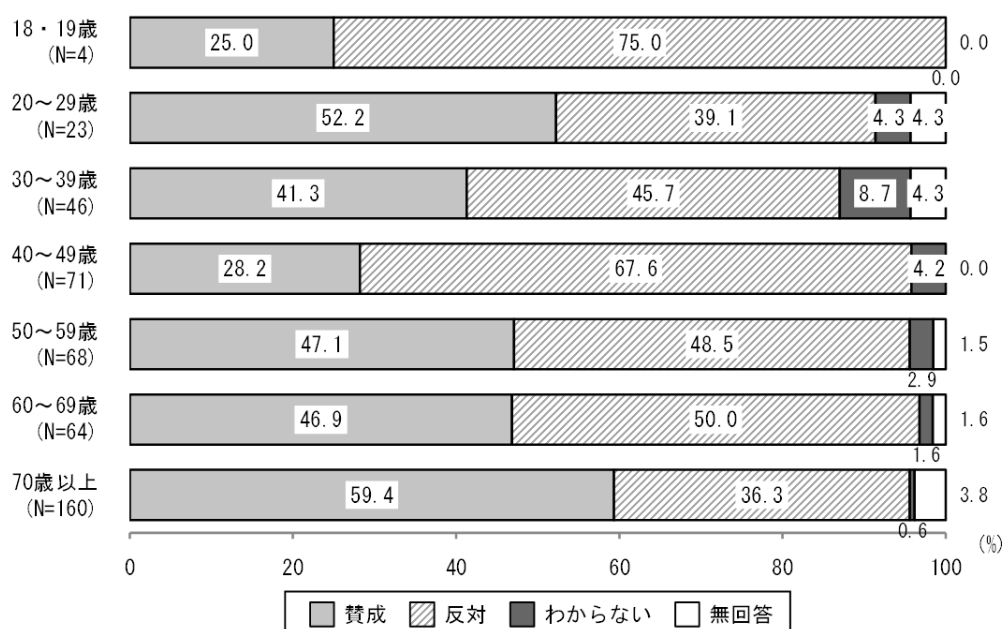
“結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない”という意見を年齢別にみると、20～29歳、30～39歳で「賛成」が8割を占めている。70歳以上では「反対」が40.0%と他に比べて10ポイント以上高くなっている。

【図 2-4-9 結婚観・家庭観 “⑤男性は家族（妻子）を養うべきである”（性別）】



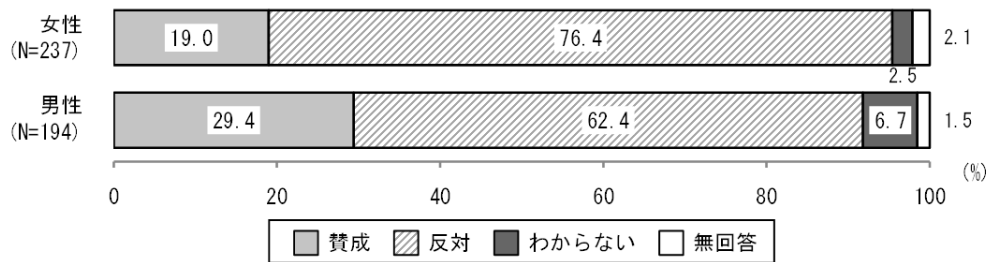
“男性は家族（妻子）を養うべきである”という意見を性別にみると、「賛成」は男性で55.2%と女性（41.8%）より13.4ポイント高くなっている。

【図 2-4-10 結婚観・家庭観 “⑤男性は家族（妻子）を養うべきである”（年齢別）】



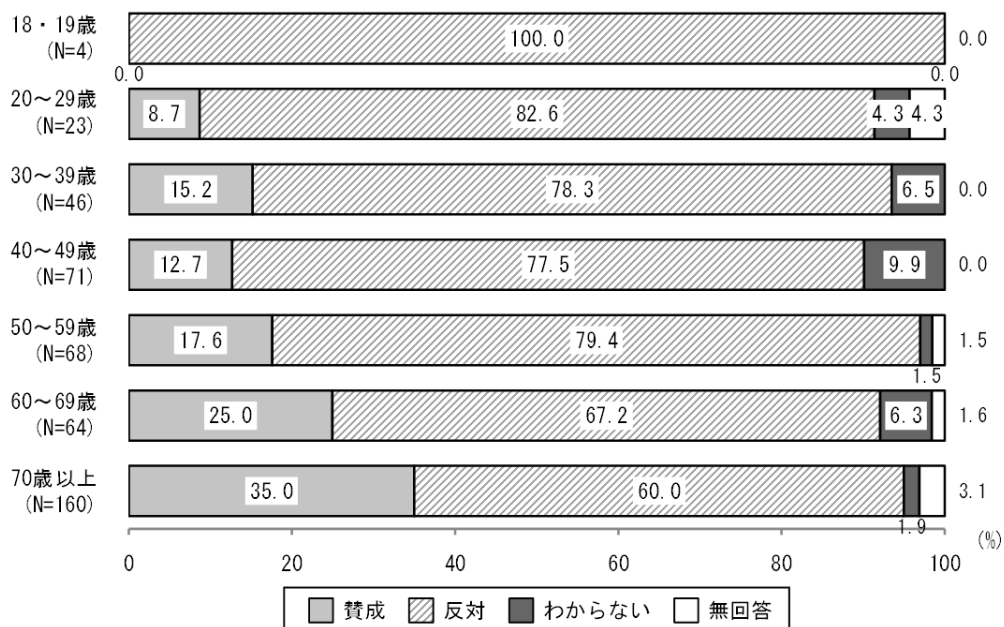
“男性は家族（妻子）を養うべきである”という意見を年齢別にみると、20～29歳、70歳以上で「賛成」が過半数を占めている。

【図 2-4-11 結婚観・家庭観 “⑥家事、育児・介護は女性がするほうがよい”（性別）】



“家事、育児・介護は女性がするほうがよい”という意見を性別にみると、「反対」は女性で76.4%と男性（62.4%）より14.0ポイント高くなっている。

【図 2-4-12 結婚観・家庭観 “⑥家事、育児・介護は女性がするほうがよい”（年齢別）】



“家事、育児・介護は女性がするほうがよい”という意見を年齢別にみると、概ね年齢が上がるほど「賛成」が高い傾向にあり、70歳以上では35.0%と他に比べて10ポイント以上高くなっている。

3 生活・仕事について

(1) 家庭内での役割分担の理想と現実

問 11 家庭内における次の①～⑩の役割について、どのようにするのが望ましいと思いますか。

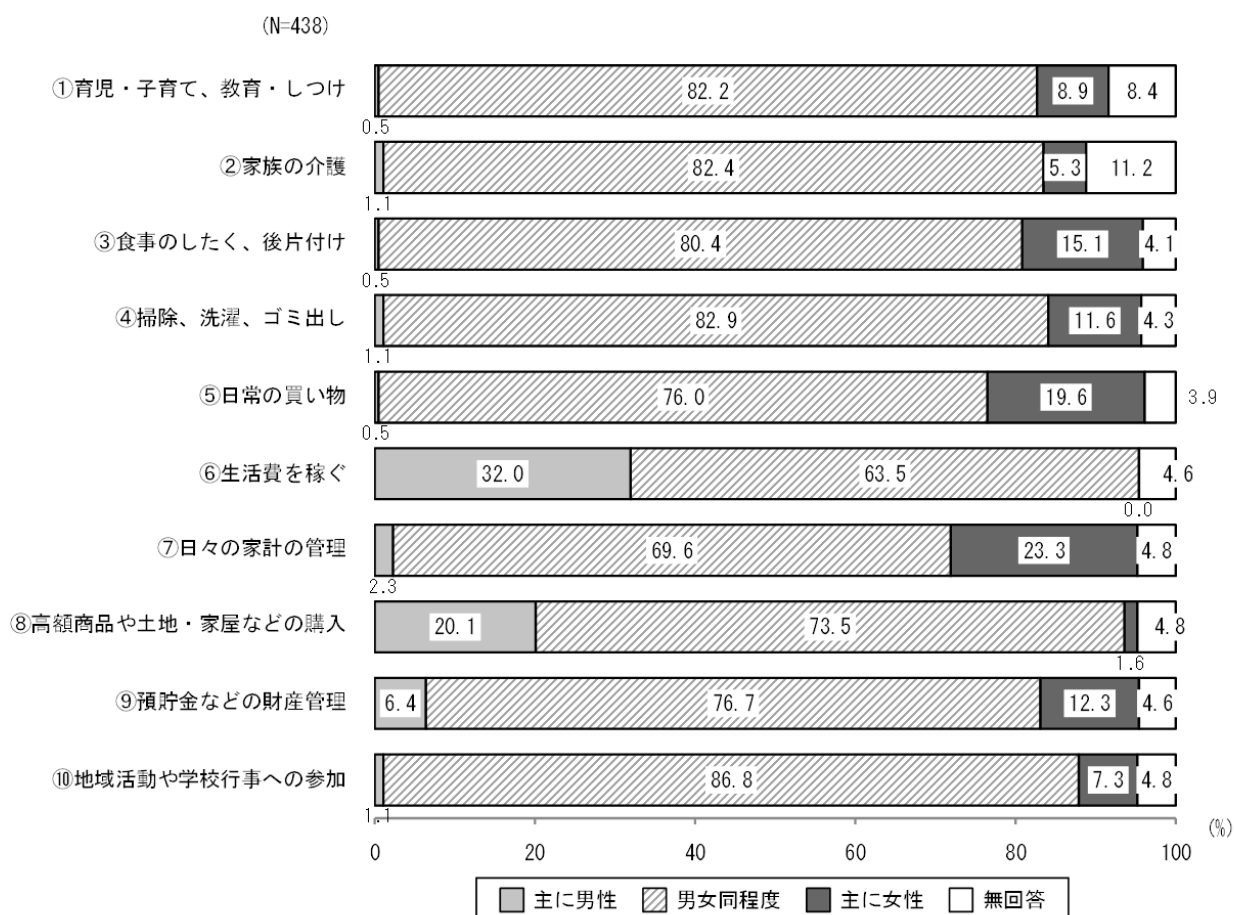
また、実際にあなたの家庭では男性・女性のどちらが主に行っていますか。

<①～⑩の項目について、理想と現実〇はそれぞれ1つずつ>

※「B.現実」について、1人暮らしの方等はこれまでの状況でお答えください。

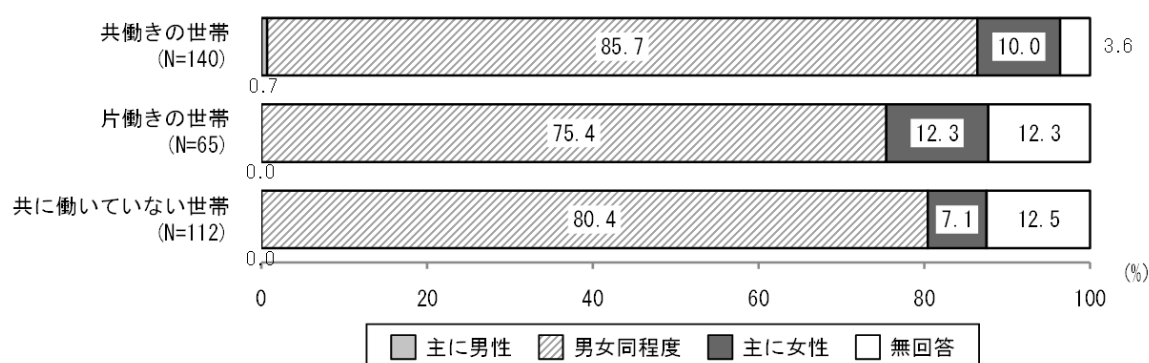
■ A. 理想

【図 3-1 家庭内での役割分担（理想）】



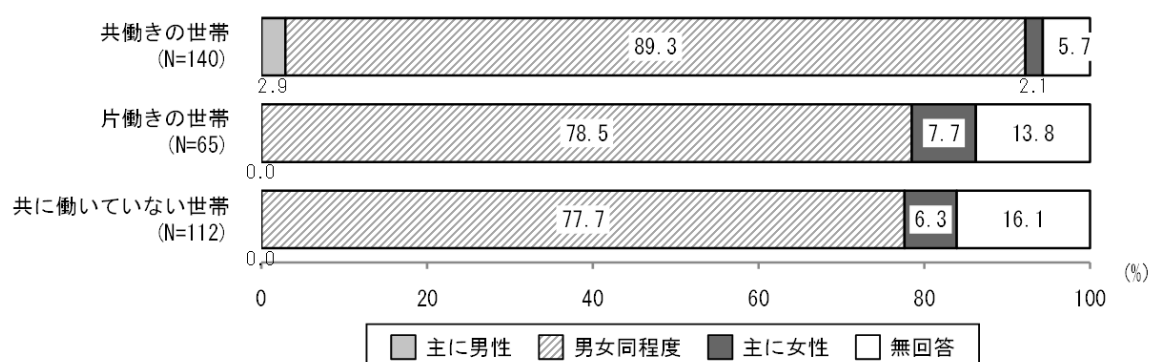
家庭内での役割分担の理想をたずねたところ、いずれの項目も「男女同程度」が6割を超えている。「主に男性」で最も多い項目は、“⑥生活費を稼ぐ”が32.0%、「主に女性」で最も多い項目は、“⑦日々の家計の管理”が23.3%となっている。

【図 3-1-1 家庭内での役割分担（理想）
“①育児・子育て、教育・しつけ”（共働きの状況別）】



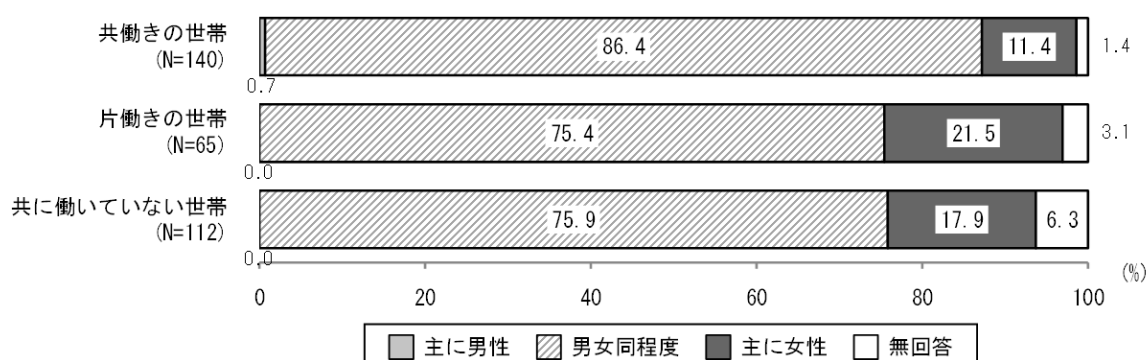
共働きの状況別に“育児・子育て、教育・しつけ”の理想の役割分担をみると、「男女同程度」は共働きの世帯、共に働いていない世帯で8割を占めている。

【図 3-1-2 家庭内での役割分担（理想）“②家族の介護”（共働きの状況別）】



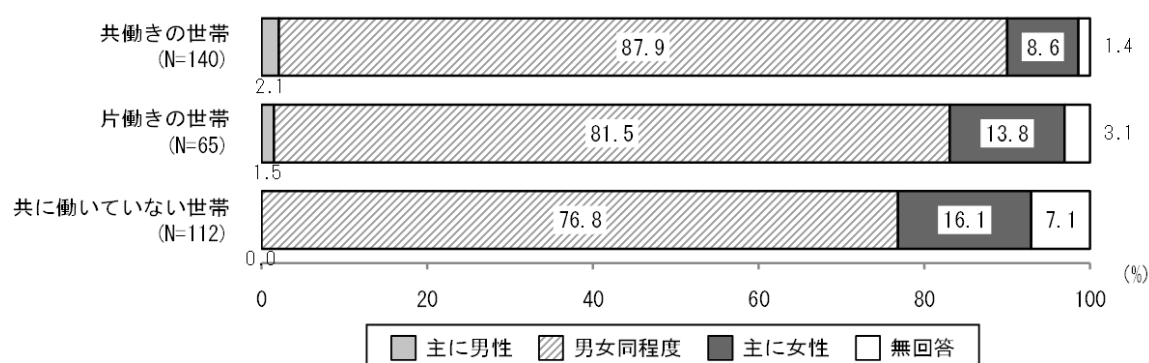
共働きの状況別に“家族の介護”の理想の役割分担をみると、「男女同程度」は共働きの世帯で89.3%と他に比べて10ポイント以上高くなっている。

【図 3-1-3 家庭内での役割分担（理想）
“③食事のしたく、後片付け”（共働きの状況別）】



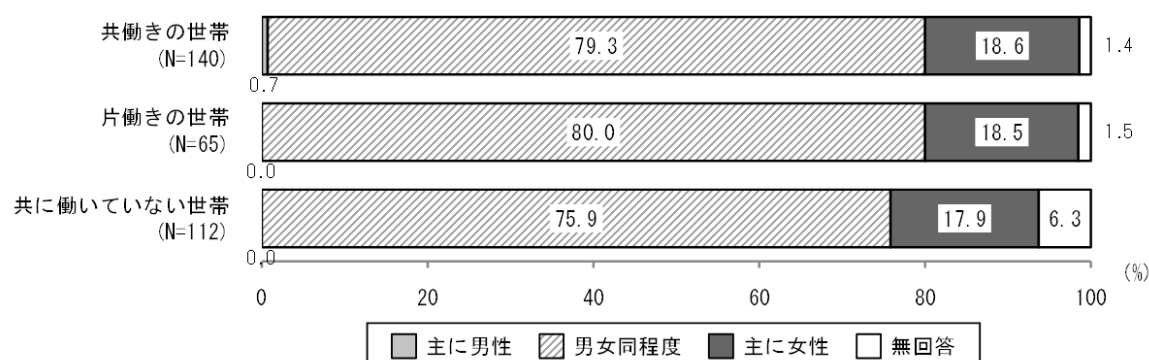
共働きの状況別に“食事のしたく、後片付け”の理想の役割分担をみると、「男女同程度」は共働きの世帯で 86.4%と他に比べて 10 ポイント以上高くなっている。

【図 3-1-4 家庭内での役割分担（理想）“④掃除、洗濯、ゴミ出し”（共働きの状況別）】



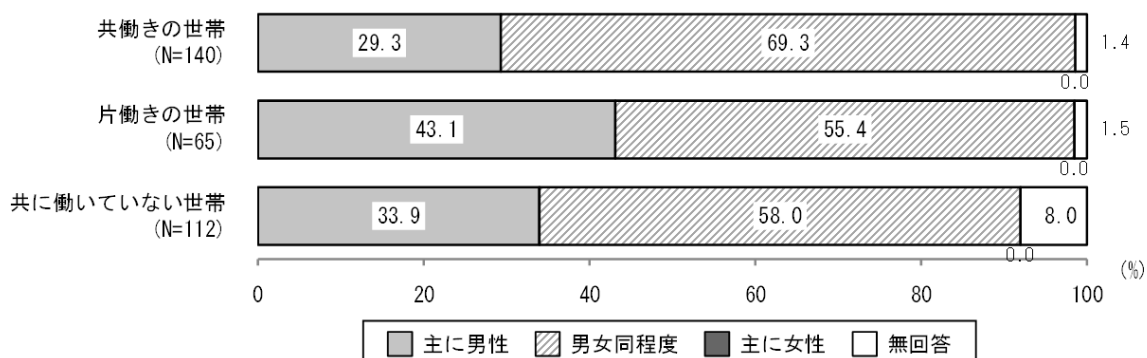
共働きの状況別に“掃除、洗濯、ゴミ出し”の理想の役割分担をみると、「男女同程度」は共働きの世帯、片働きの世帯で 8 割を占めている。

【図 3-1-5 家庭内での役割分担（理想）“⑤日常の買い物”（共働きの状況別）】



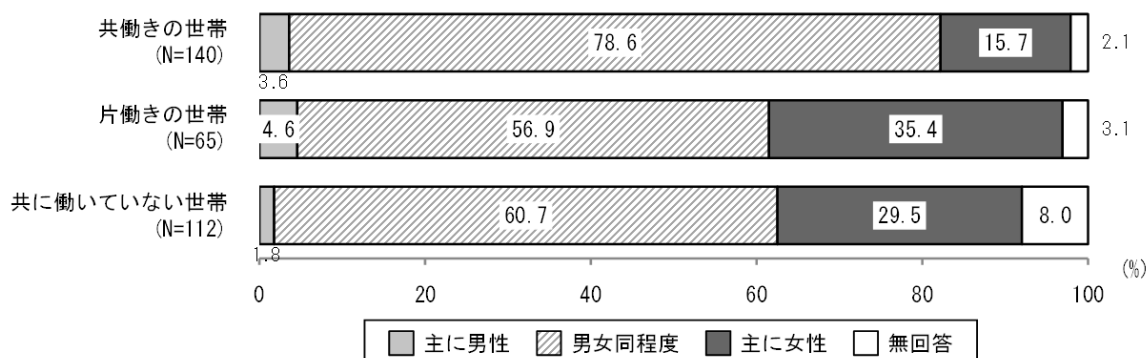
共働きの状況別に“日常の買い物”の理想の役割分担をみると、大きな差はみられない。

【図 3-1-6 家庭内での役割分担（理想）“⑥生活費を稼ぐ”（共働きの状況別）】



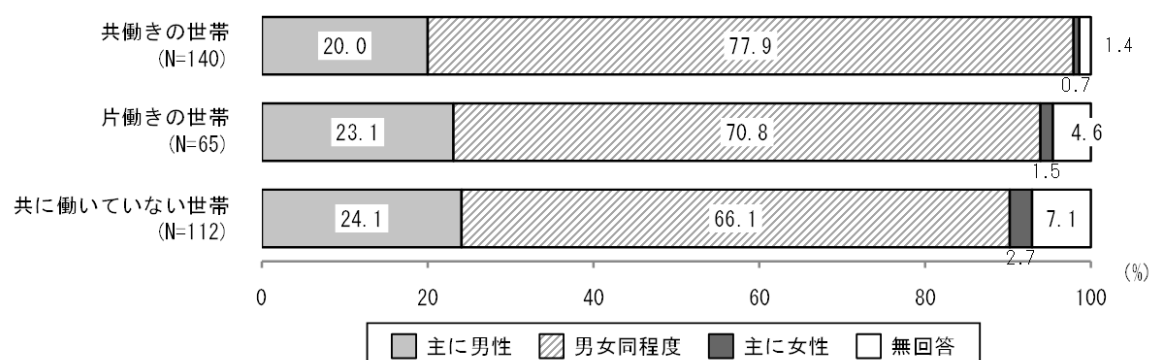
共働きの状況別に“生活費を稼ぐ”の理想の役割分担をみると、片働きの世帯で「主に男性」が43.1%と他に比べて高い。

【図 3-1-7 家庭内での役割分担（理想）“⑦日々の家計の管理”（共働きの状況別）】



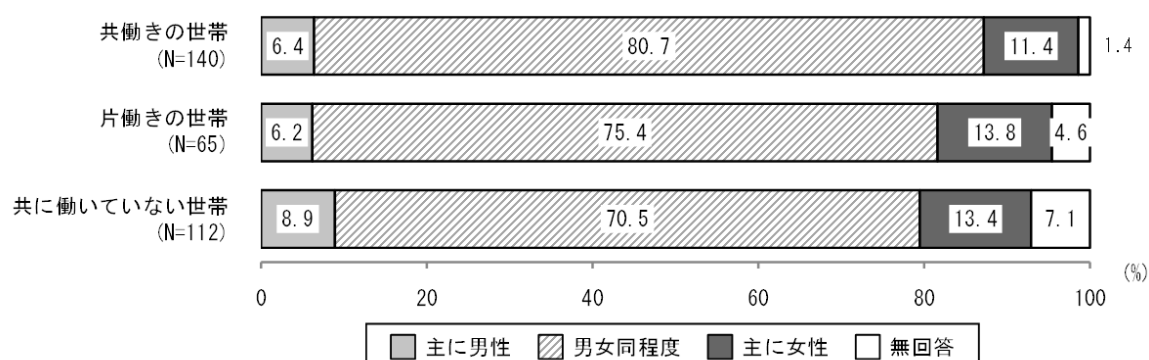
共働きの状況別に“日々の家計の管理”の理想の役割分担をみると、片働きの世帯、共に働いていない世帯で「主に女性」が3割前後を占め、共働きの世帯（15.7%）より10ポイント以上高くなっている。

【図 3-1-8 家庭内での役割分担（理想）
“⑧高額商品や土地・家屋などの購入”（共働きの状況別）】



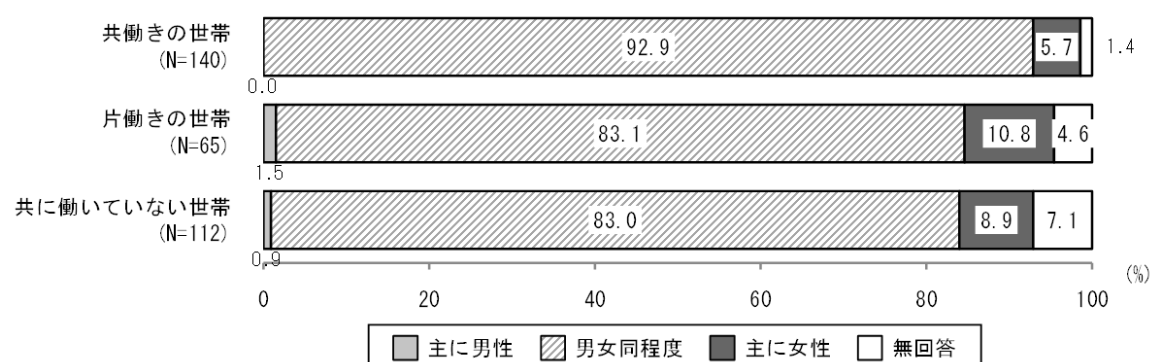
共働きの状況別に“高額商品や土地・家屋などの購入”の理想の役割分担をみると、「男女同程度」は共働きの世帯で77.9%と共に働いていない世帯（66.1%）より11.8ポイント高くなっている。

【図 3-1-9 家庭内での役割分担（理想）“⑨預貯金などの財産管理”（共働きの状況別）】



共働きの状況別に“預貯金などの財産管理”の理想の役割分担をみると、「男女同程度」は共働きの世帯で80.7%と共に働いていない世帯（70.5%）より10.2ポイント高くなっている。

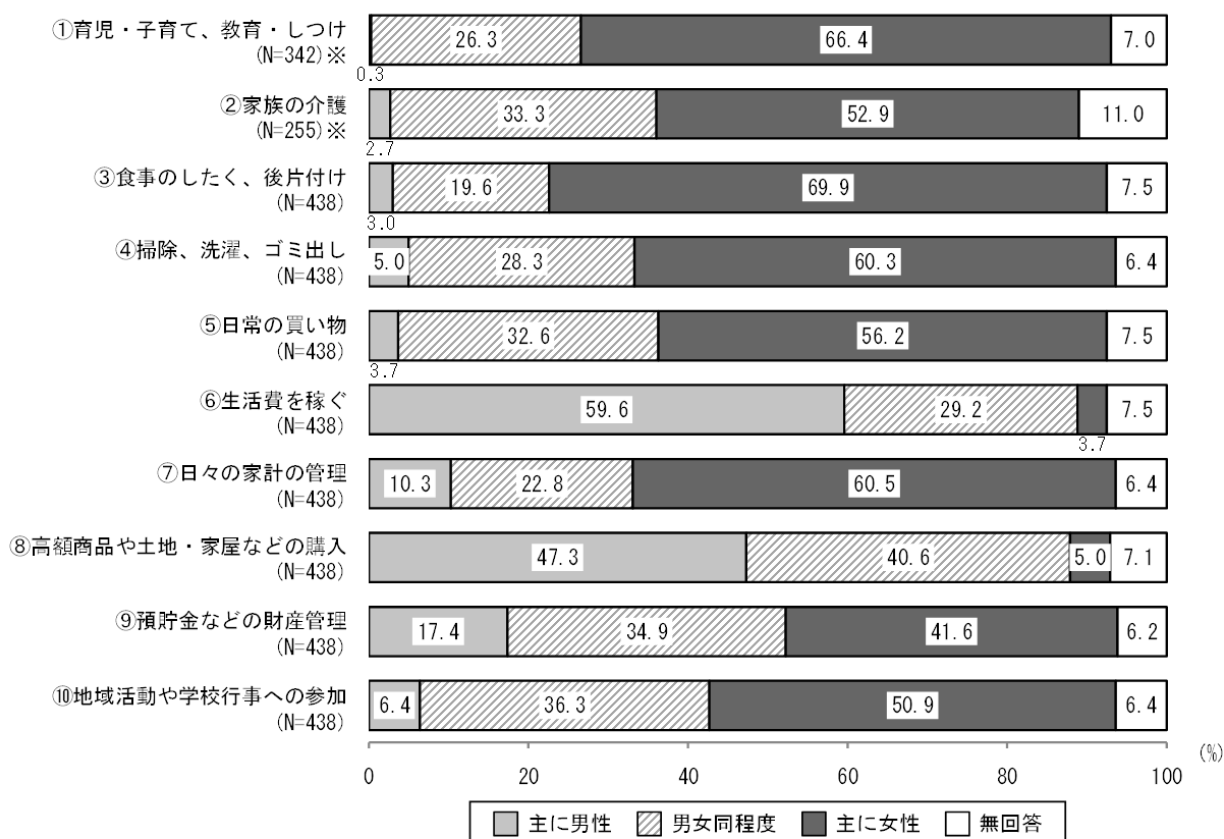
【図 3-1-10 家庭内での役割分担（理想）
 “⑩地域活動や学校行事への参加”（共働きの状況別）】



共働きの状況別に“⑩地域活動や学校行事への参加”の理想の役割分担をみると、「男女同程度」は共働きの世帯で92.9%と他に比べて高い。

■ B. 現実

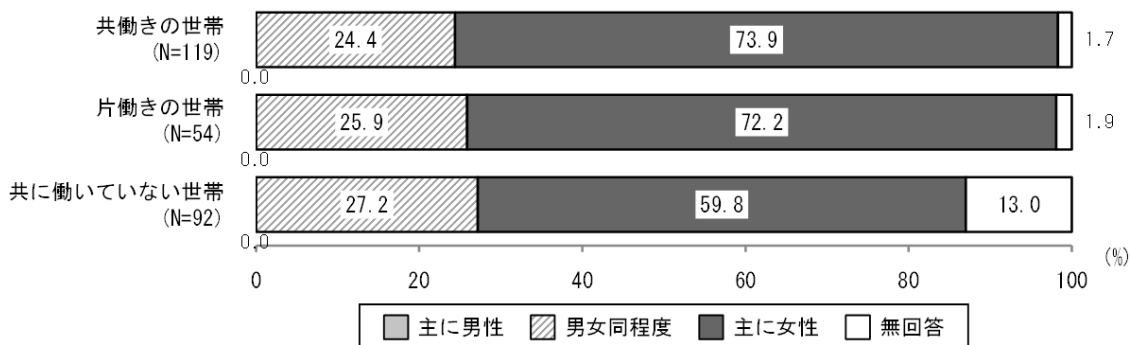
【図 3-2 家庭内での役割分担（現実）】



※ “①育児・子育て、教育・しつけ” “②家族の介護” については、それぞれ「家庭内に対象となる人はいない」と回答した人を除いて集計

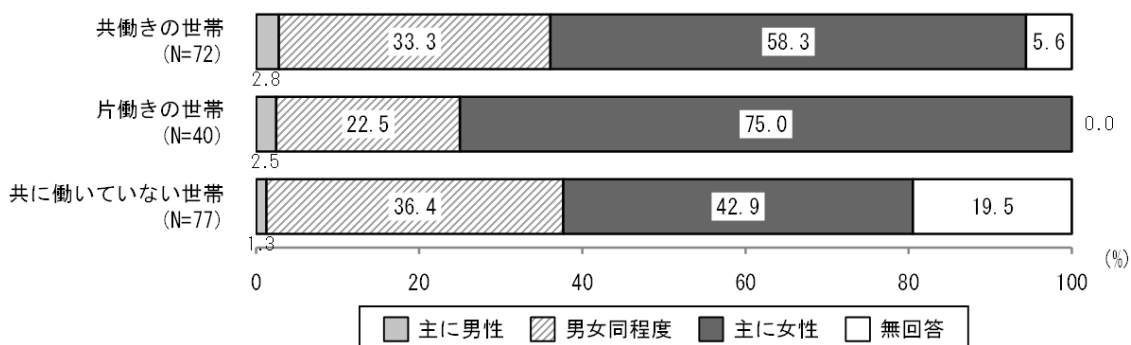
家庭内での役割分担の現実をたずねたところ、「主に女性」は“③食事のしたく、後片付け”（69.9%），“①育児・子育て、教育・しつけ”（66.4%），“⑦日々の家計の管理”（60.5%）、“④掃除、洗濯、ゴミ出し”（60.3%）が6割を占めている。「男女同程度」は“⑧高額商品や土地・家屋などの購入”が40.6%と最も多く、次いで“⑩地域活動や学校行事への参加”が36.3%、「⑨預貯金などの財産管理」が34.9%となっている。

【図 3-2-1 家庭内での役割分担（現実）
“①育児・子育て、教育・しつけ”（共働きの状況別）】



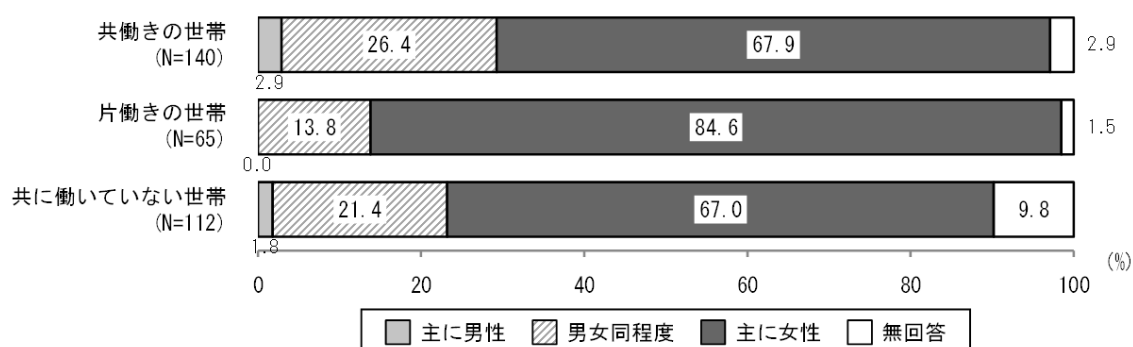
共働きの状況別に“育児・子育て、教育・しつけ”の現実の役割分担をみると、いずれも「男女同程度」が2割を占め、大きな差はみられない。

【図 3-2-2 家庭内での役割分担（現実）“②家族の介護”（共働きの状況別）】



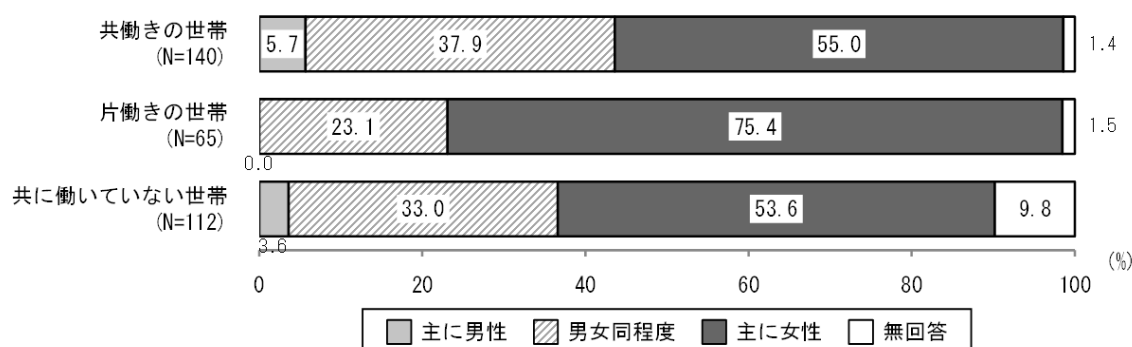
共働きの状況別に“家族の介護”の現実の役割分担をみると、片働きの世帯で「主に女性」が75.0%と他に比べて15ポイント以上高くなっている。

【図 3-2-3 家庭内での役割分担（現実）
“③食事のしたく、後片付け”（共働きの状況別）】



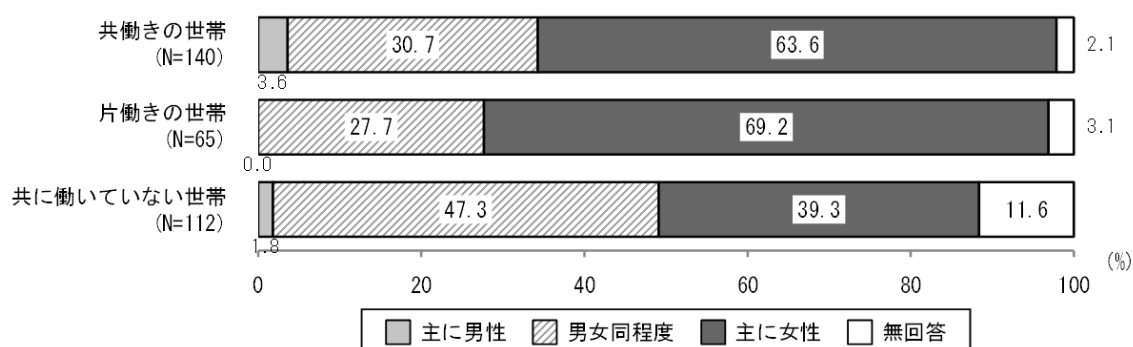
共働きの状況別に“食事のしたく、後片付け”の現実の役割分担をみると、片働きの世帯で「主に女性」が84.6%と他に比べて15ポイント以上高くなっている。

【図 3-2-4 家庭内での役割分担（現実）“④掃除、洗濯、ゴミ出し”（共働きの状況別）】



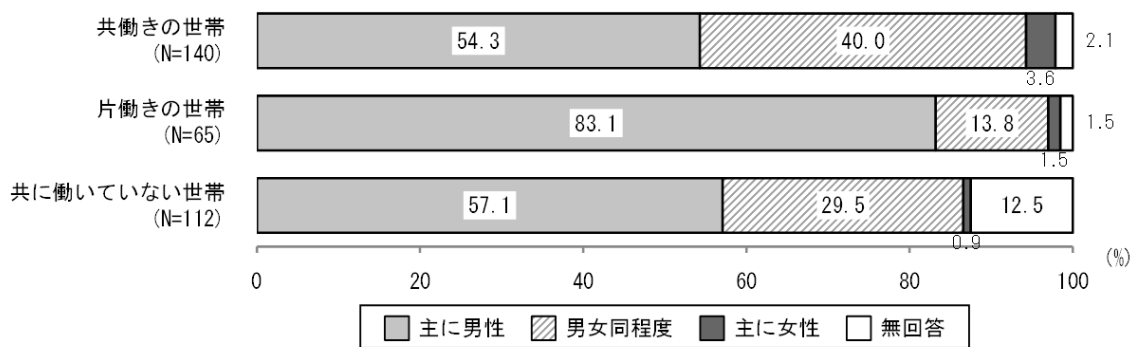
共働きの状況別に“掃除、洗濯、ゴミ出し”の現実の役割分担をみると、片働きの世帯で「主に女性」が75.4%と他に比べて20ポイント以上高くなっている。

【図 3-2-5 家庭内での役割分担（現実）“⑤日常の買い物”（共働きの状況別）】



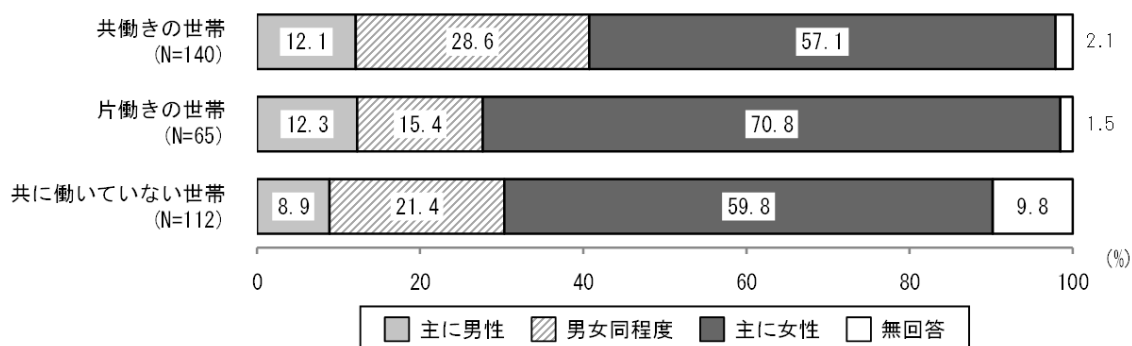
共働きの状況別に“日常の買い物”の現実の役割分担をみると、共働きの世帯、片働きの世帯で「主に女性」が6割を占めている。

【図 3-2-6 家庭内での役割分担（現実）“⑥生活費を稼ぐ”（共働きの状況別）】



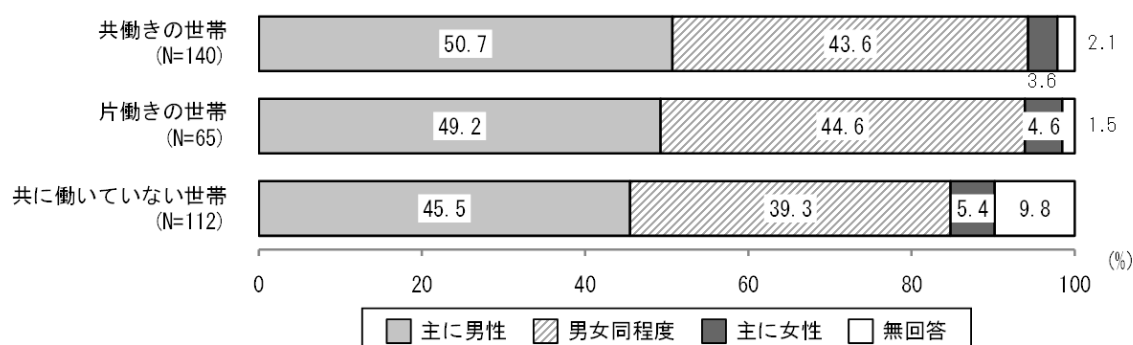
共働きの状況別に“生活費を稼ぐ”の現実の役割分担をみると、「主に男性」が片働きの世帯で8割、共働きの世帯、共に働いていない世帯で過半数を占めている。

【図 3-1-7 家庭内での役割分担（現実）“⑦日々の家計の管理”（共働きの状況別）】



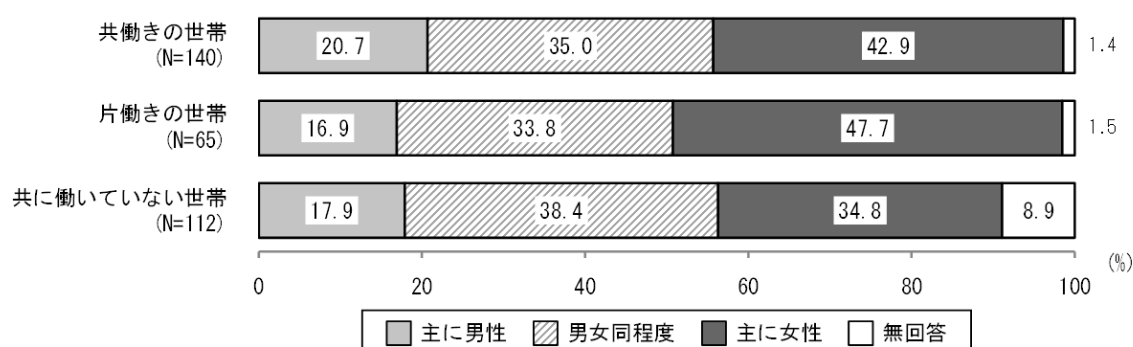
共働きの状況別に“日々の家計の管理”の現実の役割分担をみると、「主に女性」が片働きの世帯で7割、共働きの世帯、共に働いていない世帯で過半数を占めている。

【図 3-2-8 家庭内での役割分担（現実）
“⑧高額商品や土地・家屋などの購入”（共働きの状況別）】



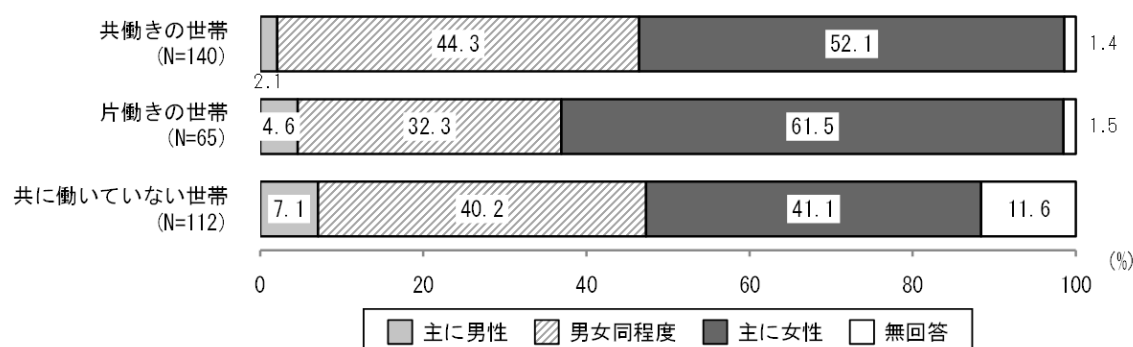
共働きの状況別に“高額商品や土地・家屋などの購入”の現実の役割分担をみると、大きな差はみられない。

【図 3-2-9 家庭内での役割分担（現実）“⑨預貯金などの財産管理”（共働きの状況別）】



共働きの状況別に“預貯金などの財産管理”の現実の役割分担をみると、共働きの世帯、片働きの世帯で「主に女性」が4割を占め最も多い。

【図 3-2-10 家庭内での役割分担（現実）
“⑩地域活動や学校行事への参加”（共働きの状況別）】

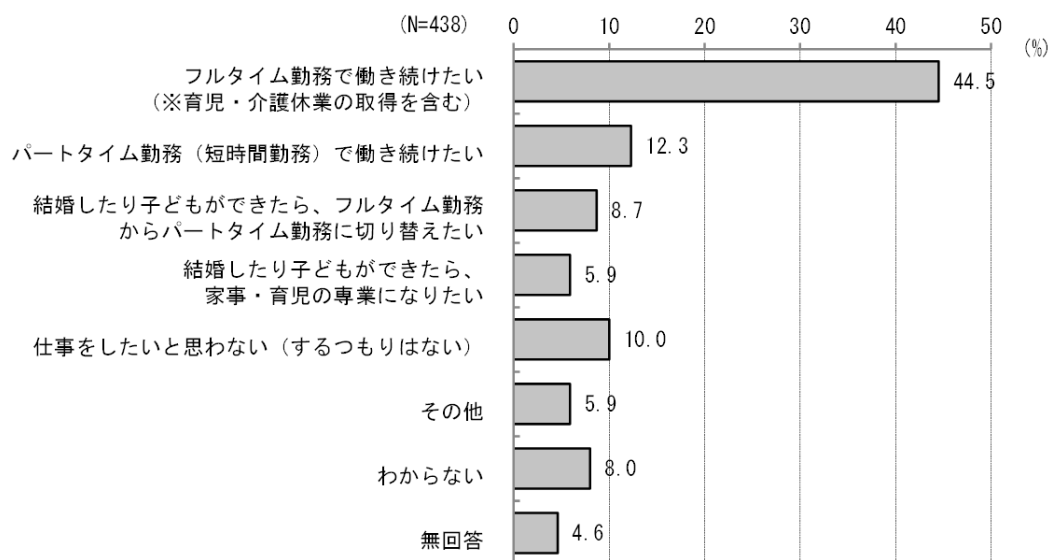


共働きの状況別に“⑩地域活動や学校行事への参加”の現実の役割分担をみると、いずれも「主に女性」が最も多く、片働きの世帯で61.5%となっている。

(2) 仕事に対する考え

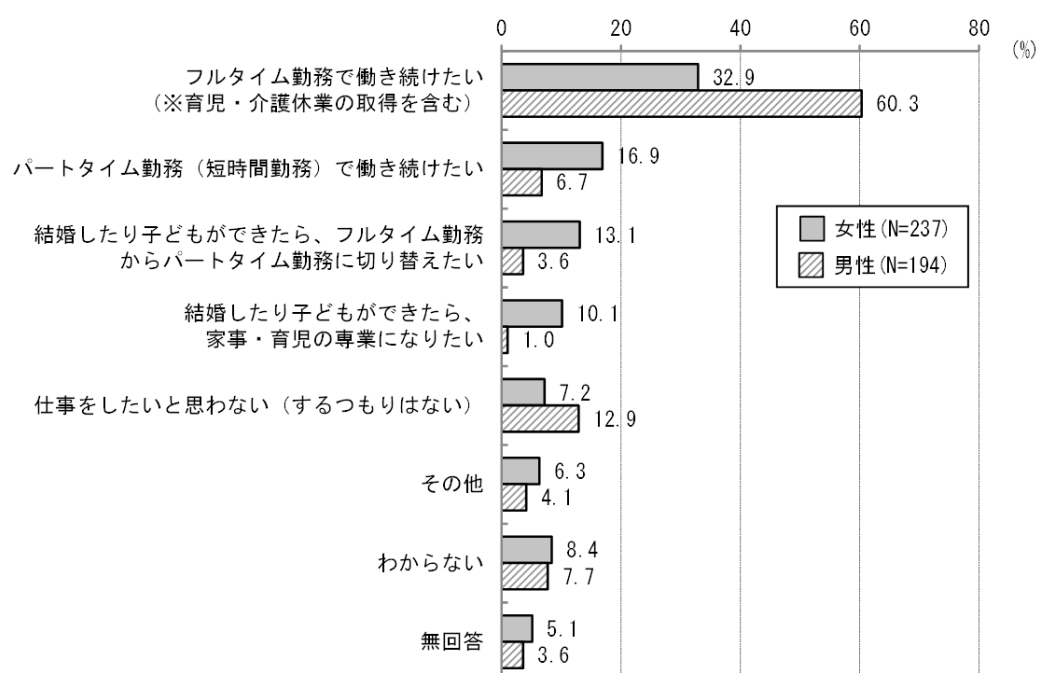
問12 あなた自身、仕事に対してどのように考えていますか。
<最もあてはまるもの1つに○>

【図3-3 仕事に対する考え】



仕事に対する考えは、「フルタイム勤務で働きたい(※育児・介護休業の取得を含む)」が44.5%と最も多く、次いで「パートタイム勤務(短時間勤務)で働きたい」が12.3%、「仕事をしたいと思わない(するつもりはない)」が10.0%となっている。

【図 3-3-1 仕事に対する考え（性別）】

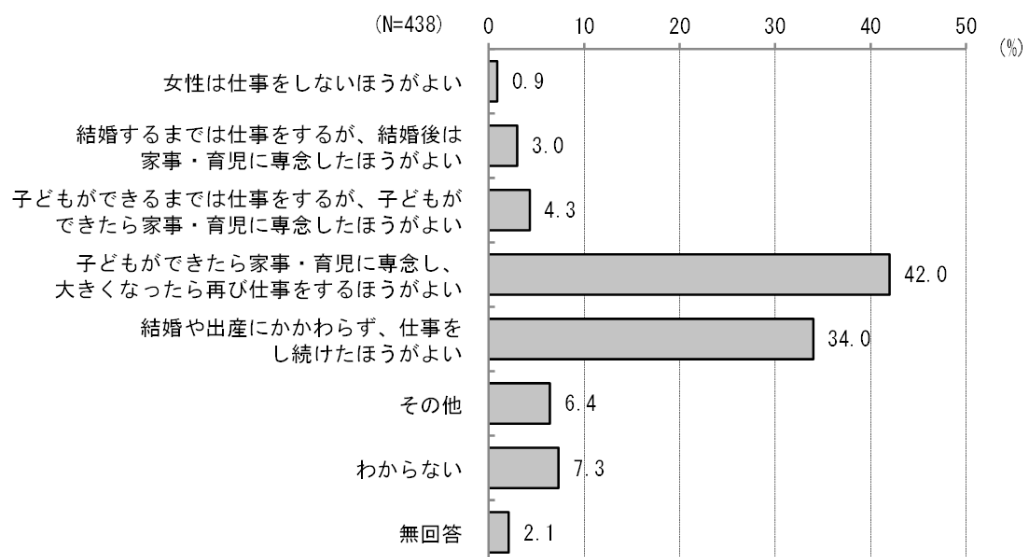


性別に仕事に対する考えをみると、男女ともに「フルタイム勤務で働き続けたい（※育児・介護休業の取得を含む）」が最も多くなっているものの、女性で 32.9% に対し、男性で 60.3% と 27.4 ポイントの差がある。

(3) 『女性が仕事をする』ことに対する考え

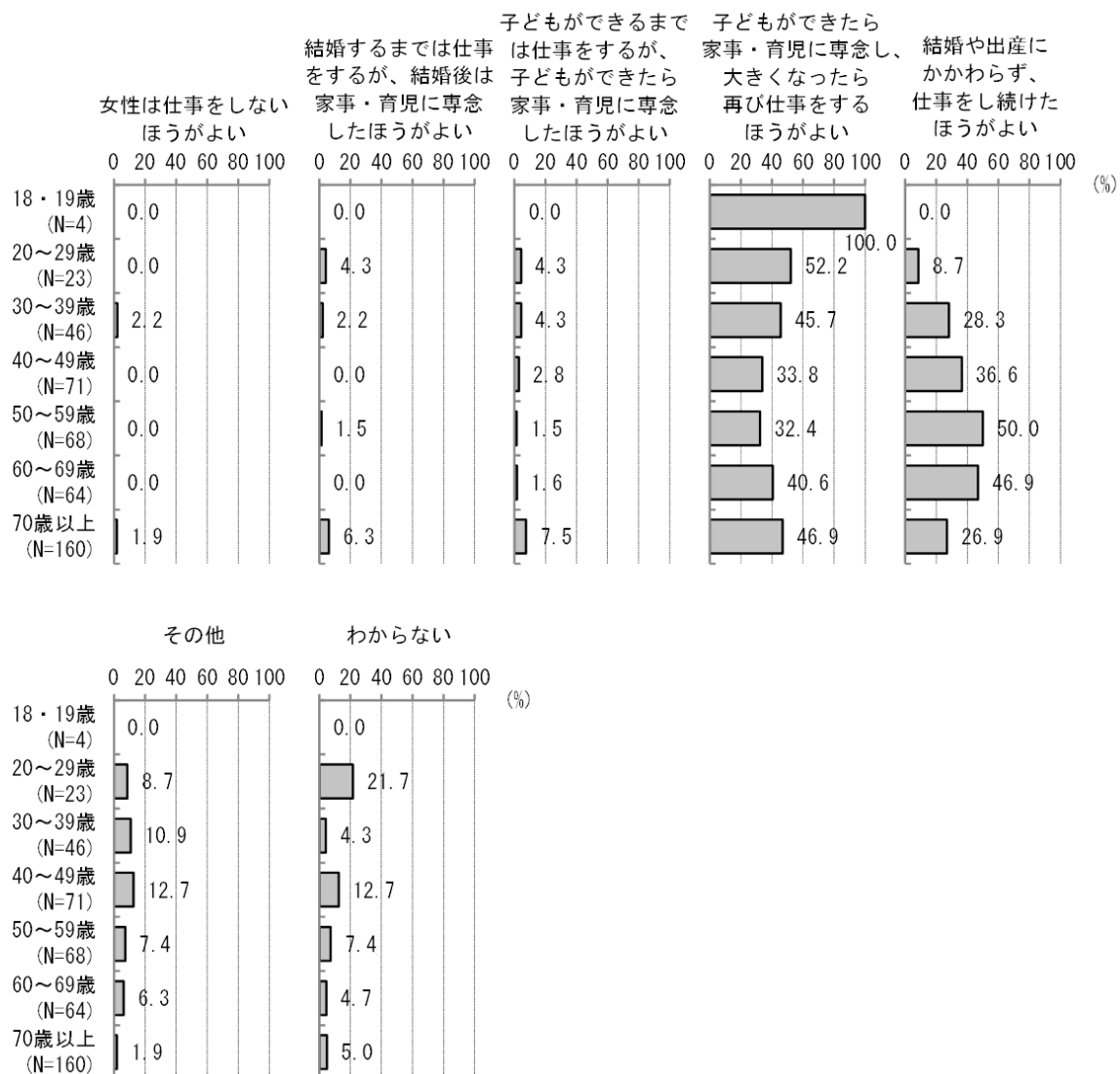
問 13 『女性が仕事をする』ということについて、あなたはどのように考えますか。
＜あなたの考えに最も近いもの1つに○＞

【図 3-4 『女性が仕事をする』ことに対する考え】



『女性が仕事をする』ことに対する考えは、「子どもができたら家事・育児に専念し、大きくなったら再び仕事をするほうがよい」が42.0%、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けたほうがよい」が34.0%と多くなっている。

【図 3-4-1 『女性が仕事をする』ことに対する考え（年齢別）】

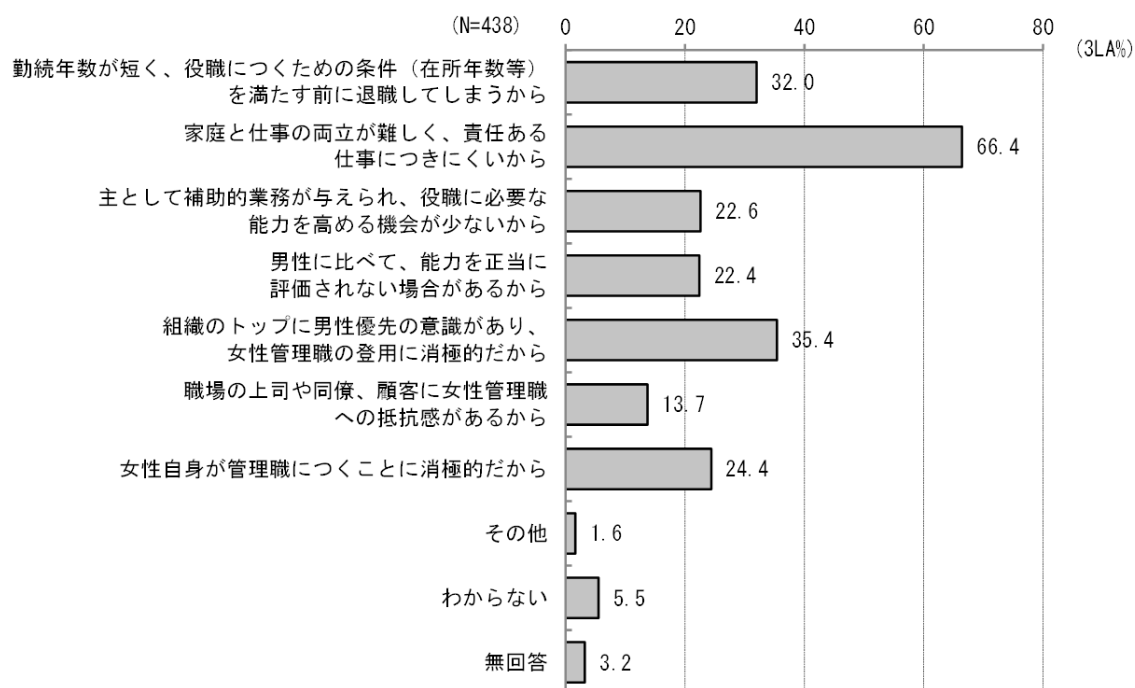


年齢別に『女性が仕事をする』ことに対する考えをみると、20～29歳、30～39歳、70～79歳では「子どもができたら家事・育児に専念し、大きくなったら再び仕事をするほうがよい」が5割前後を占め最も多く、40～69歳の各年齢層では「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けたほうがよい」が最も多い。

(4) 女性の役職登用が進みにくい理由

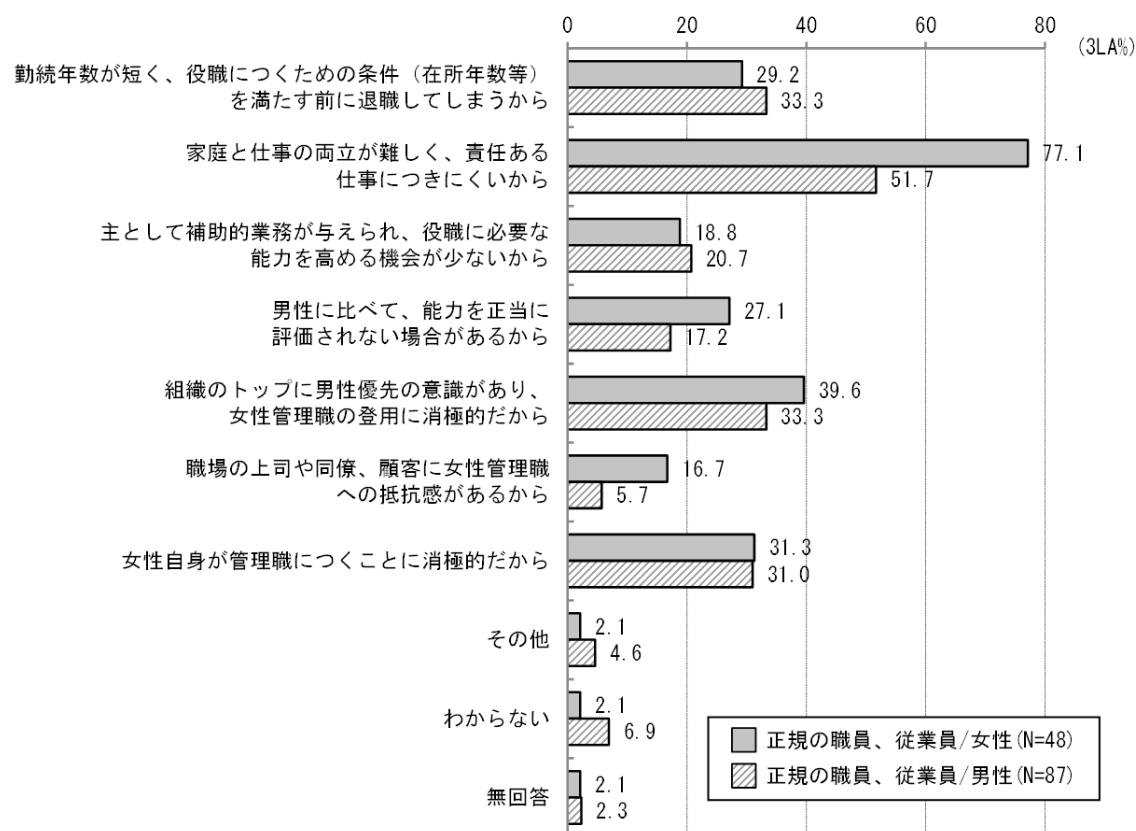
問 14 現状、管理職などの意思決定を行う管理的部門や指導的地位への女性の登用が進みにくい理由として、どのようなものがあると考えますか。
 <○は主なもの3つまで>

【図 3-5 女性の役職登用が進みにくい理由】



管理職などの意思決定を行う管理的部門や指導的地位への女性の登用が進みにくい理由は、「家庭と仕事の両立が難しく、責任ある仕事につきにくいから」が 66.4%と最も多く、次いで「組織のトップに男性優先の意識があり、女性管理職の登用に消極的だから」が 35.4%、「勤続年数が短く、役職につくための条件（在所年数等）を満たす前に退職してしまうから」が 32.0%となっている。

【図 3-5-1 女性の役職登用が進みにくい理由（性別）
 < “正規の職員、従業員” の場合 >】

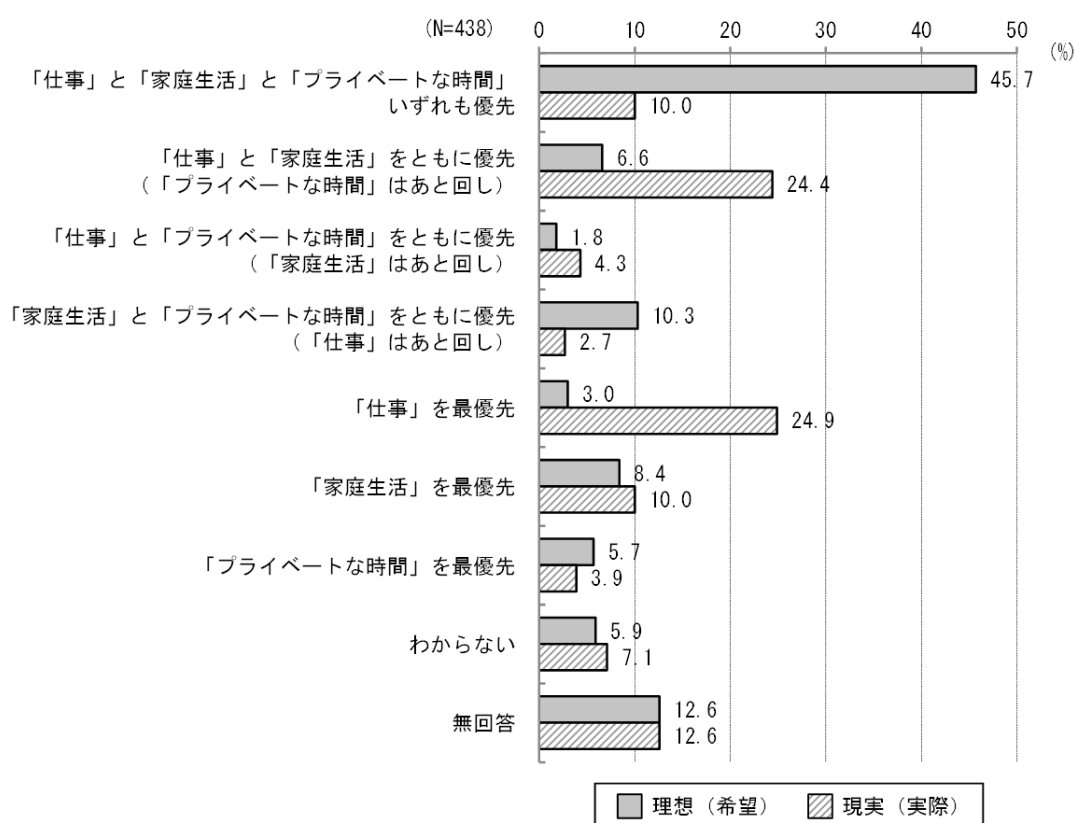


正規の職員、従業員の性別に女性の役職登用が進みにくい理由をみると、男女ともに「家庭と仕事の両立が難しく、責任ある仕事につきにくいから」が最も多く、女性で77.1%と男性（51.7%）より25.4ポイント高くなっている。

（５）仕事・家庭・プライベートの優先度

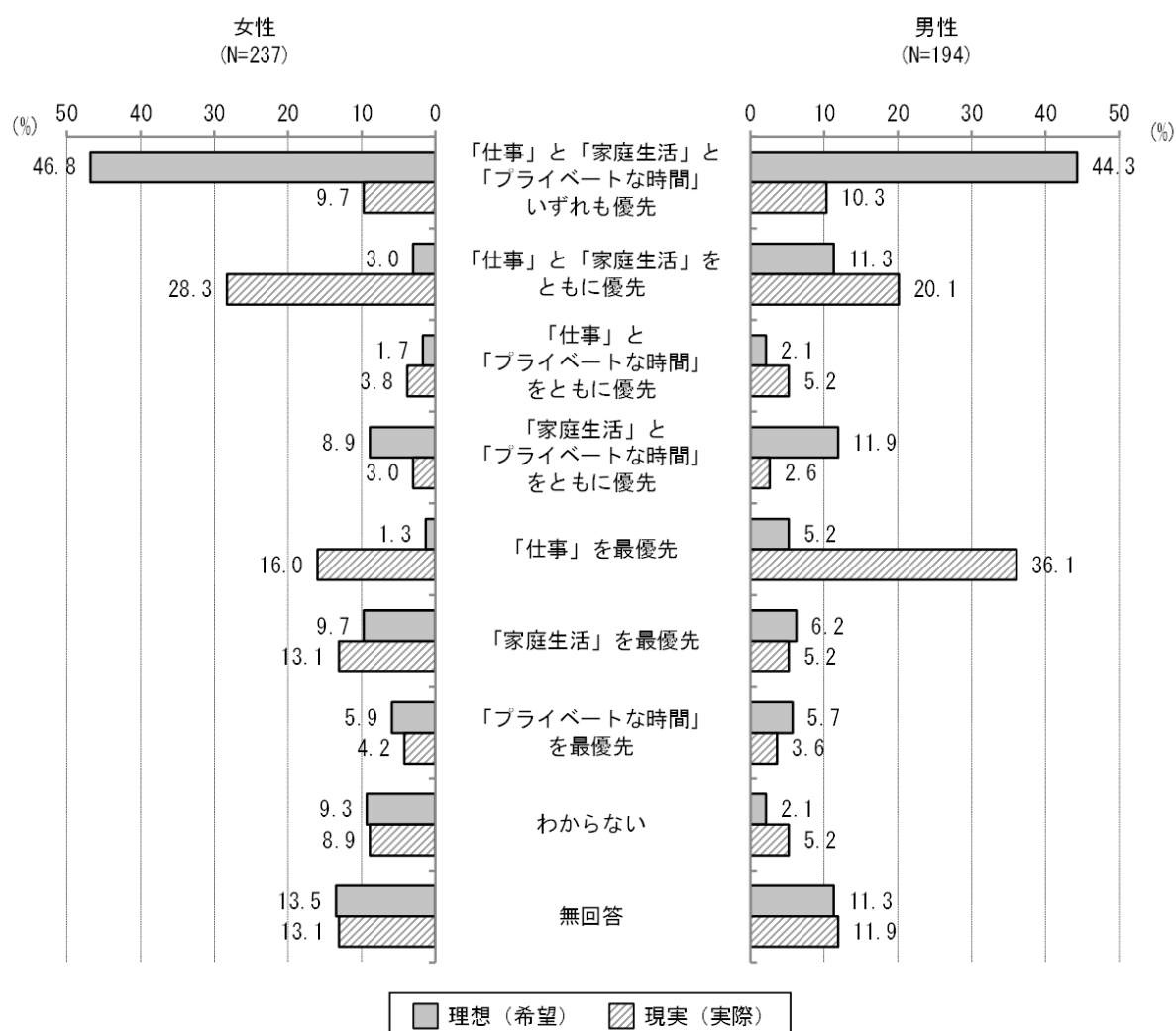
問 15 あなたの中での「仕事」、「家庭生活」、「プライベートな時間（地域活動・学習・趣味・付き合い等）」の優先度について、理想（希望）と現実（実際）それぞれについてお答えください。＜理想と現実で○はそれぞれ１つずつ＞

【図 3-6 仕事・家庭・プライベートの優先度】



仕事・家庭生活・プライベートな時間（地域活動・学習・趣味・付き合い等）の優先度をたずねたところ、理想（希望）では「「仕事」と「家庭生活」と「プライベートな時間」いずれも優先」が45.7%で最も多い。一方、現実（実際）では「「仕事」を最優先」が24.9%と最も多く、次いで「「仕事」と「家庭生活」をともに優先（「プライベートな時間」はあと回し）」が24.4%となっている。

【図 3-6-1 仕事・家庭・プライベートの優先度（性別）】

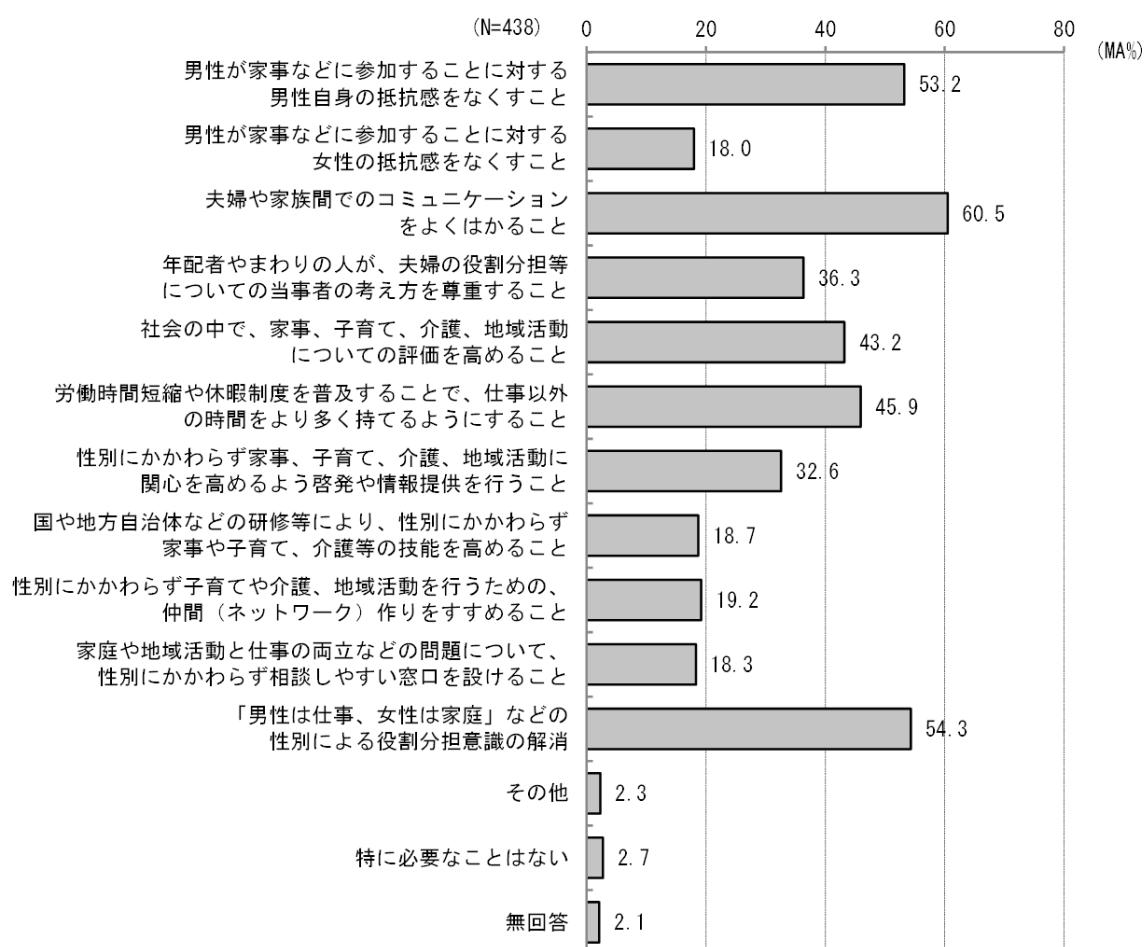


性別に仕事・家庭生活・プライベートな時間の理想（希望）の優先度をみると、男女ともに「「仕事」と「家庭生活」と「プライベートな時間」いずれも優先」が4割を占め最も多く、次いで女性では「「家庭生活」を最優先」（9.7%）、男性では「「家庭生活」と「プライベートな時間」をともに優先」（11.9%）となっている。一方、現実（実際）について女性では「「仕事」と「家庭生活」をともに優先」（28.3%）、男性では「「仕事」を最優先」（36.1%）が最も多くなっている。

(6) 誰もが家事等に参加するために必要なこと

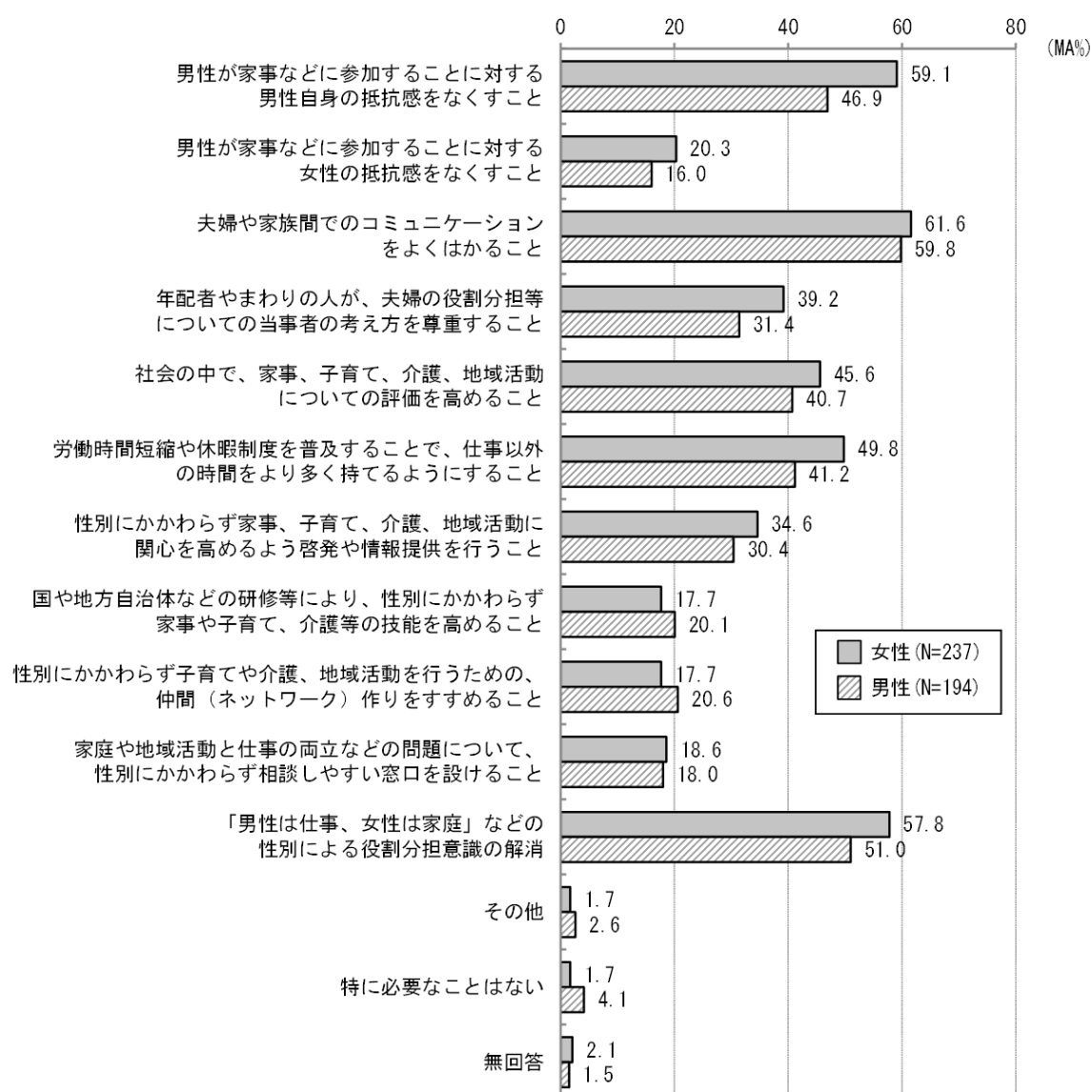
問 16 今後、性別にかかわらず誰もが家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加するようになるためにはどのようなことが必要だと思いますか。
 <あてはまるものすべてに○>

【図 3-7 誰もが家事等に参加するために必要なこと】



性別にかかわらず誰もが家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加するようになるために必要なことは、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が60.5%と最も多く、次いで「男性は仕事、女性は家庭」などの性別による役割分担意識の解消が54.3%、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が53.2%となっている。

【図 3-7-1 誰もが家事等に参加するために必要なこと（性別）】



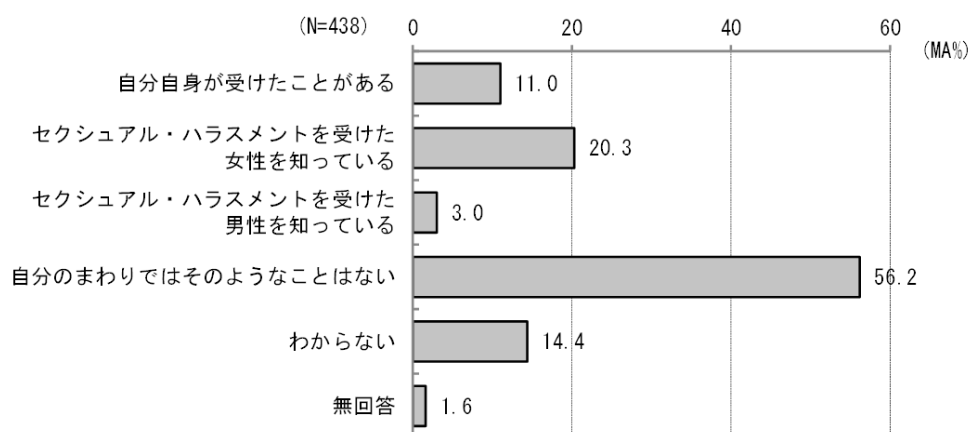
性別に誰もが家事等に参加するために必要なことをみると、男女ともに「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が最も多く、女性で61.6%、男性で59.8%となっている。次いで、女性では「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が59.1%と男性（46.9%）より12.2ポイント高くなっている。男性では「男性は仕事、女性は家庭」などの性別による役割分担意識の解消」が51.0%となっている。

4 男女の人権について

(1) セクシュアル・ハラスメントを見聞きした経験

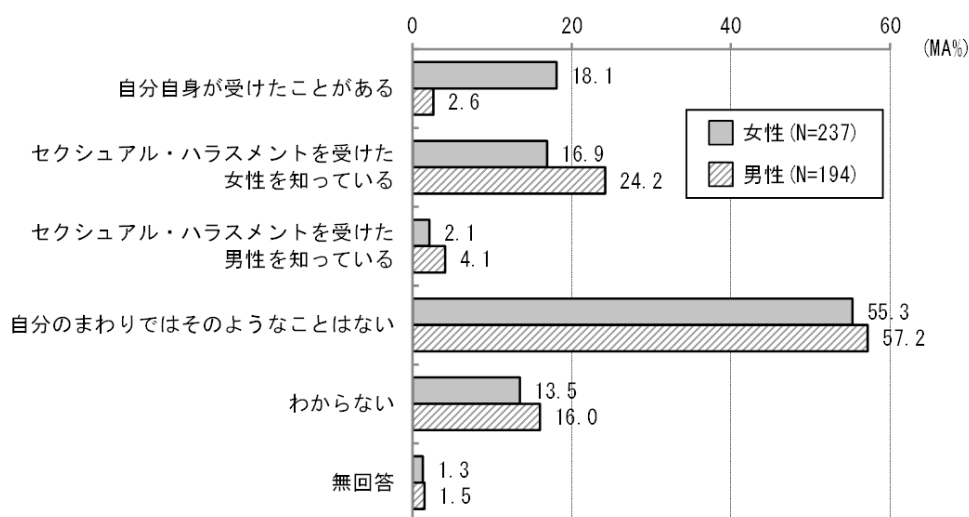
問 17 セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）を受けたり、見聞きしたことがありますか。〈あてはまるものすべてに○〉

【図 4-1 セクシュアル・ハラスメントを見聞きした経験】



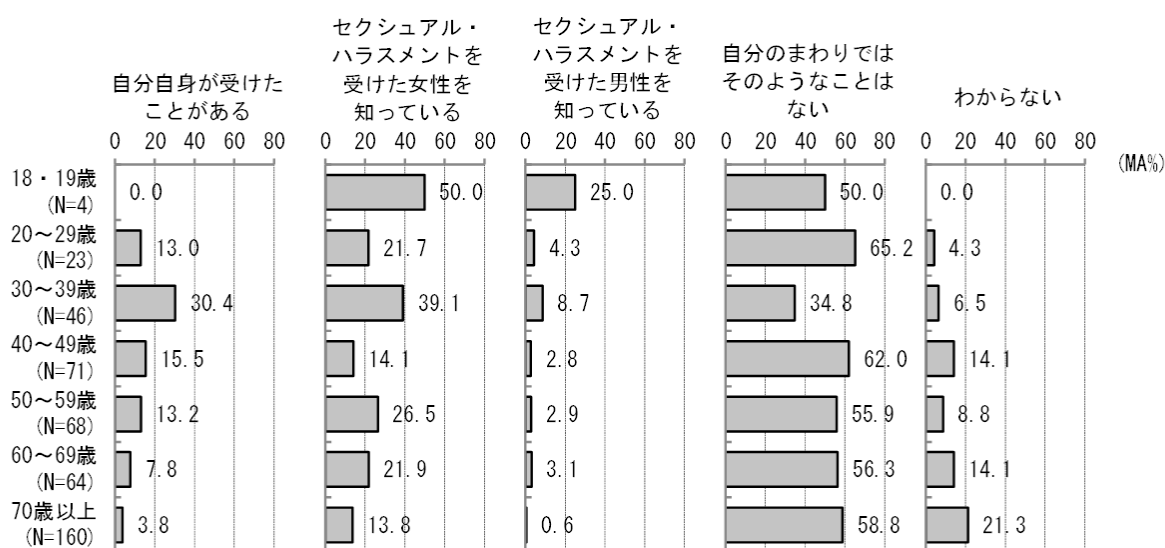
セクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)について、「自分のまわりではそのようなことはない」が56.2%と過半数を占めている。一方、「セクシュアル・ハラスメントを受けた女性を知っている」が20.3%、「自分自身が受けたことがある」が11.0%となっている。

【図 4-1-1 セクシュアル・ハラスメントを見聞きした経験（性別）】



性別にセクシュアル・ハラスメントを見聞きした経験をみると、男女ともに「自分のまわりではそのようなことはない」が過半数を占めて最も多くなっているものの、「自分自身が受けたことがある」は女性で18.1%、男性で2.6%と差がみられる。

【図 4-1-2 セクシュアル・ハラスメントを見聞きした経験（年齢別）】

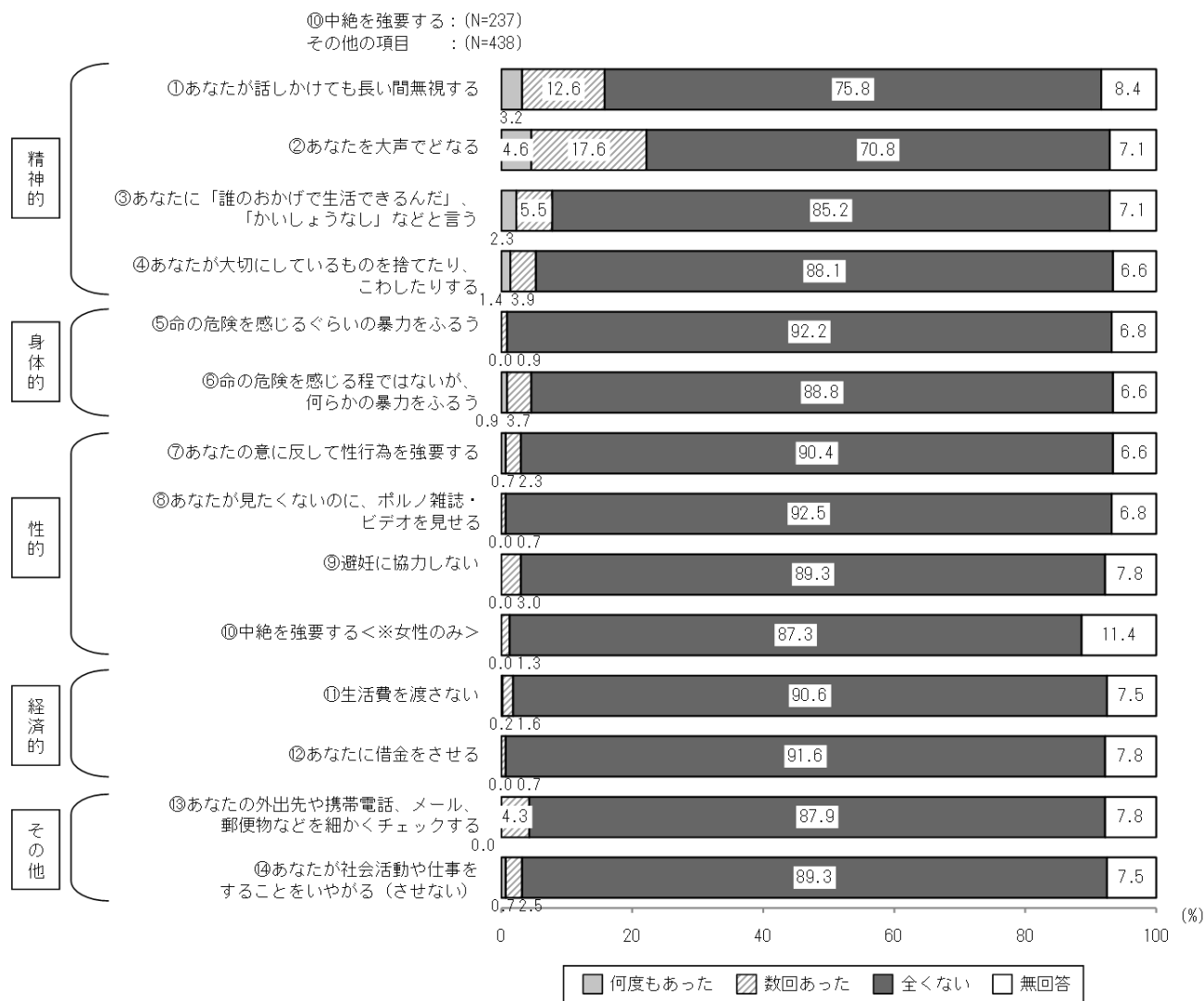


年齢別にセクシュアル・ハラスメントを見聞きした経験をみると、30～39歳で「自分の周りではそのようなことはない」が他に比べて低くなっているが、「自分自身が受けたことがある」「セクシュアル・ハラスメントを受けた女性を知っている」では3割を占めている。

(2) DV被害の経験

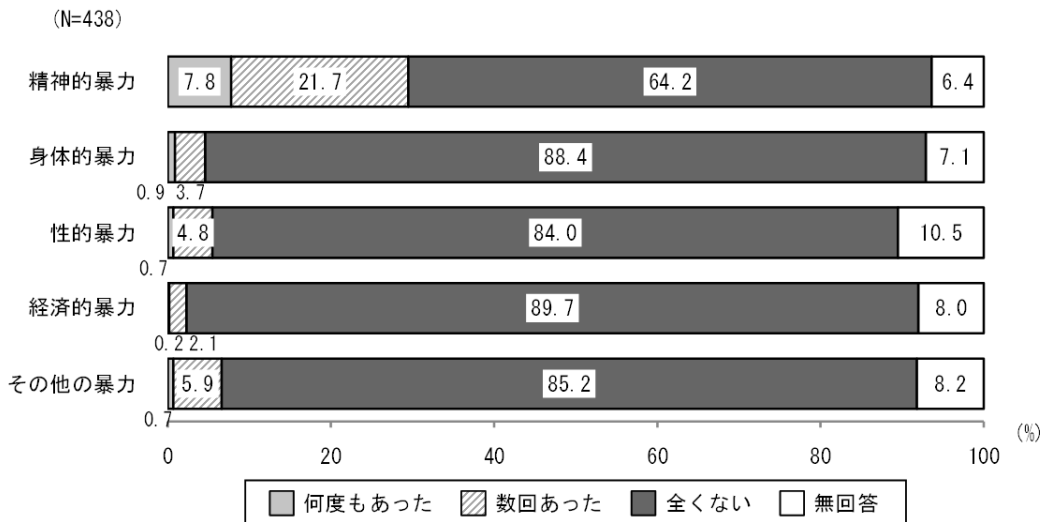
問 18 あなたは直近5年間で、恋人、配偶者、パートナーから次のような行為をされたことがありますか。＜①～⑭の項目ごとに○はそれぞれ1つずつ＞

【図 4-2 DV被害の経験】



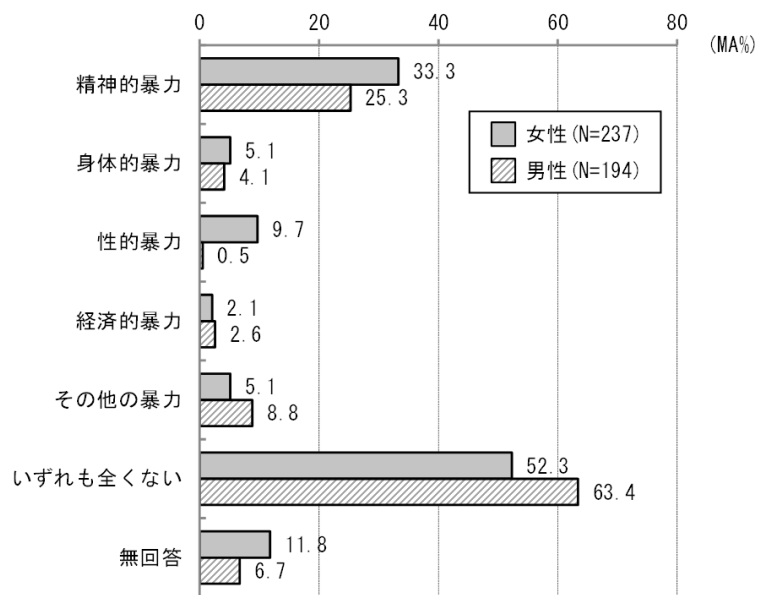
直近5年間で、恋人、配偶者、パートナーからDVにあたる行為を受けた経験をたずねたところ、『被害を受けた』（「何度もあった」＋「数回あった」）は“②あなたを大声でどなる”が22.2%と最も多く、次いで“①あなたが話しかけても長い間無視する”が15.8%、“③あなたに「誰のおかげで生活できるんだ」、「かいしょうなし」などと言う”が7.8%となっており、精神的暴力で割合が多くなっている。

【図 4-2-1 DV被害の経験（暴力の種類）】



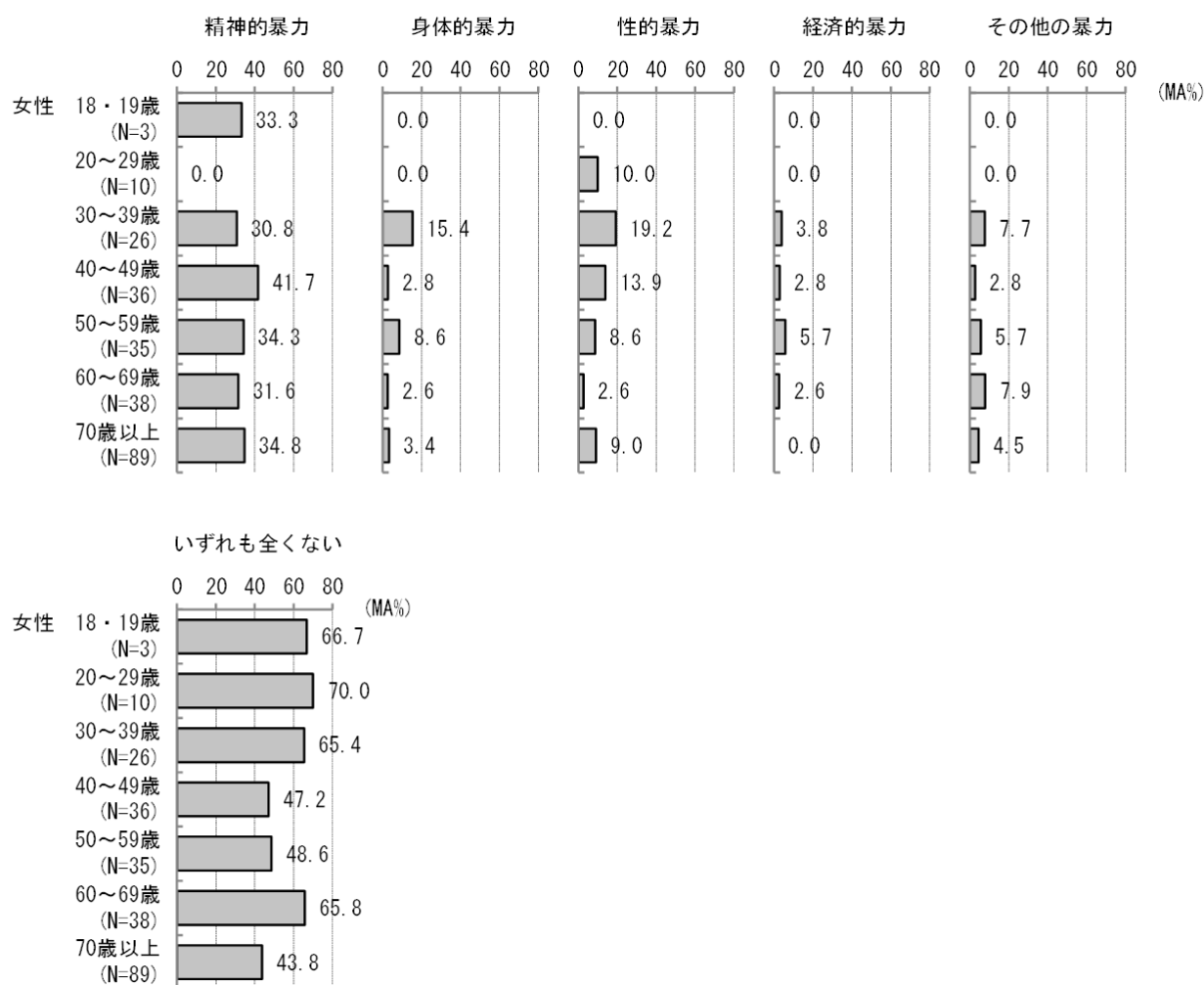
DV被害の経験を暴力の種類で分類してみると、精神的暴力で『被害を受けた』が29.5%と3割近くを占めている。

【図 4-2-2 DV被害の経験（性別）＜「被害を受けた」割合＞】



性別にDV被害を受けた割合をみると、「性的暴力」「精神的暴力」は女性の方が5ポイント以上高くなっている。一方、「いずれも全くない」は女性で52.3%、男性で63.4%となっている。

【図 4-2-3 DV被害の経験（年齢別）＜女性で「被害を受けた」割合＞】



女性の年齢別にDV被害を受けた割合をみると、「身体的暴力」は30～39歳、「性的暴力」は30～39歳、40～49歳で1割を占めている。また、40～49歳で「精神的暴力」が41.7%と他に比べて高い。

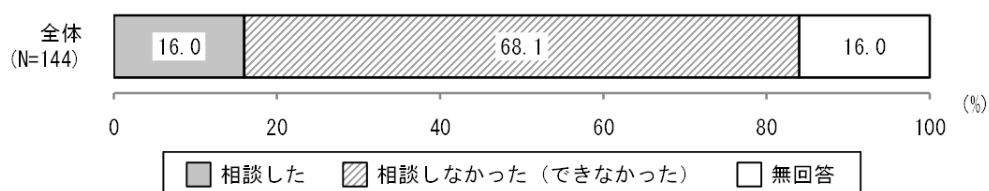
(3) DV被害を受けた際の相談の状況

■DV被害を受けた際の相談の有無

問 18 の①～⑭のうち、1 つでも「何度もあった」もしくは「数回あった」と回答した方にお聞きします。

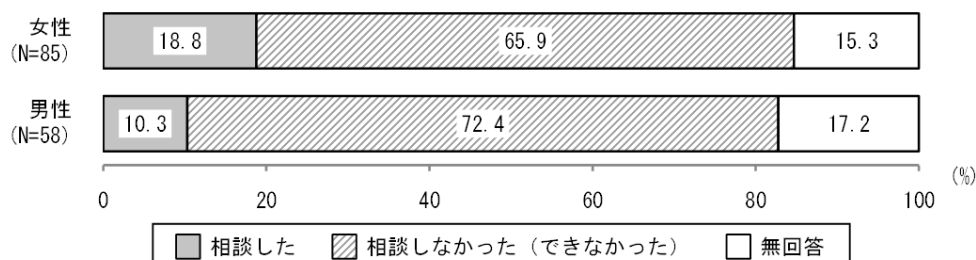
問 19 相手からいずれかの被害を受けた際、誰かに（どこかに）相談しましたか。
<○は1つ>

【図 4-3 DV被害を受けた際の相談の有無】



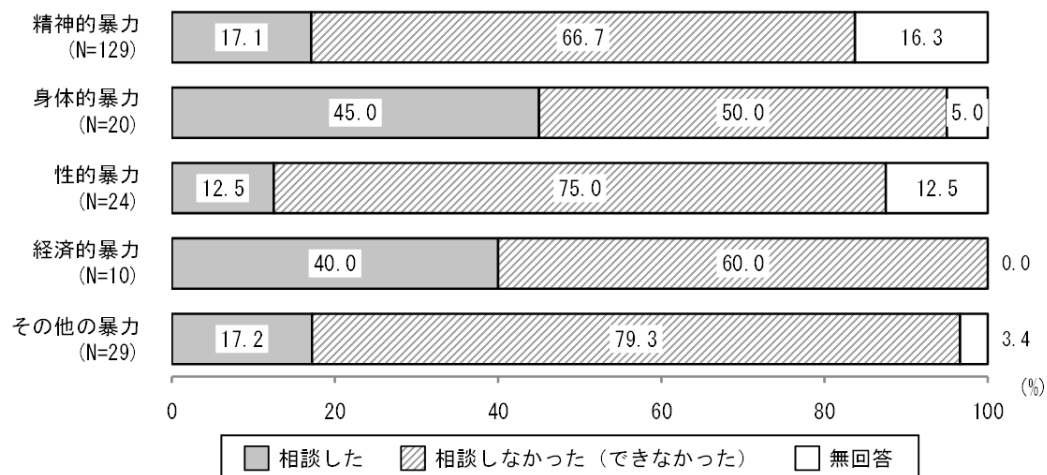
いずれかのDV被害を受けたと回答した人のうち、その際誰かに「相談した」は16.0%となっている。一方、「相談しなかった(できなかった)」は68.1%となっている。

【図 4-3-1 DV被害を受けた際の相談の有無（性別）】



性別にDV被害を受けた際の相談の有無をみると、男女ともに「相談した」は1割となっているが、女性で18.8%と男性（10.3%）より8.5ポイント高くなっている。

【図 4-3-2 DV被害を受けた際の相談の有無（DV被害の種類別）】



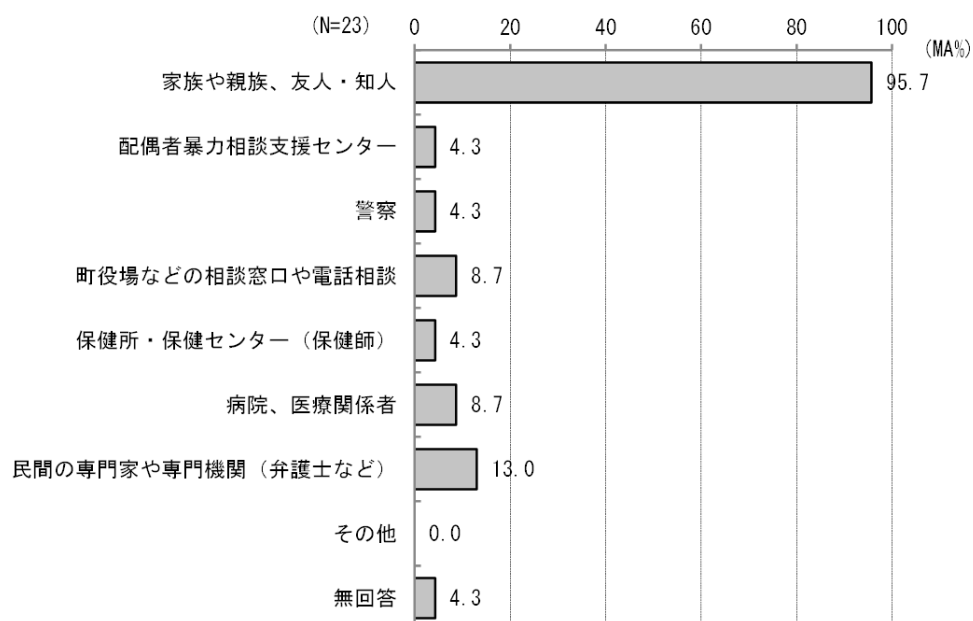
DV被害の種類別にDV被害を受けた際の相談の有無をみると、身体的暴力、経済的暴力で「相談した」が4割を占めている。

■DV被害を受けた際の相談先

問 19 で「相談した」と回答した方にお聞きします。

問 19-1 誰に（どこに）相談しましたか。＜あてはまるものすべてに○＞

【図 4-4 DV被害を受けた際の相談先】



DV被害を受けた際に誰かに（どこかに）相談したと回答した人の相談先は、「家族や親族、友人・知人」が95.7%と最も多くなっている。

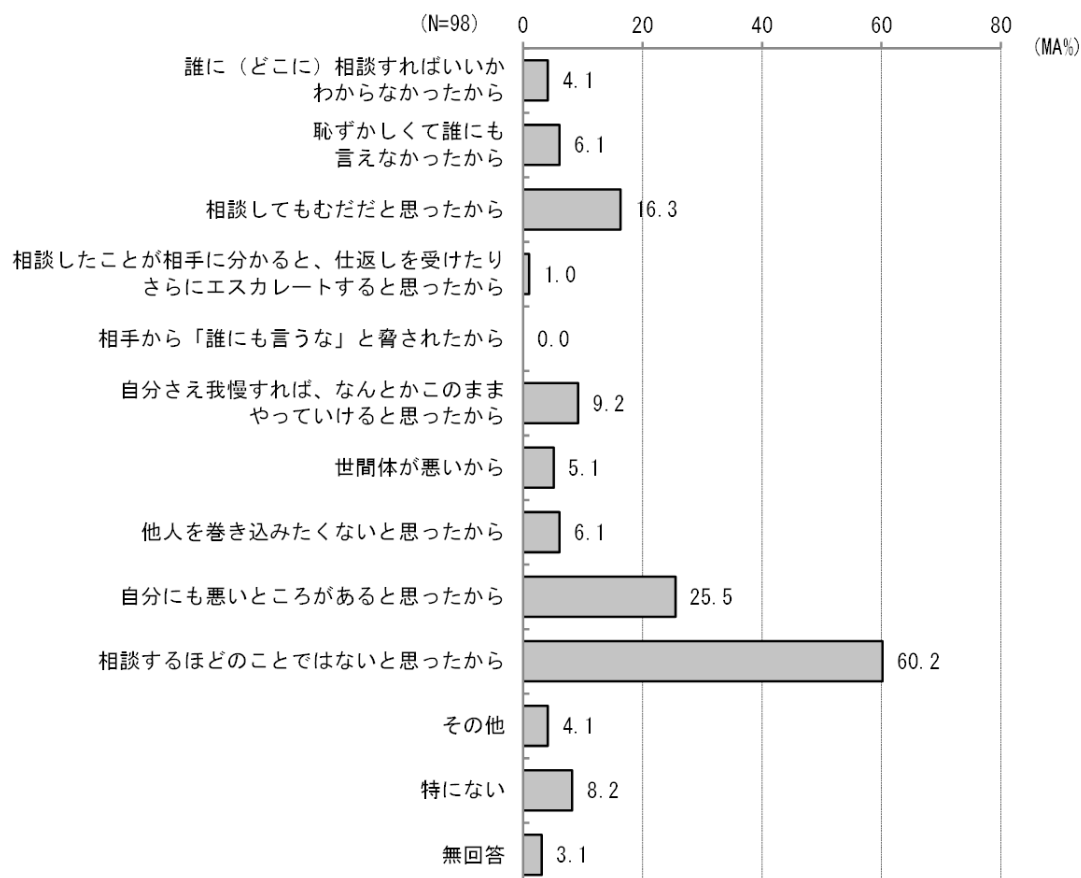
■DV被害を受けた際に相談しなかった理由

問19-1で「相談しなかった（できなかった）」と回答した方にお聞きします。

問19-2 相談しなかった（できなかった）理由は何ですか。

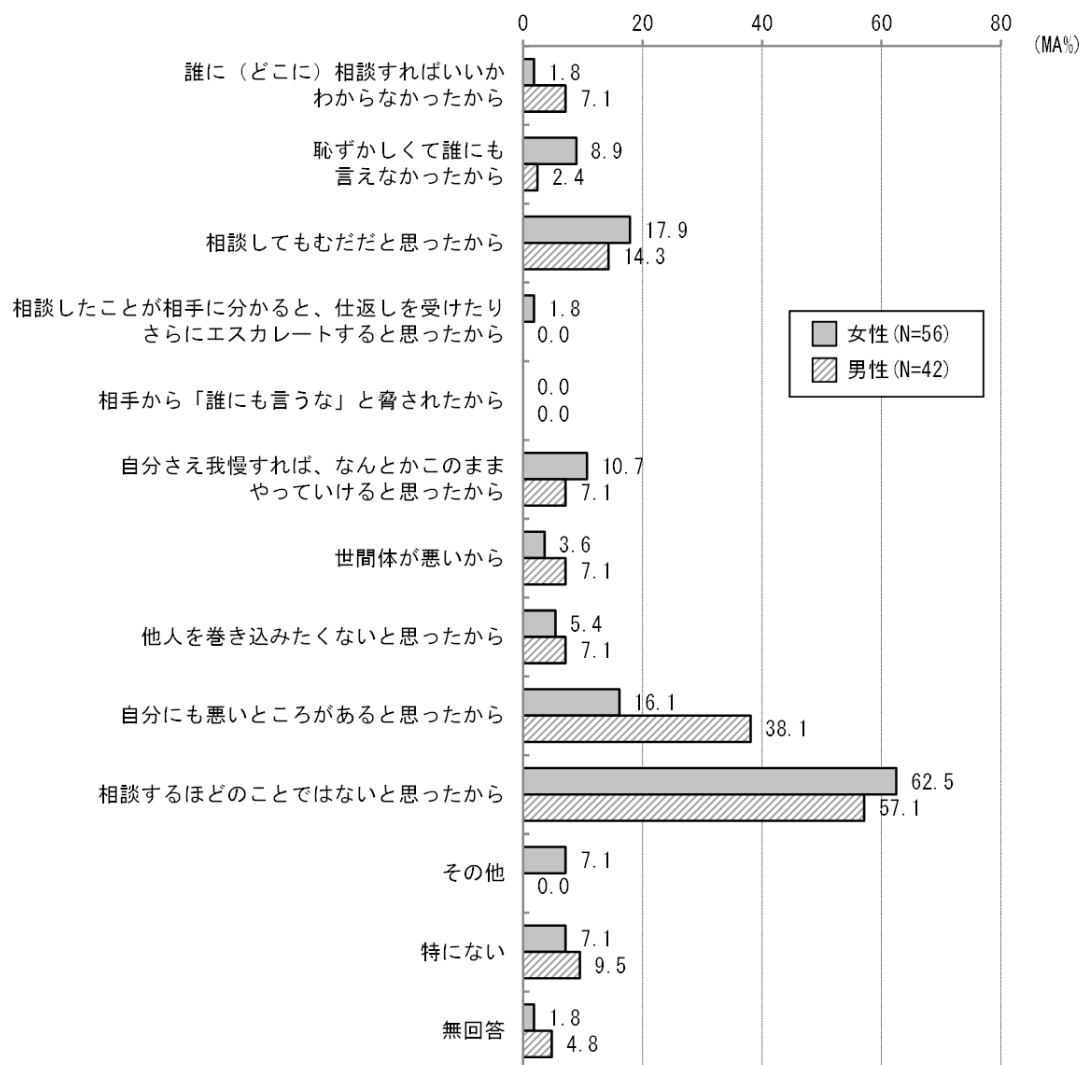
<あてはまるものすべてに○>

【図4-5 DV被害を受けた際に相談しなかった理由】



DV被害を受けた際に相談しなかった（できなかった）と回答した人にその理由をたずねたところ、「相談するほどのことではないと思ったから」が60.2%と最も多く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」が25.5%、「相談してもむだだと思ったから」が16.3%となっている。

【図 4-5-1 DV被害を受けた際に相談しなかった理由（性別）】



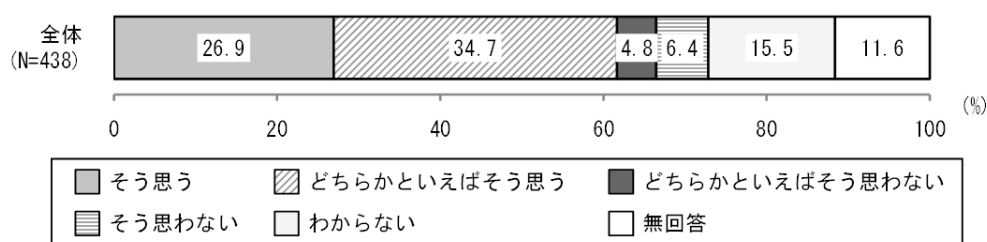
性別にDV被害を受けた際に相談しなかった理由をみると、男女ともに「相談するほどのことではないと思ったから」が最も多く、女性で62.5%、男性で57.1%となっている。次いで、女性では「相談してもむだだと思ったから」（17.9%）、男性では「自分にも悪いところがあると思ったから」（38.1%）となっている。

(4) 性的マイノリティについて

■性的マイノリティにとって、現状は生活しづらい社会であるか

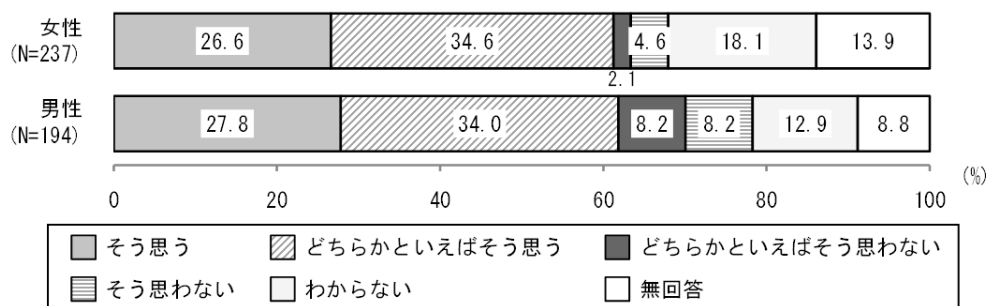
問 20 L G B T Q +をはじめとする性的マイノリティ（性的な少数者）にとって、現状は生活しづらい社会だと思いますか。＜○は1つ＞

【図 4-6 性的マイノリティにとって、現状は生活しづらい社会であるか】



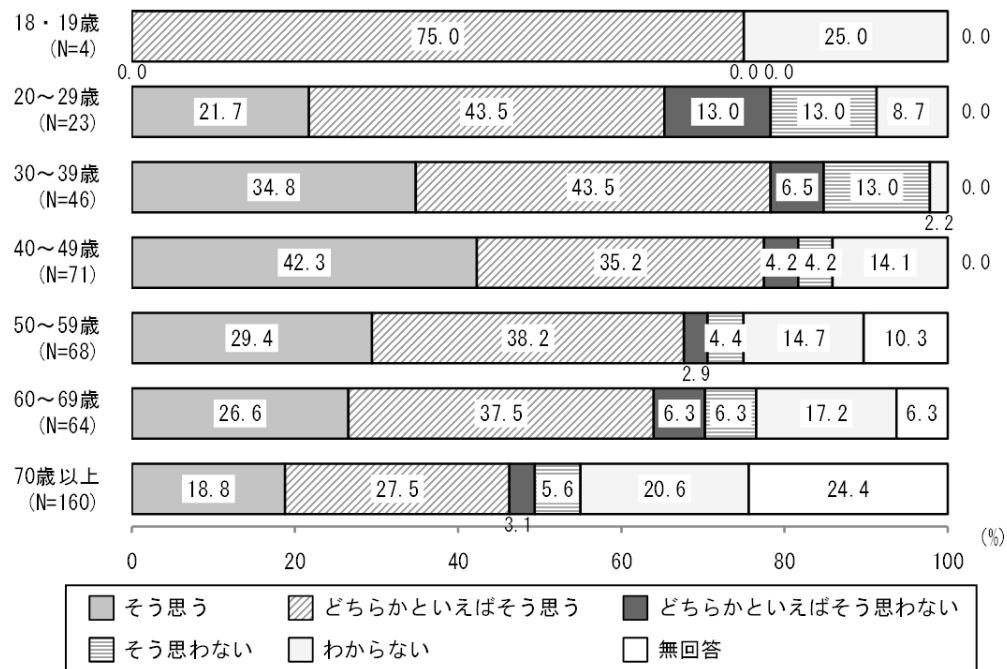
L G B T Q +をはじめとする性的マイノリティ（性的な少数者）にとって、現状は生活しづらい社会だと思うかたずねたところ、『そう思う』（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）は61.6％となっている。一方、『そう思わない』（「そう思わない」＋「どちらかといえばそう思わない」）は11.2％となっている。

【図 4-6-1 性的マイノリティにとって、現状は生活しづらい社会であるか（性別）】



性別にみると、男性で『そう思わない』が16.4％と女性（6.7％）より9.7ポイント高くなっている。

【図 4-6-2 性的マイノリティにとって、現状は生活しづらい社会であるか（年齢別）】



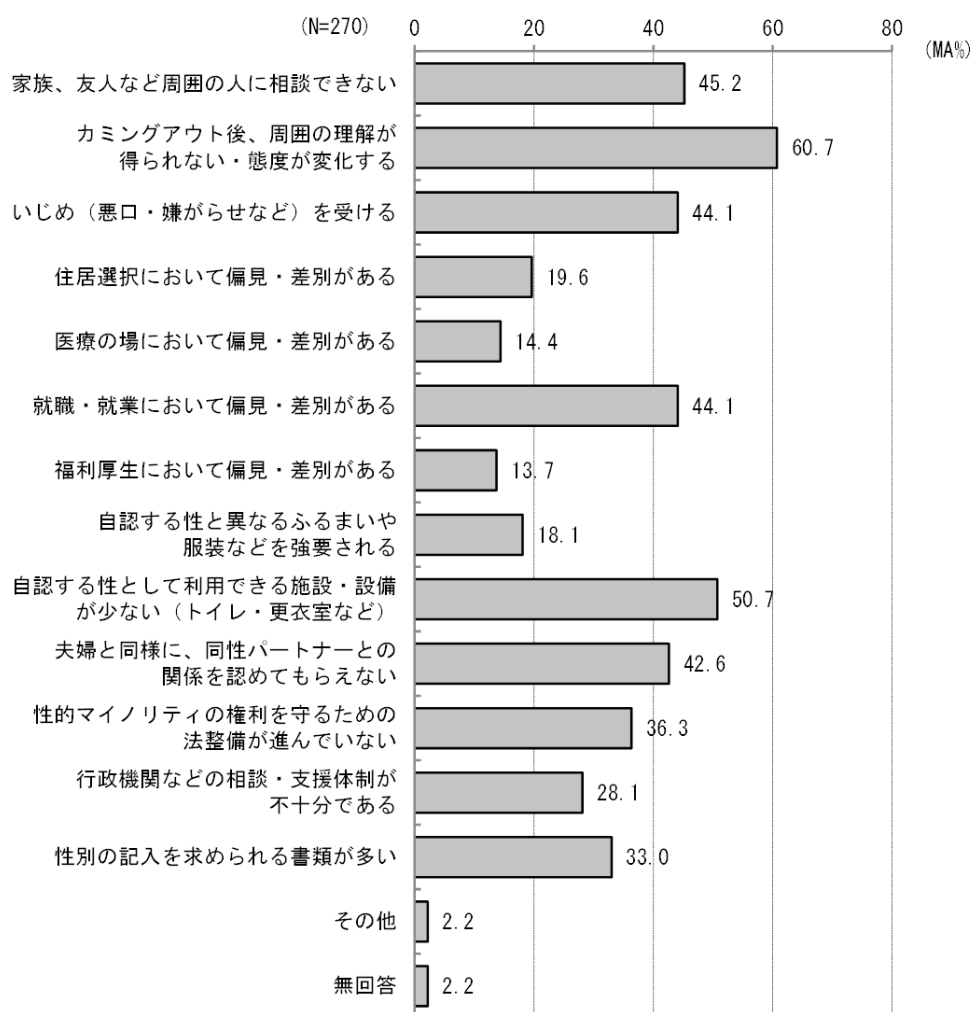
年齢別にみると、30～39歳、40～49歳で『そう思う』が7割を占めている。

■性的マイノリティが生活しづらいと思う要因

問 20 で「そう思う」もしくは「どちらかといえばそう思う」と回答した方にお聞きします。

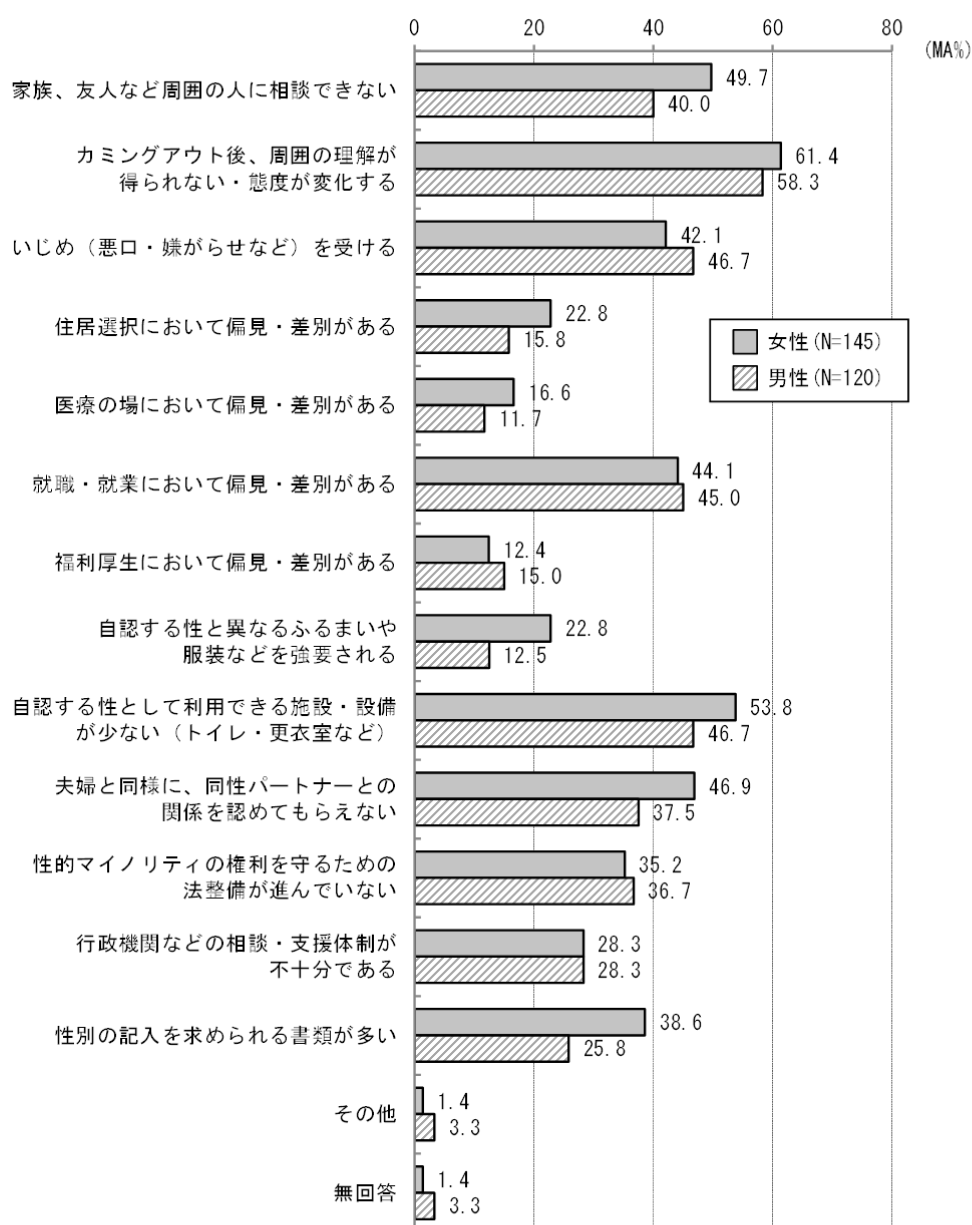
問 20－1 どのようなことが生活しづらい要因になっていると思いますか。
 <あてはまるものすべてに○>

【図 4-7 性的マイノリティが生活しづらいと思う要因】



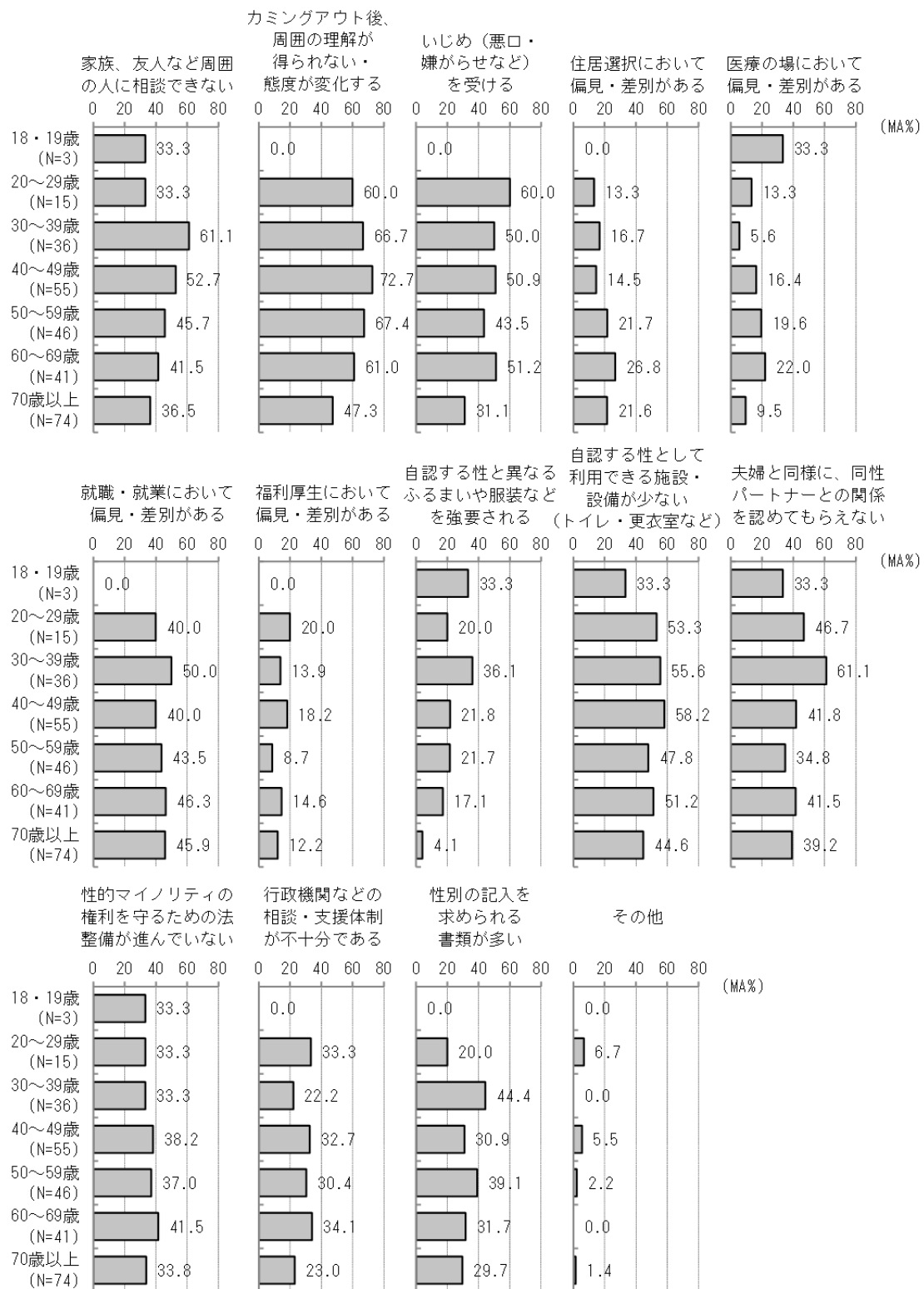
性的マイノリティが生活しづらいと思うと回答した人にその要因をたずねたところ、「カミングアウト後、周囲の理解が得られない・態度が変化する」が60.7%と最も多く、次いで「自認する性として利用できる施設・設備が少ない（トイレ・更衣室など）」が50.7%、「家族、友人など周囲の人に相談できない」が45.2%、「いじめ（悪口・嫌がらせなど）を受ける」「就職・就業において偏見・差別がある」がともに44.1%、「夫婦と同様に、同性パートナーとの関係を認めてもらえない」が42.6%となっている。

【図 4-7-1 性的マイノリティが生活しづらいと思う要因（性別）】



性別に性的マイノリティが生活しづらいと思う要因をみると、女性で「性別の記入を求められる書類が多い」「自認する性と異なるふるまいや服装などを強要される」が男性より10ポイント以上高くなっている。

【図 4-7-2 性的マイノリティが生活しづらいと思う要因（年齢別）】

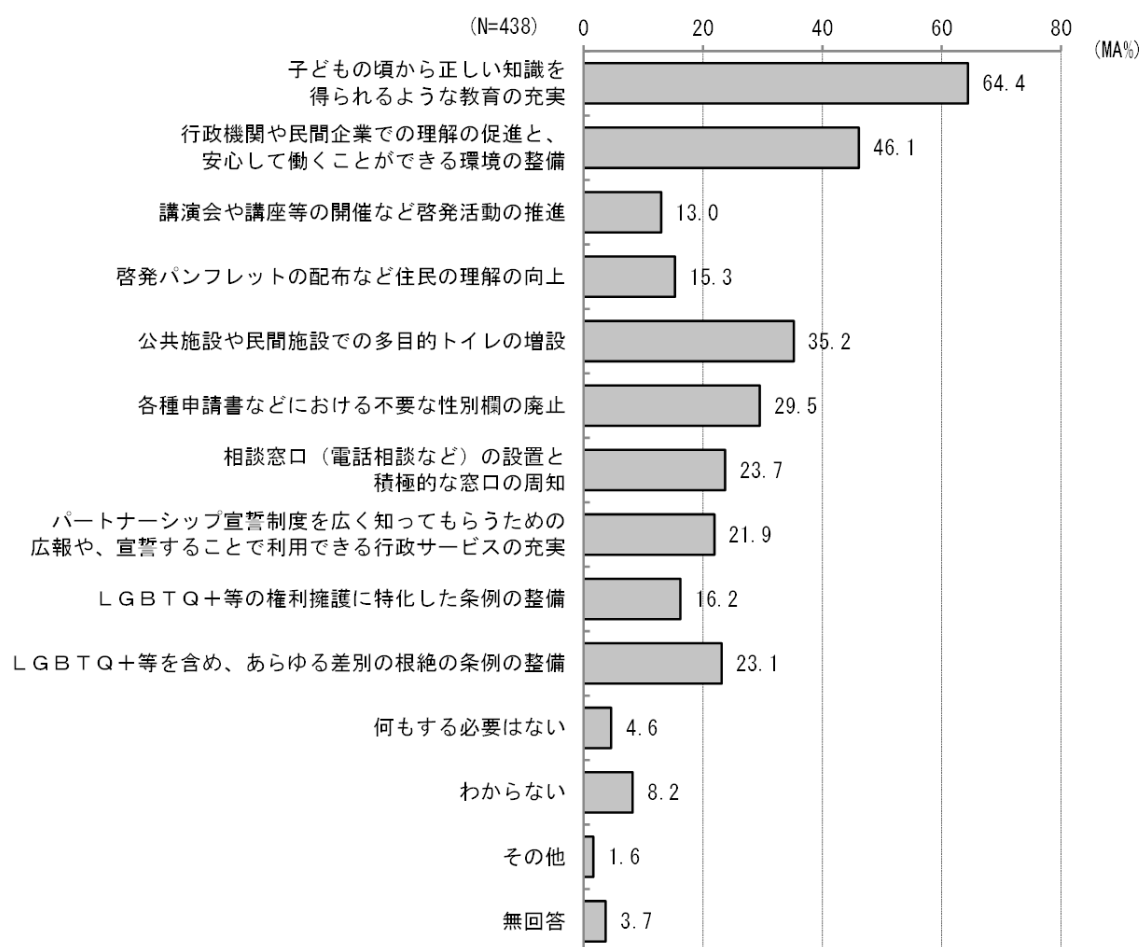


年齢別に性的マイノリティが生活しづらいと思う要因をみると、30～39歳で「家族、友人など周囲の人に相談できない」「夫婦と同様に、同性パートナーとの関係を認めてもらえない」が6割を占め、他に比べて高い。

■性的マイノリティが生活しやすい環境にするために斑鳩町が力を入れるべきこと

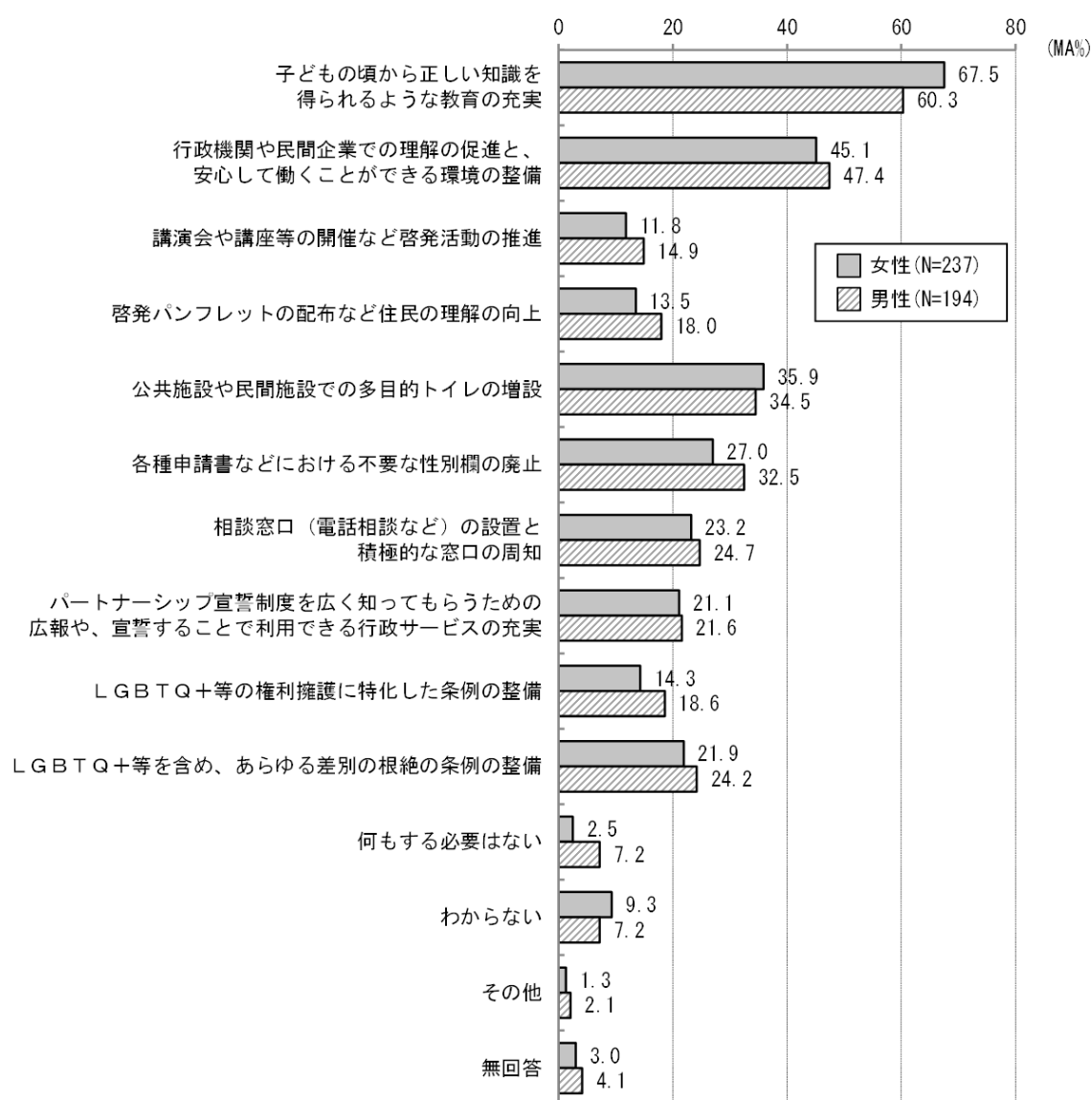
問 20-2 L G B T Q +をはじめとする性的マイノリティに関する偏見がなくなり、生活しやすい環境にするためには、今後斑鳩町はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。〈あてはまるものすべてに○〉

【図 4-8 性的マイノリティが生活しやすい環境にするために
斑鳩町が力を入れるべきこと】



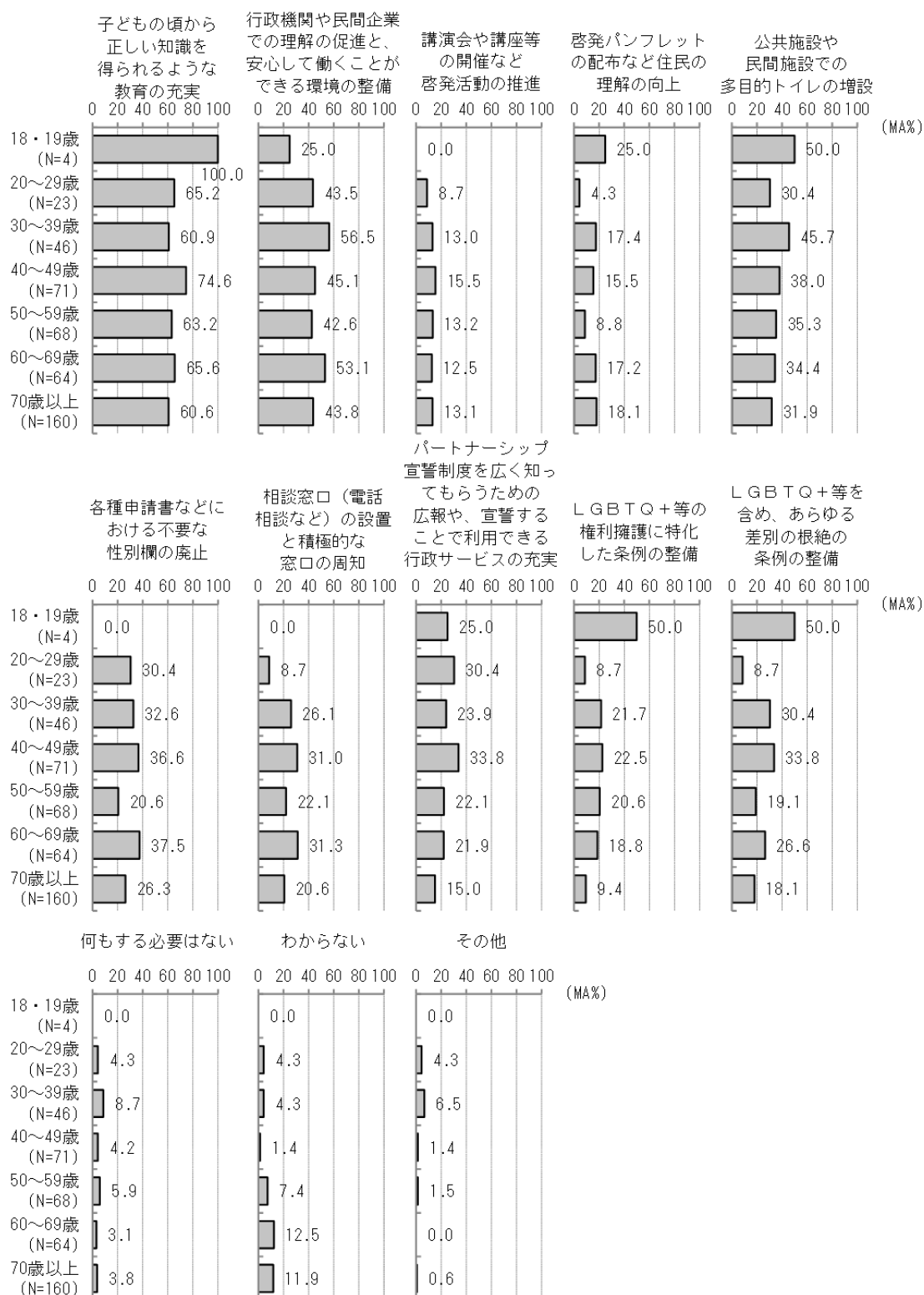
性的マイノリティが生活しやすい環境にするために斑鳩町が力を入れていくべきことは、「子どもの頃から正しい知識を得られるような教育の充実」が 64.4%と最も多く、次いで「行政機関や民間企業での理解の促進と、安心して働くことができる環境の整備」が 46.1%、「公共施設や民間施設での多目的トイレの増設」が 35.2%となっている。

【図 4-8-1 性的マイノリティが生活しやすい環境にするために
斑鳩町が力を入れるべきこと（性別）】



性別に性的マイノリティが生活しやすい環境にするために斑鳩町が力を入れるべきことをみると、男女ともに「子どもの頃から正しい知識を得られるような教育の充実」が最も多く、女性で67.5%と男性（60.3%）より7.2ポイント高くなっている。また、「各種申請書などにおける不要な性別欄の廃止」は男性で32.5%と女性（27.0%）より5.5ポイント高くなっている。

【図 4-8-2 性的マイノリティが生活しやすい環境にするために
斑鳩町が力を入れるべきこと（年齢別）】



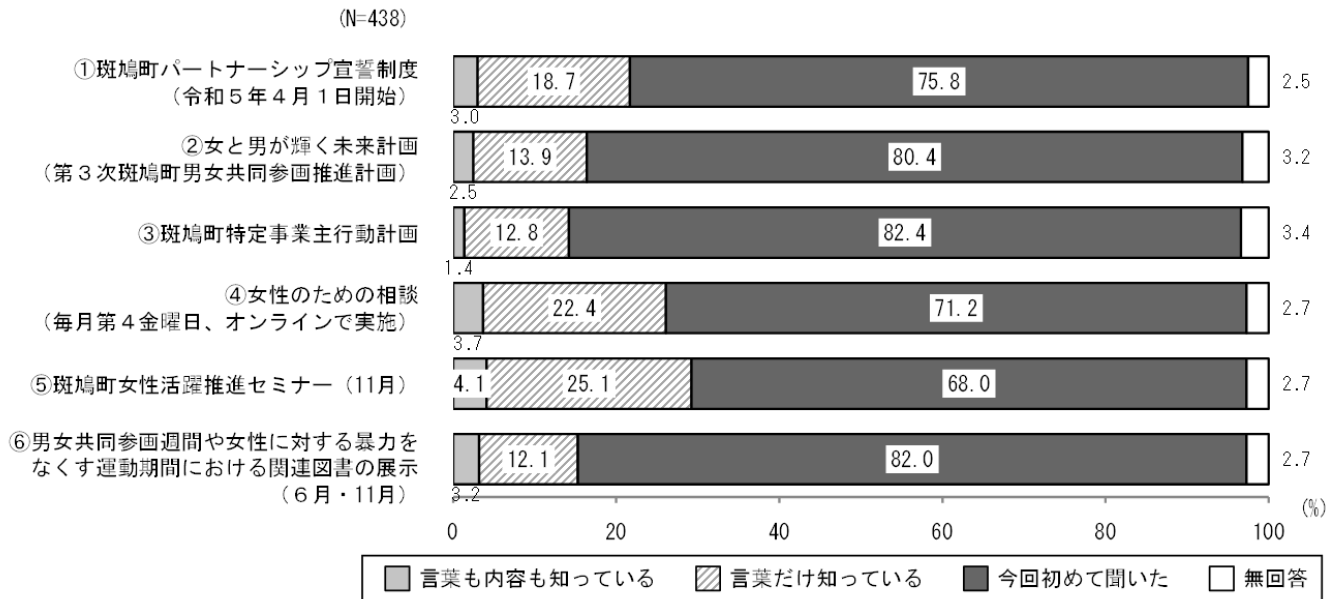
年齢別に性的マイノリティが生活しやすい環境にするために斑鳩町が力を入れるべきことをみると、いずれも「子どもの頃から正しい知識を得られるような教育の充実」が最も多く、40～49歳で74.6%となっている。

5 男女共同参画社会の実現に向けて

(1) 斑鳩町が行っている取組みの認知状況

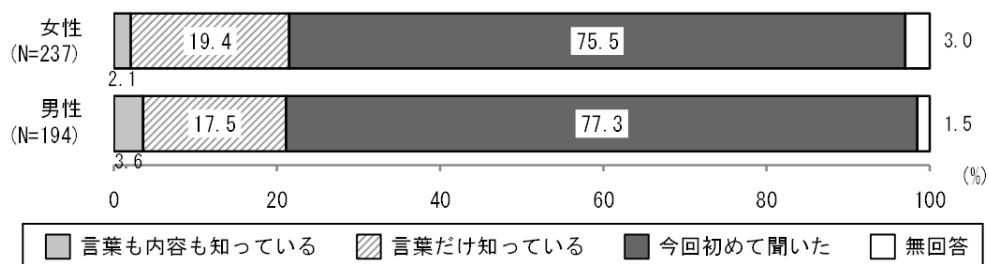
問 21 斑鳩町が行っている男女共同参画に関する以下の取組みを知っていますか。
 <①～⑥の項目ごとに○はそれぞれ1つずつ>

【図 5-1 斑鳩町が行っている取組みの認知状況】



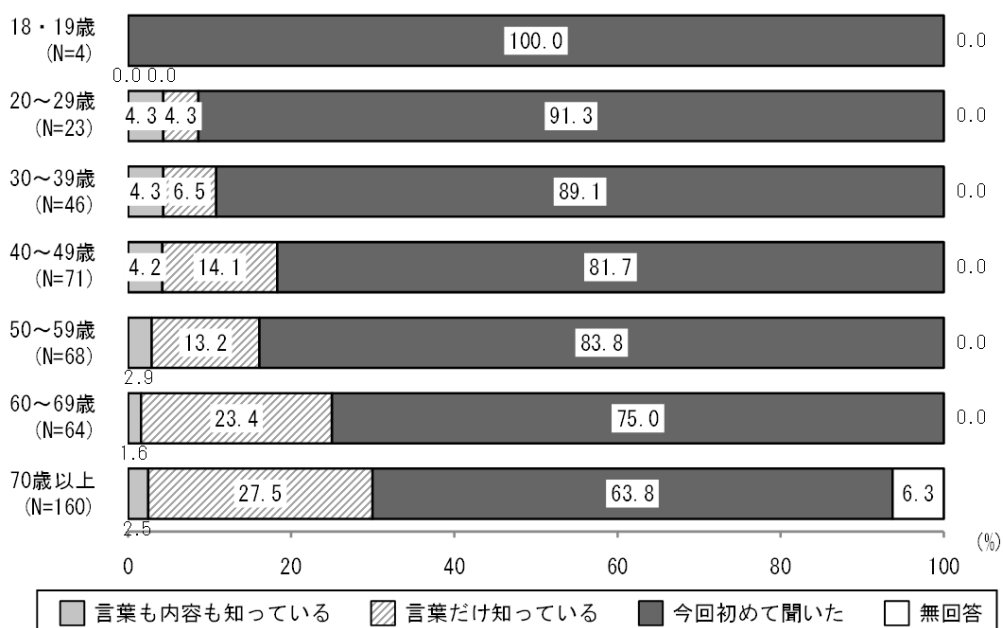
斑鳩町が行っている男女共同参画に関する取組みの認知状況をたずねたところ、いずれの項目も、「今回初めて聞いた」が6割を超え最も多い。一方、『知っている』（「言葉も内容も知っている」＋「言葉だけ知っている」）は、“⑤斑鳩町女性活躍推進セミナー（11月）”が29.2%と最も多く、次いで“④女性のための相談（毎月第4金曜日、オンラインで実施）”が26.1%、“①斑鳩町パートナーシップ宣誓制度（令和5年4月1日開始）”が21.7%となっている。

【図 5-1-1 斑鳩町が行っている取組みの認知状況
“①斑鳩町パートナーシップ宣誓制度”（性別）】



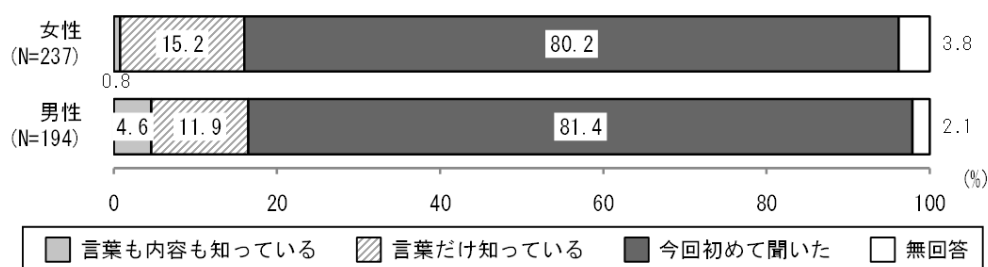
性別に“斑鳩町パートナーシップ宣誓制度”の認知状況をみると、大きな差はみられない。

【図 5-1-2 斑鳩町が行っている取組みの認知状況
“①斑鳩町パートナーシップ宣誓制度”（年齢別）】



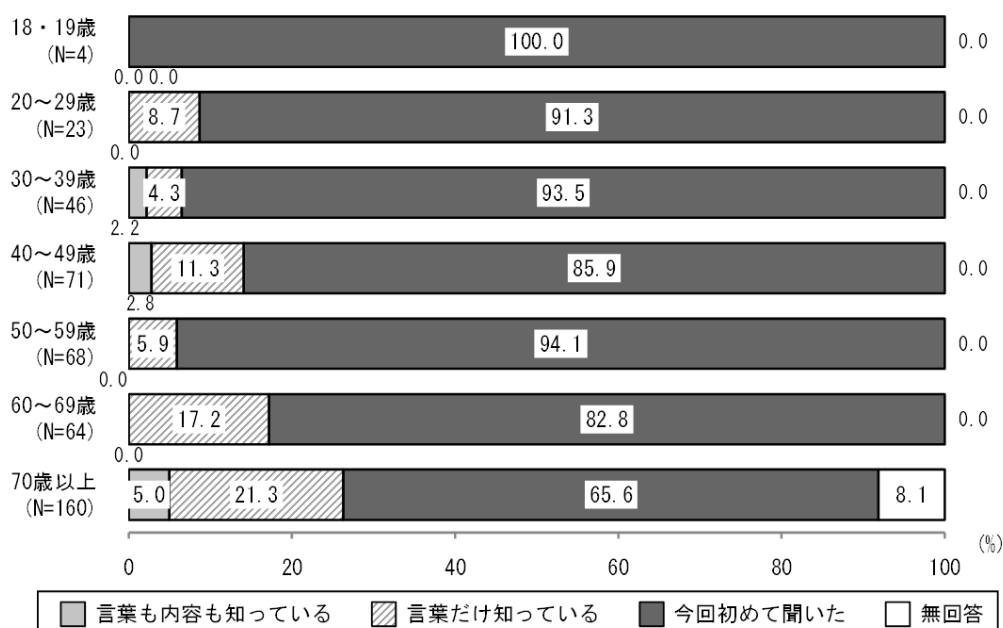
年齢別に“斑鳩町パートナーシップ宣誓制度”の認知状況をみると、年齢が上がるほど「言葉だけ知っている」が高い傾向にあり、60～69歳、70歳以上で2割を占めている。

【図 5-1-3 斑鳩町が行っている取組みの認知状況
“②女と男が輝く未来計画（第3次斑鳩町男女共同参画推進計画）”（性別）】



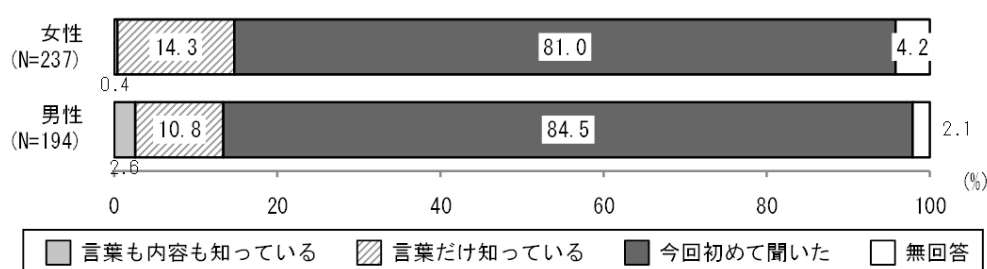
性別に“女と男が輝く未来計画（第3次斑鳩町男女共同参画推進計画）”の認知状況を見ると、大きな差はみられない。

【図 5-1-4 斑鳩町が行っている取組みの認知状況
“②女と男が輝く未来計画（第3次斑鳩町男女共同参画推進計画）”（年齢別）】



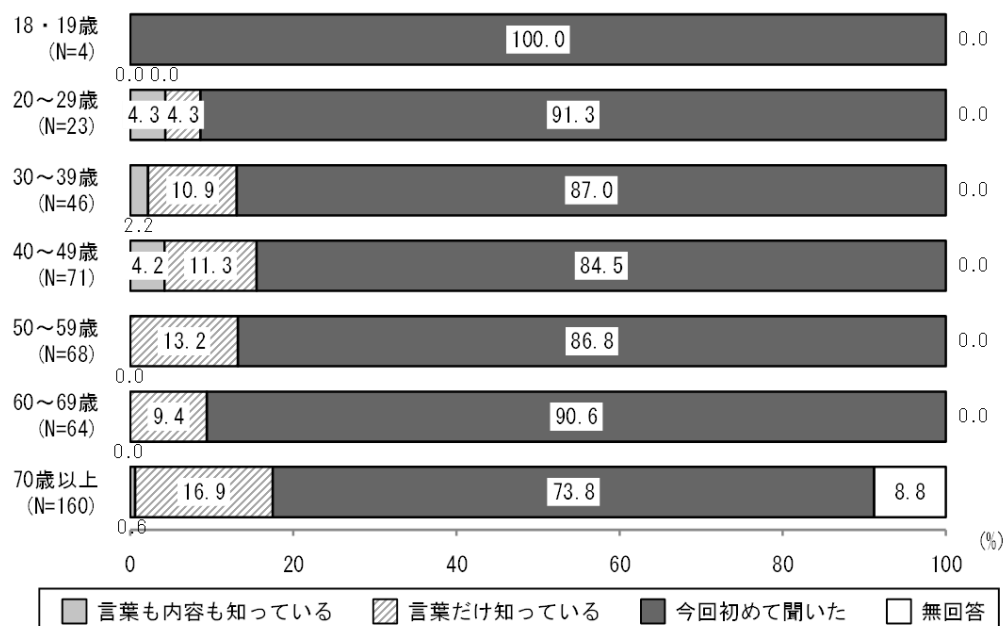
年齢別に“女と男が輝く未来計画（第3次斑鳩町男女共同参画推進計画）”の認知状況を見ると、70歳以上で『知っている』が2割を占め、他に比べて高い。

【図 5-1-5 斑鳩町が行っている取組みの認知状況
“③斑鳩町特定事業主行動計画”（性別）】



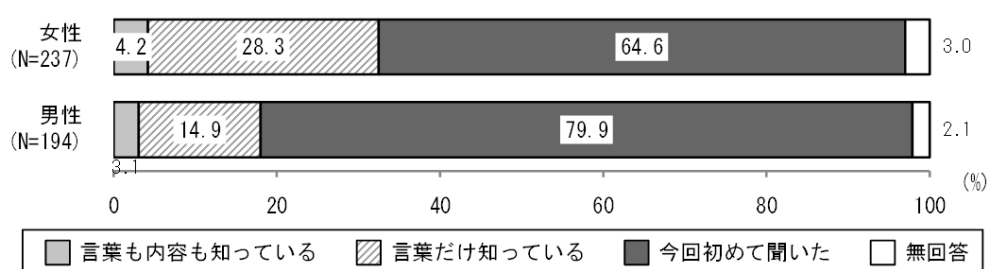
性別に“斑鳩町特定事業主行動計画”の認知状況をみると、大きな差はみられない。

【図 5-1-6 斑鳩町が行っている取組みの認知状況
“③斑鳩町特定事業主行動計画”（年齢別）】



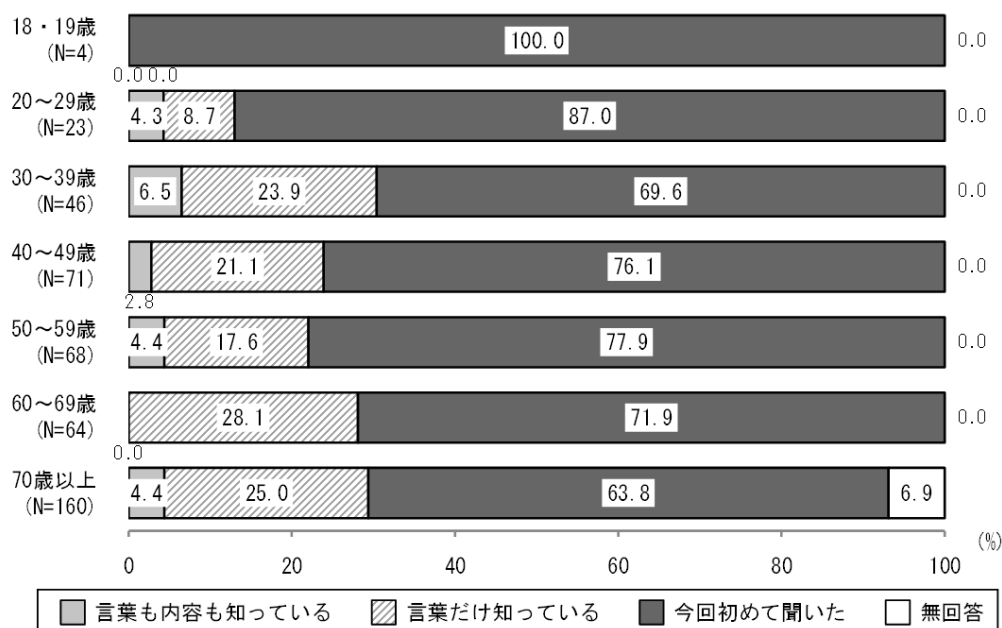
年齢別に“斑鳩町特定事業主行動計画”の認知状況をみると、30～39歳以降の各年齢層で「言葉だけ知っている」が1割前後を占めている。

【図 5-1-7 斑鳩町が行っている取組みの認知状況 “④女性のための相談”（性別）】



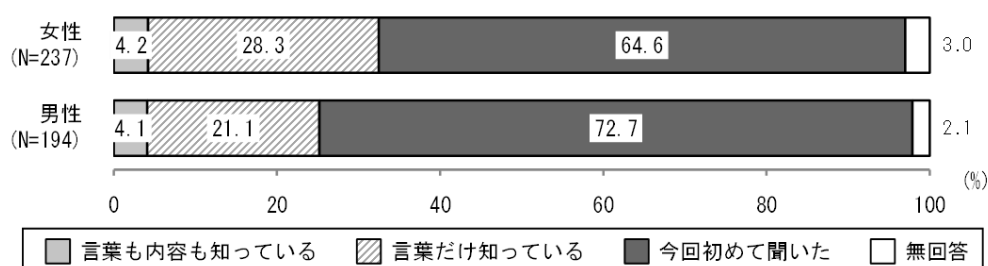
性別に“女性のための相談”の認知状況をみると、「今回初めて聞いた」は男性で79.9%と女性(64.6%)より15.3ポイント高くなっている。一方、『知っている』は女性で32.5%、男性で18.0%となっている。

【図 5-1-8 斑鳩町が行っている取組みの認知状況 “④女性のための相談”（年齢別）】



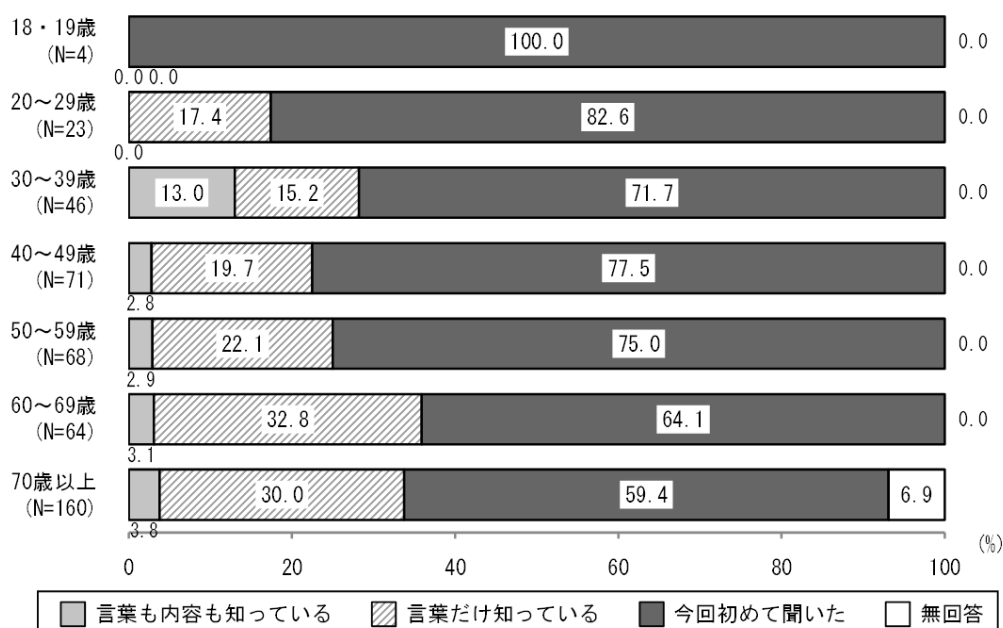
年齢別に“女性のための相談”の認知状況をみると、30～39歳以降の各年齢層で「言葉だけ知っている」が2割前後を占めている。

【図 5-1-9 斑鳩町が行っている取組みの認知状況
“⑤斑鳩町女性活躍推進セミナー”（性別）】



性別に“斑鳩町女性活躍推進セミナー”の認知状況をみると、「今回初めて聞いた」は男性で72.7%と女性（64.6%）より8.1ポイント高くなっている。一方、『知っている』は女性で32.5%、男性で25.2%となっている。

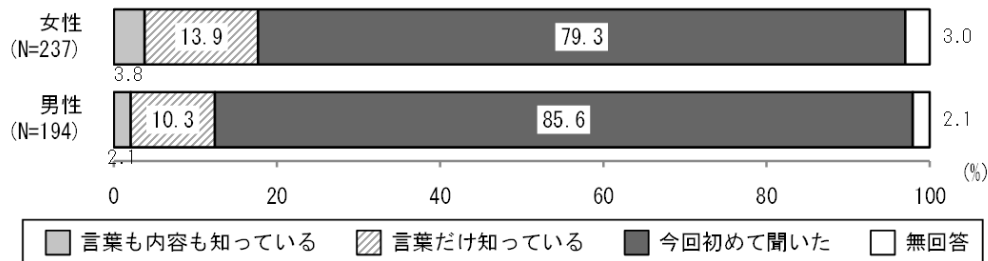
【図 5-1-10 斑鳩町が行っている取組みの認知状況
“⑤斑鳩町女性活躍推進セミナー”（年齢別）】



年齢別に“斑鳩町女性活躍推進セミナー”の認知状況をみると、30～39歳で「言葉も内容も知っている」が13.0%と他に比べて高い。また、60～69歳、70歳以上で「言葉だけ知っている」が3割を占めている。

【図 5-1-11 斑鳩町が行っている取組みの認知状況

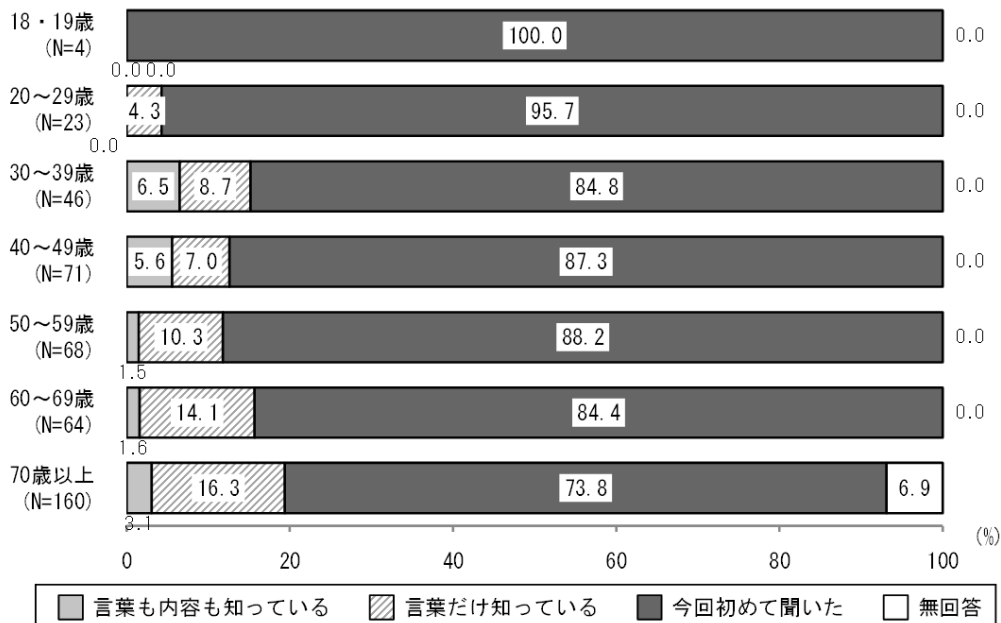
“⑥男女共同参画週間や女性に対する暴力をなくす運動期間における関連図書の展示”
(性別)】



性別に“男女共同参画週間や女性に対する暴力をなくす運動期間における関連図書の展示”の認知状況をみると、「今回初めて聞いた」は男性で85.6%と女性（79.3%）より6.3ポイント高くなっている。一方、『知っている』は女性で17.7%、男性で12.4%となっている。

【図 5-1-12 斑鳩町が行っている取組みの認知状況

“⑥男女共同参画週間や女性に対する暴力をなくす運動期間における関連図書の展示”
(年齢別)】

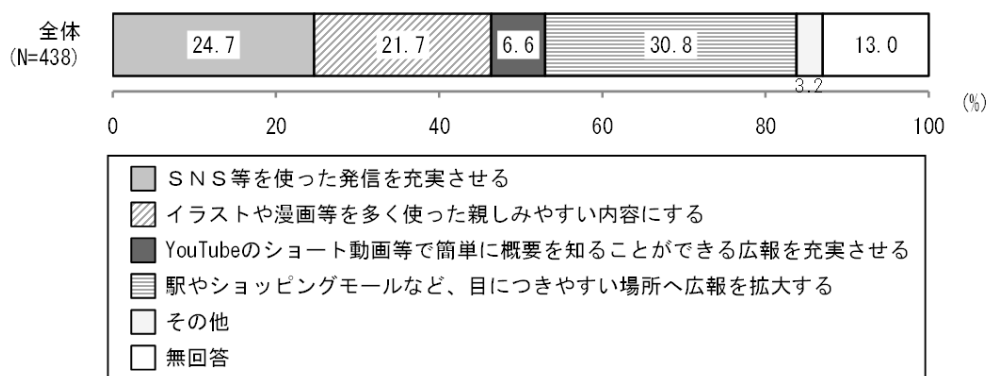


年齢別に“男女共同参画週間や女性に対する暴力をなくす運動期間における関連図書の展示”の認知状況をみると、30～39歳以降の各年齢層で『知っている』が1割を占めている。

(2) 効果的だと思う広報活動

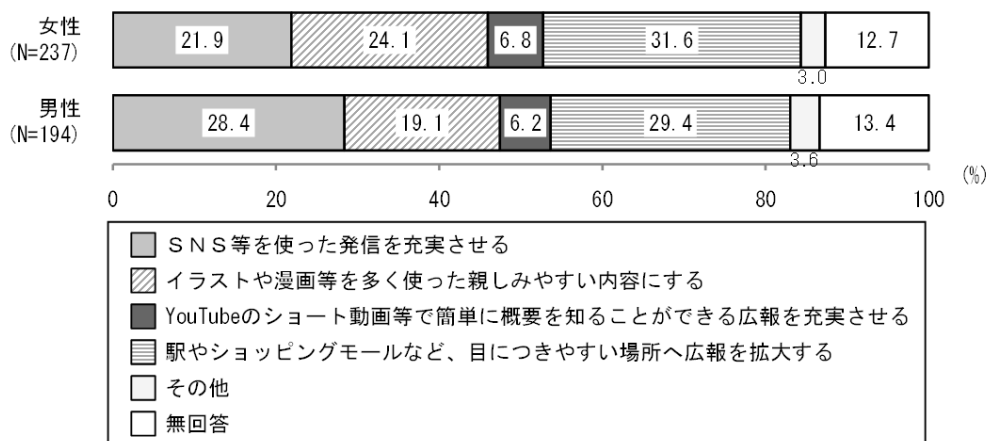
問 22 今後、よりたくさんの方に、取組みを知ってもらうために行う広報活動で、一番効果的だと思うのはどれですか。＜○は1つ＞

【図 5-2 効果的だと思う広報活動】



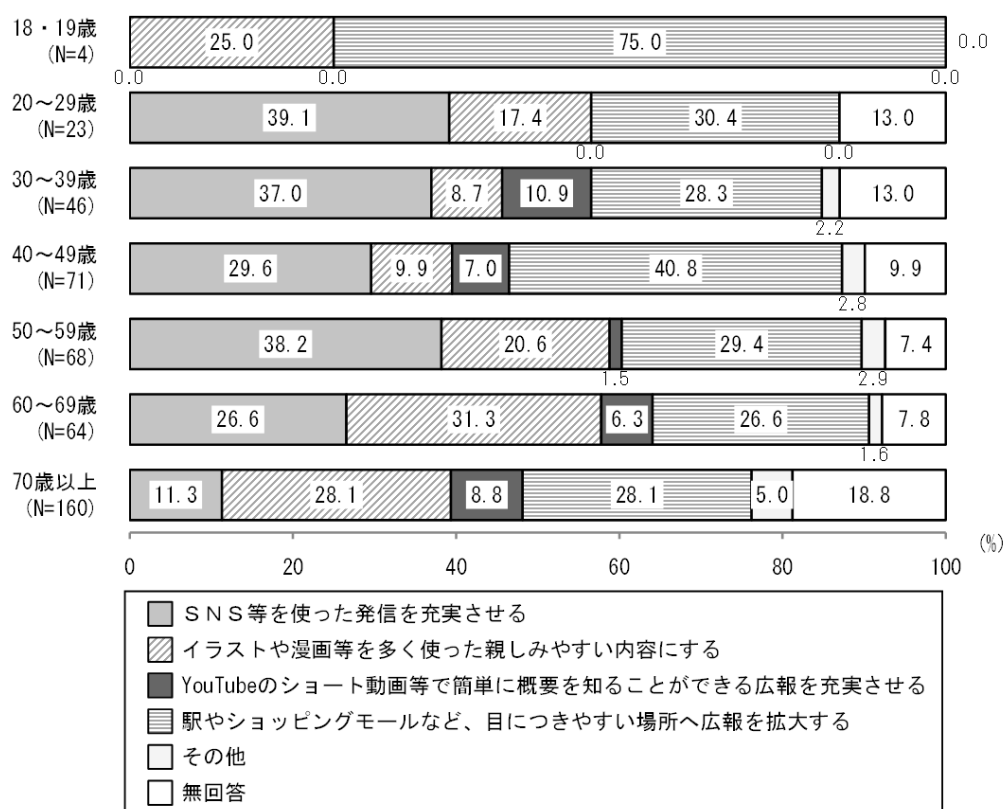
取組みを知ってもらうために効果的だと思う広報活動は、「駅やショッピングモールなど、目につきやすい場所へ広報を拡大する」が30.8%と最も多く、次いで「SNS等を使った発信を充実させる」が24.7%、「イラストや漫画等を多く使った親しみやすい内容にする」が21.7%となっている。

【図 5-2-1 効果的だと思う広報活動（性別）】



性別に効果的だと思う広報活動をみると、男女ともに「駅やショッピングモールなど、目につきやすい場所へ広報を拡大する」が最も多く、女性で31.6%、男性で29.4%となっている。次いで、女性では「イラストや漫画等を多く使った親しみやすい内容にする」(24.1%)、男性では「SNS等を使った発信を充実させる」(28.4%)となっている。

【図 5-2-2 効果的だと思う広報活動（年齢別）】

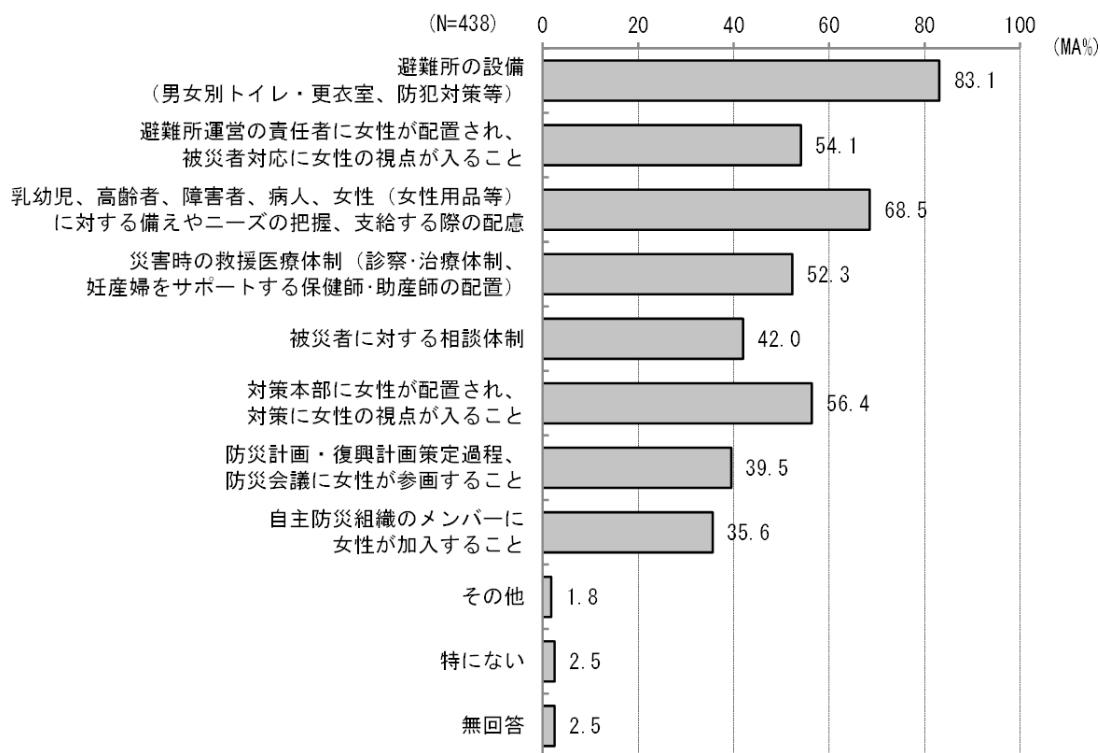


年齢別に効果的だと思う広報活動をみると、20～29歳、30～39歳、50～59歳で「SNS等を使った発信を充実させる」が3割を占め最も多い。また、40～49歳で「駅やショッピングモールなど、目につきやすい場所へ広報を拡大する」(40.8%)、60～69歳で「イラストや漫画等を多く使った親しみやすい内容にする」(31.3%)、70歳以上では「イラストや漫画等を多く使った親しみやすい内容にする」「駅やショッピングモールなど、目につきやすい場所へ広報を拡大する」(ともに28.1%)が最も多い。

(3) 防災・災害対策における男女の性別に配慮した取組みとして必要なこと

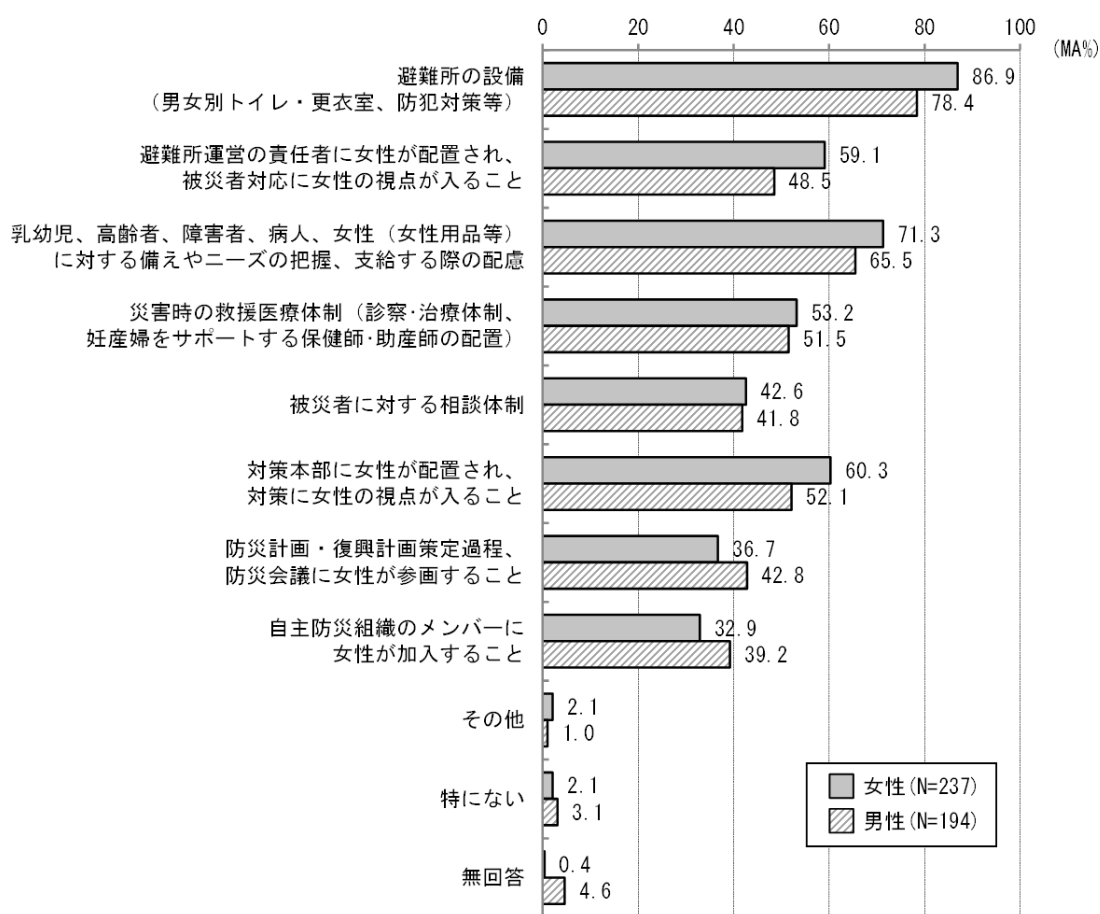
問 23 防災・災害対策において、男女の性別に配慮した取組みについて、あなたが必要と思うものは何ですか。〈あてはまるものすべてに○〉

【図 5-3 防災・災害対策における男女の性別に配慮した取組みとして必要なこと】



防災・災害対策における男女の性別に配慮した取組みとして必要なことは、「避難所の設備(男女別トイレ・更衣室、防犯対策等)」が83.1%と最も多く、次いで「乳幼児、高齢者、障害者、病人、女性(女性用品等)に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮」が68.5%となっている。また、「対策本部に女性が配置され、対策に女性の視点が入ること」「避難所運営の責任者に女性が配置され、被災者対応に女性の視点が入ること」「災害時の救援医療体制(診察・治療体制、妊産婦をサポートする保健師・助産師の配置)」が過半数を占めている。

【図 5-3-1 防災・災害対策における男女の性別に配慮した
取組みとして必要なこと（性別）】

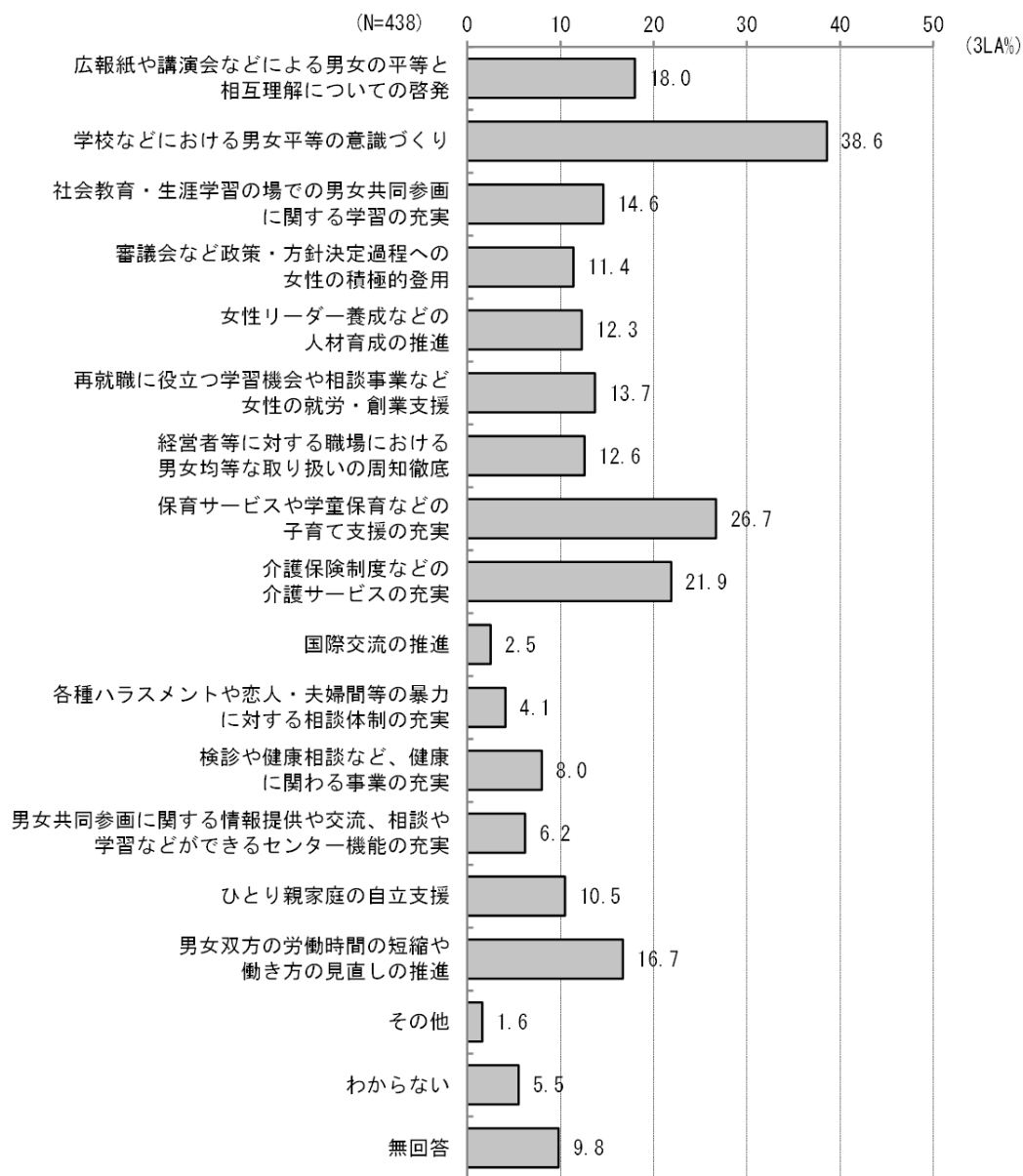


性別に防災・災害対策における男女の性別に配慮した取組みとして必要なことをみると、「避難所運営の責任者に女性が配置され、被災者対応に女性の視点が入ること」は女性で59.1%と男性（48.5%）より10.6ポイント高くなっている。一方、男性で「自主防災組織のメンバーに女性が加入すること」「防災計画・復興計画策定過程、防災会議に女性が参画すること」は女性より5ポイント以上高くなっている。

(4) 男女共同参画社会を実現するために斑鳩町が力を入れるべきこと

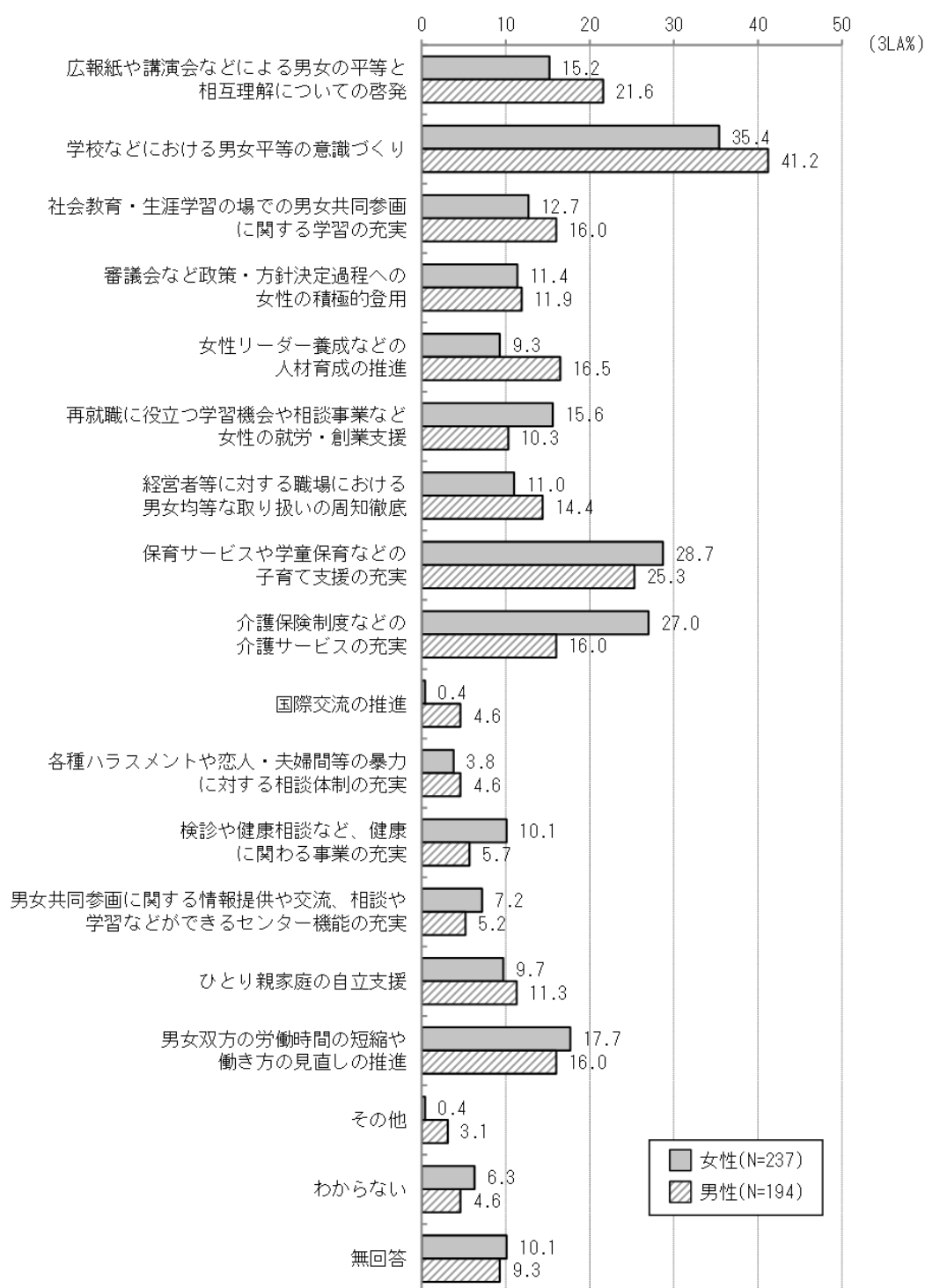
問 24 男女共同参画社会を実現するために、今後斑鳩町はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。＜○は主なもの3つまで＞

【図 5-4 男女共同参画社会を実現するために必要なこと】



男女共同参画社会を実現するために斑鳩町が力を入れるべきことは、「学校などにおける男女平等の意識づくり」が38.6%と最も多く、次いで「保育サービスや学童保育などの子育て支援の充実」が26.7%、「介護保険制度などの介護サービスの充実」が21.9%となっている。

【図 5-4-1 男女共同参画社会を実現するために必要なこと（性別）】



性別に男女共同参画社会を実現するために必要なことをみると、男女ともに上位2項目は「学校などにおける男女平等の意識づくり」「保育サービスや学童保育などの子育て支援の充実」となっている。次いで、女性では「介護保険制度などの介護サービスの充実」が27.0%と男性（16.0%）より11.0ポイント高くなっている。男性では「広報紙や講演会などによる男女の平等と相互理解についての啓発」が21.6%と女性（15.2%）より6.4ポイント高くなっている。

6 自由意見

問 25 男女共同参画社会実現のためのご意見、ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

男女共同参画実現のための意見を自由記述の形式でおたずねしたところ、56 人の方から様々なご意見をいただきました。いただいたご意見を分類した結果、意見総数は 73 件となり、最も多い意見は「男女平等、男女共同参画について」で 26 件、次いで「斑鳩町での取組、啓発・教育等について」で 14 件、「家庭・経済・社会の状況について」で 14 件となっています。

下記に、意見の内容を分類した表を掲載しています。

※意見の総数は、「特になし」などのご意見を除外した件数です。

※1つの意見で複数の項目に分類可能な場合は分類し、分類できない場合は主な項目に掲載しています。

※意見の総数は「特になし」や「わからない」などのご意見を除外した件数

<意見グループ一覧>

No.	項目名	(件)
1	男女平等、男女共同参画について	26
2	斑鳩町での取組、啓発・教育等について	14
3	家庭・経済・社会の状況について	14
4	アンケートについて	5
5	町政について	4
6	住民の意識改革について	4
7	意見反映やコミュニケーションの場について	3
8	法律や制度について	2
9	特になし	2
10	その他	1
合計(「特になし」を含む)		75
合計(「特になし」を除外)		73